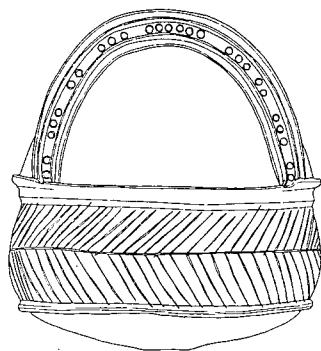


市原市文化財センター年報

昭和 62 年度



財団法人 市原市文化財センター

序

昭和62年度は、「王賜」銘鉄剣の発見によって、市原市の埋蔵文化財について市民の深い関心をあつめ、広く日本国中に強く印象づける年となりました。その反響の大きさに、国分寺台遺跡群の重要性と、その成果の整理・公開に寄せる市民と研究者のあつい期待をあらためて感じます。昭和47年以来16年間にわたる発掘調査も63年度をもって終了する予定ですが、全国的にもまれにみる規模と内容を誇る調査の本格的な整理・報告作業は、これから課題として残されております。調査を引き継いだ当センターとしても、これを機に、今後の責任の重大さに思いをいたしているところであります。

さて、当センターも設立後早くも6年目を迎えました。おかげさまで、市民のみなさまのあたたかいご支援によって事業も軌道にのり、市原市における文化財の調査・研究・普及活動を担う組織として市民のあいだに次第に定着しつつあるものと自負しております。しかしながら、ご承知のように、埋蔵文化財を取り巻く今日の状況には依然厳しいものがあります。今後とも、みなさまのご批判とご指導を仰ぎつつ、文化財保護の原則に立ち帰り、あわせて組織の活性化に努めるべく自戒しているところであります。

62年度には18遺跡の発掘調査を実施いたしました。なかでも、国分寺台地区の神門三号墳は五号墳・四号墳につぐ古式古墳であり、同じ群の中で古墳の出現過程を追究できる貴重な事例として注目をあつめました。また、永田・不入窯跡では、千葉県における古代窯業生産を考えるうえで欠くことのできない資料を得ることができました。本年報にはこれらの調査概要をとりまとめましたので、成果の中間報告として広く活用されることを念じております。

恒例の遺跡発表会も3回目を迎え、去る3月6日に五井会館で開催いたしました。今年度は「王賜」銘鉄剣の発見をかけて、午後の特別講演には、鉄剣の調査・分析をお願いした国立歴史民俗博物館の三先生をお招きして、銘文鉄剣の意義と問題点についてお話しいただきました。市民の要望にこたえる時宜を得た内容に、300名を超える熱心な市民と研究者の参加をえて、これまでにない盛況のうちに終えることができました。

終わりに、日ごろ当センターに対してご指導とご協力を賜っております千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対して、あつく御礼申し上げます。

平成元年3月31日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 星野 一郎

目 次

序

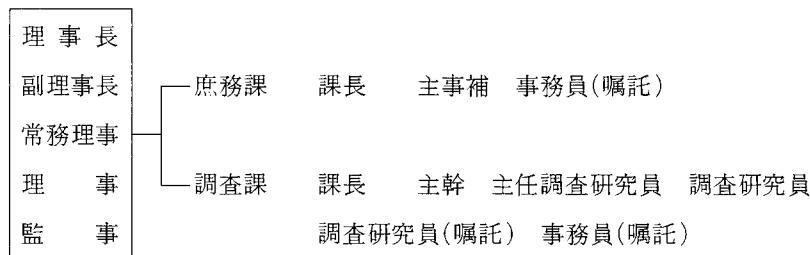
I	昭和62年度の機構	1
II	昭和62年度事業概要	2
III	昭和62年度調査概要	6
1.	白船城跡	8
2.	祇園原瓦窯跡	9
3.	潤井戸・天王台遺跡	11
4.	菊間・向原遺跡	13
5.	能満・東千草山遺跡	14
6.	東四辻遺跡	16
7.	文作遺跡	17
8.	鯉飼遺跡	19
9.	神門三号墳	23
10.	諏訪台遺跡	30
11.	西広貝塚	32
12.	姉崎・東原遺跡	37
13.	高坂・棒ヶ谷遺跡	41
14.	北旭台遺跡	44
15.	中高根・南名山遺跡	46
16.	吉野1号墳、南岩崎・吉野遺跡	48
17.	奉免・上原台遺跡	50
18.	鶴舞・広小路遺跡	53
19.	永田窯跡	54
IV	昭和62年度受贈図書一覧	55

I 昭和62年度の機構

昭和62年度の市原市文化財センターの機構は、役員・職員で構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、監事をもって構成され、職員は、事務職員6名(内派遣職員1名)・技術職員14名(内派遣職員12名)であり、その組織及び氏名などは下表のとおりである。

(1) 組 織

役 員 職 員



(2) 役 員

職名	役職名	氏名	備考
理事長	教育委員会教育長	星野 一郎	
副理事長	教育委員会指導部長	大野 皎	
常務理事	専 任	岩見 一民	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺村 光晴	
理 事	姉崎神社宮司	海上 信久	
理 事	市企画部長	松崎 良一	62.6.14まで
理 事	市企画部長	飯山 英夫	62.6.15より

職名	役職名	氏名	備考
理 事	市総務部長	宮崎 芳雄	62.6.15より
理 事	市都市部長	地引 希壹	
理 事	市総務部財政課長	松下 隆	62.6.14まで
理 事	市総務部財政課長	安藤 隆一	62.6.15より
監 事	市会計課長	白鳥 一夫	62.6.14まで
監 事	市会計課長	元吉 末喜	62.6.15より
監 事	教育委員会総務課長	斎藤 崇雄	

(3) 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田丸 萬富
庶務課	主 事 補	大鐘 光江
庶務課	事務員(嘱託)	秋田 晴美
庶務課	事務員(嘱託)	石渡 あゆみ
調査課	課 長	清藤 一順
調査課	主 幹	石田 広美
調査課	主 幹	加藤 正信
調査課	主任調査研究員	宮本 敬一
調査課	主任調査研究員	米田 耕之助
調査課	調査研究員	田中 清美

所 属	職 名	氏 名
調査課	調査研究員	大村 直
調査課	調査研究員	浅利 幸一
調査課	調査研究員	近藤 敏
調査課	調査研究員	高橋 康男
調査課	調査研究員	田所 真
調査課	調査研究員	木對 和紀
調査課	調査研究員(嘱託)	田中新史
調査課	調査研究員(嘱託)	半田 堅三
調査課	事務員(嘱託)	高浦 貞子
調査課	調査補助員(嘱託)	田中裕子

II 昭和62年度事業概要

(1) 理事会の開催

① 第1回理事会 昭和62年5月28日

議案第1号 昭和61事業年度事業報告について

議案第2号 昭和61事業年度収入支出決算について

② 第2回理事会 昭和62年12月1日

議案第1号 財政調整基金の設置、管理及び処分に関する規定の制定について

議案第2号 財務規定の一部を改正する規定について

議案第3号 昭和62事業年度事業計画の変更について

議案第4号 昭和62事業年度補正予算(第1号)について

③ 第3回理事会 昭和63年3月29日

議案第1号 昭和62事業年度事業計画の変更について

議案第2号 昭和62事業年度補正予算(第2号)について

議案第3号 昭和63事業年度事業計画について

議案第4号 昭和63事業年度収入支出予算について

(2) 会計監査

昭和62事業年度の会計監査は、昭和63年5月27日財団法人市原市文化財センター事務所において、河野徳三、元吉末喜両監事により実施された。

(3) 昭和62年事業年度受託事業

(単位:円)

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡 名称及び種別		面積・数量	事業内容	契約 年月日	終了 年月日	受託料 清算金額
1	新規	市道6018号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	南名山	包藏地	780m ² 468m ²	確認調査 本調査	62.10.14	63.3.31	4,963,000
2	新規	都市計画道路草刈・西広線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	居鞍	古墳・包藏地	古墳3基 2,000m ²	本調査	63.1.13 (63.6.30)	63.3.31	8,922,335 調査終了)
3	新規	文化施設への進入道路建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	東千草山	包藏地	3,500m ²	本調査	62.4.1	63.3.31	18,500,000
4	継続	国分寺台土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(1)	市原市	諫訪台	古墳・集落跡	古墳7基 13,100m ²				
5	継続	国分寺台土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(2)	市原市	根田	古墳・集落跡	古墳3基 2,000m ²		62.4.1 (63.9.30)	63.3.31	151,658,014 調査終了)

(単位:円)

番号	継続又は新規	事業名	委託者	遺跡 名称及び種別		面積・数量	事業内容	契約年月日	終了年月日	受託料 清算金額
6	継続	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(3)	市原市	西広貝塚・集落跡		2,000m ²				
7	継続	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(4)	市原市	神門3号墳古墳・集落跡		古墳1基 2,500m ²				
8-a 8-b	継続	農業基盤整備事業に係る重要遺跡緊急調査	千葉県 市原市	永田不入須恵器窯跡		16,000m ²	確認調査 整理	62.10.31	63.3.31	34,000,000
9-a 9-b	継続	草地造成に係る重要遺跡緊急調査 (社)千葉県農業開発公社市原市	文作	集落跡	12,000m ²	本調査	62.6.1	63.3.31	56,000,000	
10	新規	市内遺跡群調査に伴う埋蔵文化財調査	市原市	鶴舞広小路北旭台吉野一号墳	包蔵地	700m ²	確認調査 本調査	62.6.1	63.3.31	8,922,335
11	新規	国分寺台中央公園建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	祇園原瓦窯跡	包蔵地	280m ²	本調査	63.2.29	63.3.31	2,300,000
12	継続	市原ゴルフ俱楽部増設に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食品株式会社	上原台	古墳・集落跡	16,031m ²	本調査	62.4.1	63.3.31	25,003,400
13	継続	帝京技術科学大学関連道路建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	天王台中潤ヶ広	古墳・建物跡	古墳1基 1,900m ²	本調査 整理・報告	63.1.29	63.3.31	12,000,000
14	継続	市道166号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	鳥堀豆四辻	貝塚・集落跡	1,650m ² 460m ²	整理 確認調査 本調査	62.10.14	63.3.31	8,859,000
15	継続	市道2135号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	大道	炉穴群	6,100m ²	整理・報告	62.4.1	63.3.31	7,369,000
16	継続	都市計画道路君塚・小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	山田橋表通	古代道跡 集落跡	5,000m ²	整理	62.4.1	63.3.31	11,504,000
17	継続	市道7253号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	大和田横穴	須恵器窯跡 古墳・横穴		整理・報告	62.10.1	63.3.25	4,700,000
18	継続	加茂支所移転改築事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市	皿郷田茂古	墳	1,575m ²	整理・報告	62.4.1	63.3.31	2,000,000
19	継続	文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	千草山	集落跡	17,400m ²	整理	62.7.1	63.3.31	12,000,000
20	継続	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(5)	市原市	神門古墳群ほか	古墳・集落跡		基礎整理	62.4.1	63.3.31	25,000,000
21	継続	模型飛行場造成事業に伴う埋蔵文化財調査	双葉電子工業株式会社	勝間鯉飼	包蔵地	5,600m ²	確認調査	62.4.16	63.3.31	2,197,258
22	新規	不特定遺跡発掘調査(1)	市原市	姉崎東原高坂棒ヶ谷ほか	集落跡・古墳	2,000m ²	確認調査	62.10.1	63.3.31	2,000,000
23	新規	宅地造成(姉崎地区)に係る埋蔵文化財調査	株式会社新昭和住宅	姉崎東原	集落跡・古墳	古墳1基 650m ²	本調査	62.10.16	63.3.31	2,656,795
24	新規	宅地造成(若宮地区)に係る埋蔵文化財調査	野城友三	白船城跡	城跡	330m ²	本調査	63.2.1	63.3.31	294,953
25	新規	不特定遺跡発掘調査(2)	市原市	大庭弁天台	包蔵地	359m ²	確認調査	63.2.24	63.3.31	1,750,000

(4) 研究事業

① 職員・調査補助員研修会

昭和63年2月23日、25日 於 国立歴史民俗博物館

② 外部研修への参加

埋蔵文化財発掘技術者専門研修「保存科学基礎課程」

昭和62年4月13日～昭和62年4月28日

於 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

市町村埋蔵文化財担当者講習会

昭和62年5月12日～昭和62年5月14日

昭和62年7月7日～昭和62年7月9日

於 千葉市

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修

昭和62年9月17日～昭和62年9月18日

於 大阪市

関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会

昭和62年11月25日～昭和62年11月26日

於 栃木県鹿沼市及び国分寺町

(5) 印刷物の刊行

①報告書

「皿郷田茂遺跡——第2次——」

「中潤ヶ広遺跡・天王台遺跡」

「今富大道遺跡」

「大和田遺跡」

(6) 普及活動

①遺跡見学会

昭和62年6月6日 於 西広貝塚

昭和62年11月28日 於 神門三号墳

②遺跡発表会

昭和63年3月6日 於 五井会館

昭和62年度発掘調査成果の発表 担当職員

特別講演

「稻荷台1号墳出土の『玉賜』銘鉄劍について」

国立歴史民俗博物館 教授 白石 太一郎先生

助教授 平川 南 先生

助教授 永嶋 正春先生

③印刷物の刊行

「私たちの文化財」 8~11号

「王賜」銘鉄劍一市原市稻荷台1号墳

市原市文化財センター年報 昭和61年度

報告書の刊行及び頒布



西広貝塚遺跡見学会

(7) 昭和62年度決算報告

収 入

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	予算現額に 比べ決算額 の増減	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款)事 業 収 益	460,749,000	△ 59,393,000	401,356,000	402,816,812	- 1,460,812	
(項)事業収益	459,691,000	△ 60,818,000	398,873,000	399,154,205	281,205	
(項)事業外収益	1,057,000	1,426,000	2,483,000	2,506,678	23,678	
(項)雑 収 益	1,000	△ 1,000	0	1,155,929	1,155,929	
合 計	460,749,000	△ 59,393,000	401,356,000	402,816,812	- 1,460,812	

支 出

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	不 用 額	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款)事 業 費	460,749,000	△ 59,393,000	401,356,000	402,816,812	△ 1,460,812	
(項)受託事業費	424,052,000	△ 55,154,000	368,898,000	368,613,555	284,445	
(項)研究事業費	4,035,000	△ 1,337,000	2,698,000	2,693,497	4,503	
(項)普及事業費	5,378,000	△ 2,154,000	3,224,000	3,213,211	10,789	
(項)一般管理費	25,284,000	1,252,000	26,536,000	28,296,549	△ 1,760,549	
(項)予 備 費	2,000,000	△ 2,000,000	0	-	-	
合 計	460,749,000	△ 59,393,000	401,356,000	402,816,812	△ 1,460,812	

III. 昭和62年度調査概要

昭和62年度の事業は、発掘調査、整理事業を含め25事業を実施した。事業の内訳としては、ひとつの事業で確認調査から整理事業まで実施したものもあり、実施した事業以上の数になるが、発掘調査が22事業で、このうち確認調査が7事業、本調査が15事業である。整理事業は、9事業である。発掘調査した遺跡の分布をみると、依然として市の北部地域が多く、開発行為の活発さを示しているといえる。

確認調査或は本調査によって得られた成果は数多く、市原市地域の歴史を考えるうえで欠かせぬ資料である。個々の遺跡の成果については、後節において報告されるので、ここでは幾つかの調査の成果の概要を記すこととしたい。

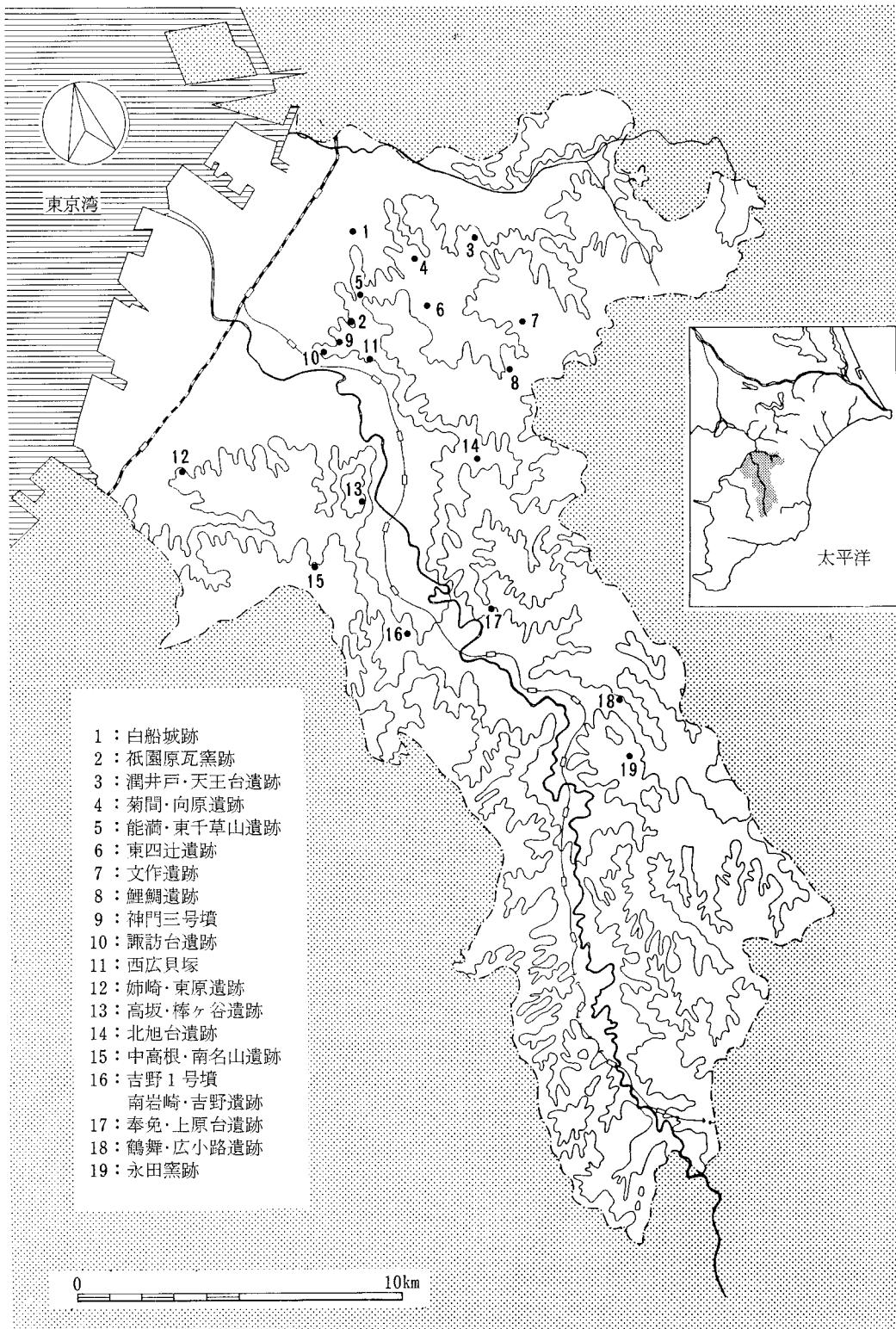
先土器時代については、中高根・南名山遺跡において第II B・B層から礫・薄片が出土しているが、残念ながら良好な遺構・遺物等を検出することはできなかった。

縄文時代では、西広貝塚の調査が実施されている。市原市内でも有数の大形貝塚である西広貝塚は、今年度の調査で第7次を数えるが、今回の調査をもって終了した。縄文時代後期から晩期の環状貝塚である本貝塚は、今までに数多くの遺構・遺物が出土している。今回の調査は2,000m²について実施されたが、これまでと同様に多量の貝、シカ・イノシシ・クジラ等の動物の骨、タイ・スズキ等の魚骨の他、埋葬された13体の人骨が出土している。遺構としては、住居跡10軒・貯蔵穴多数が検出されている。このほか、諏訪台遺跡では早期の炉穴群、前期の住居跡等が検出されており、中でも前期の住居跡は、これまでに調査されたものも含めると約50軒となり、かなりの規模の集落であったことが判明した。

弥生時代では、姉崎・東原遺跡において中期から後期にかけての住居跡が5軒以上検出されており、遺構の分布密度の濃い遺跡であることが窺える。このほか、諏訪台遺跡、南岩崎・吉野遺跡からは方形周溝墓が検出され、潤井戸・天王台遺跡において木棺墓が検出されており、貴重な資料を得ることができた。

古墳時代では、神門三号墳の調査が実施され、埋葬施設からは、短剣・鎗・鉄鏃等の武器のほか、ガラス玉・管玉等の装身具等が出土している。また、墳丘下からは弥生時代後期から古墳出現の時期にかけての住居跡10軒が検出されており、古墳の出現の時期に係わる研究において貴重な資料であり、全国的に注目されている。

古墳時代から奈良・平安時代では、葉木・文作遺跡において、古墳時代後期から平安時代に至る集落跡が調査され、集落の変遷、住居跡の建替え等について多大な成果が得られた。また永田窯跡では、確認調査により新たな窯跡が確認され、不入窯跡と併せ25基前後の窯の操業が想定されている。



昭和62年度調査遺跡位置図

1. 白船城跡(2次)

事業名 宅地造成(若宮地区)に係わる埋蔵文化財調査

所在地 市原市山木字城の内1241番2

調査期間 昭和63年2月3日～昭和63年2月9日

調査面積 359m²

調査概要 白船城跡遺跡は、市原台地北東辺の標高約20m程の独立丘上に位置している。北方5kmには千葉市小弓城跡が存在し、北東方向には戦国時代の甲冑12両を保持する飯香岡八幡宮がある。調査区は独立丘全体が城郭である白船城の3つに連結した主郭部の一番北東側郭の一部にあたる。遺構は土壙状遺構5基、溝1条が検出されており、溝は主郭内部の区切る役割があると考えられる。出土遺物は少なく、土師器、陶器片が若干検出された。白船城は、郭の配置、構造等から16世紀に完成した姿となったと考えられ、歴史的環境に伝承等も残り、興味深い遺跡となっている。

(近藤 敏)



白船城跡遺構分布図

2. 祇園原瓦窯跡

事業名 国分寺中央公園造成工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市根田字祇園原天王前481他

調査期間 昭和63年3月1日～昭和63年3月31日

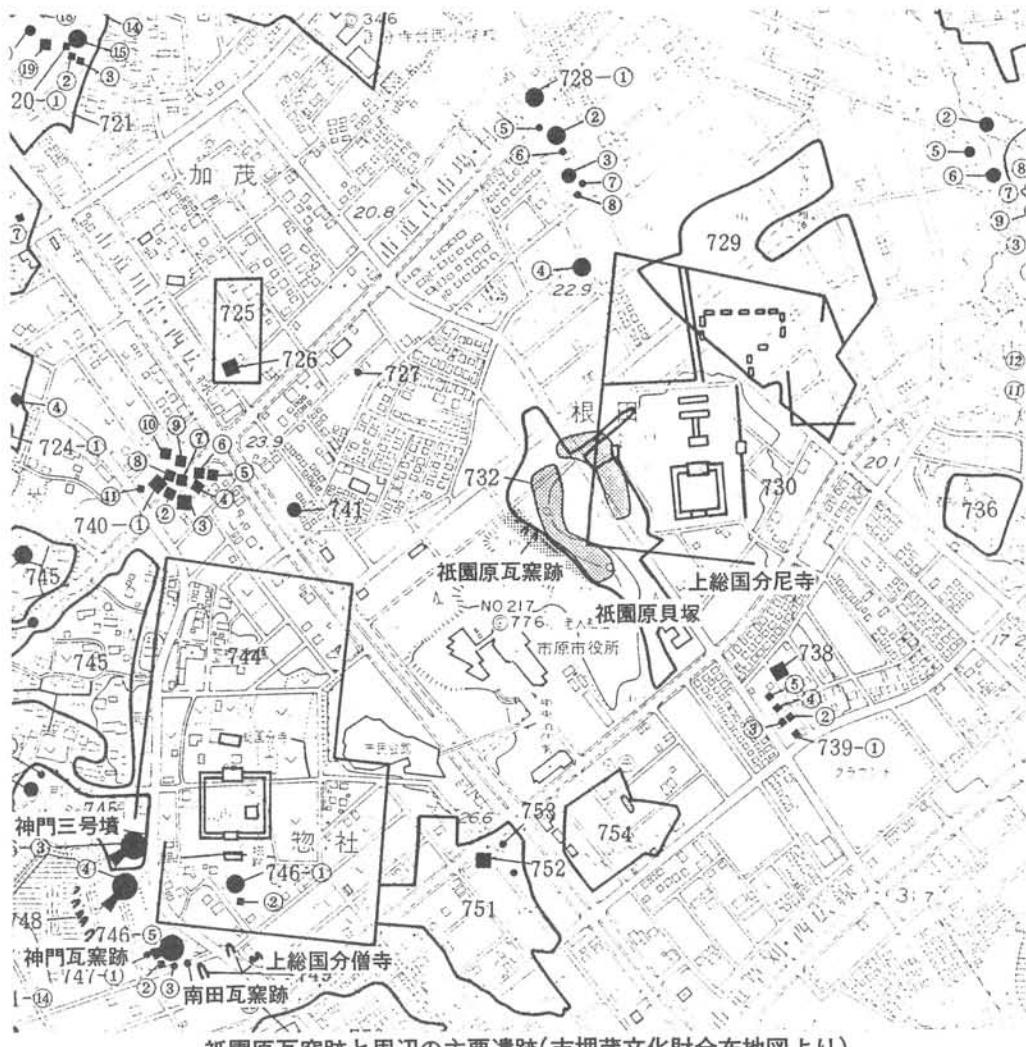
調査面積 2,000m²のうち200m²

調査概要 祇園原瓦窯は、上総国分尼寺南西の小支谷の南向き斜面に位置する。かつて、祇園原貝塚の調査に際し、一基調査され、その後埋め戻され現在に至っている。市役所庁舎の東側にもあたる、この瓦窯の周辺は、公園用地として確保され、宅地化の波を免れ、国分寺台の中では、旧状を留めている数少ない部分であった。今回の調査は、公園造成に伴い、前述の瓦窯以外の瓦窯の存在の有無を確認することに主眼を置いたものである。また、祇園原貝塚の縁辺にもあたるところから、貝層等の検出も予想された。ただし、時期的に不明である台地整形により斜面が二段ないし三段に造り出されており、遺構の遺存状況は必ずしも良好でないであろうことも予想された。

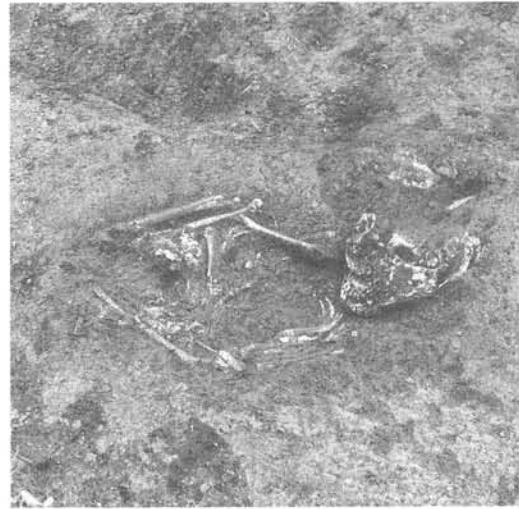
調査は、上述の台地整形により、造り出された段状部分の平坦部にトレーナーを設定して進めた。その結果、新たな窯跡は検出されなかつたが、幼児骨の埋葬址が検出された。遺物は伴つておらず、時期不明であるが、祇園原貝塚と一体と見るのが妥当と思われる。また、この幼児骨の周辺には、赤色顔料の粒子状のものが散っているのが認められた。他には溝状遺構、土坑等が検出された。遺物は縄文土器、瓦類がほとんどであった。溝の覆土中および、表土中から貝類が検出されたが、いずれも上述の台地整形等による搅乱の結果によるものと判断され、祇園原貝塚の貝層は本区域には及んでいないことが明らかとなった。

限られた部分の調査であったが、上述のような成果を得ることができた。幼児埋葬については、祇園原貝塚の本体からやや離れた斜面において単独で検出されている点に留意したい。祇園原貝塚の全体的な内容との関連性については今後の課題として残されるが、少なくとも斜面部を内包する形で領域が確保されていたことが伺える。瓦窯については、今回の調査では新発見はなく、既知の一基のみの操業としておかざるを得ず、「群」を形成するほどの継続的な操業の必要がなかったということを意味するものと解しておきたい。

(高橋 康男)



祇園原瓦窯跡と周辺の主要遺跡(市埋蔵文化財分布地図より)



幼児骨出土状況

3. 潤井戸・天王台遺跡

事業名 帝京技術科学大学関連道路(一般道路)建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市潤井戸字天王台2270-2番地他

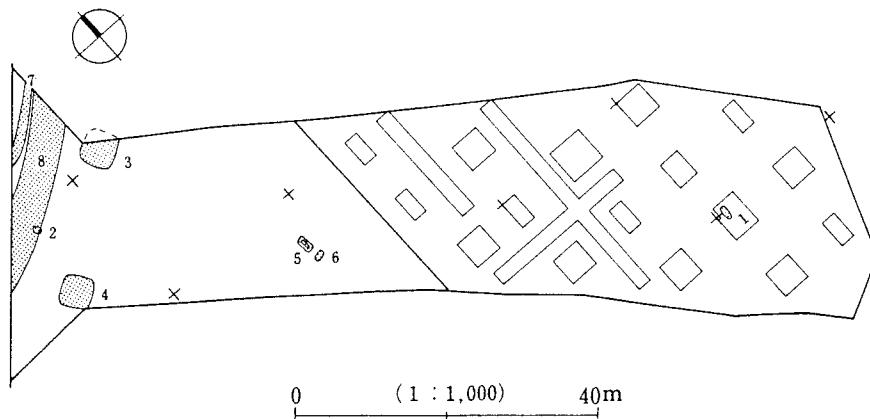
調査面積 2,500m²

調査期間 昭和63年2月1日～昭和63年3月31日(本調査)

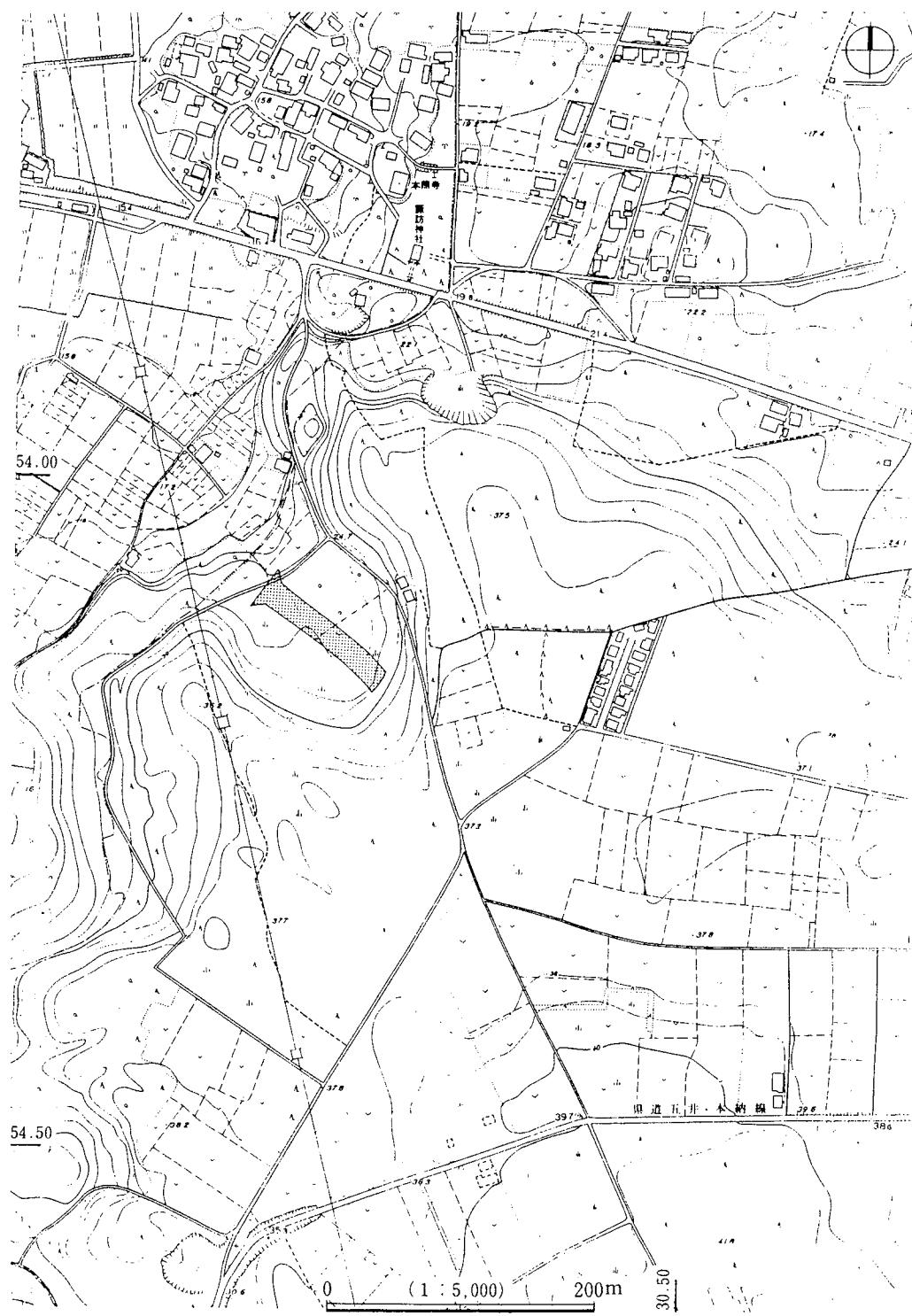
調査概要 遺跡は神崎川中流域に面する標高24m前後の谷津の最奥部の平坦面に位置し、当谷津を挟む標高37m前後の舌状台地上には、肉眼でも顕著な分布を有する居鞍古墳群や潤井戸天王台古墳群が存在している。今回の調査によって検出された遺構は以下のとおりであるが、隣接する地域内においては弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての土器が散布しており、周辺に同時期の住居跡等が存在する可能性が高い。この場合今回の対象地域東側には該当期の住居跡の検出が認められなかったことや、遺跡の立地条件を考えると、今回検出された2軒をほぼ中心として、半円状に集落が展開しているものと考えられる。また谷津最奥部に位置する為、集落として利用される面積にもおのずから限度があり、最大でも5～6軒程度の小集落跡であろうと推定される。

(木野 和紀)

遺構No.	性 格	備 考	遺構No.	性 格	備 考
1	土 墓	縄文時代	5	木棺墓	弥生時代
2	土 墓	縄文時代	6	土 墓	弥生時代 5号遺構と深く関連?
3	住居跡	弥生時代終末～古墳時代初頭	7	溝	近世以降
4	住居跡	弥生時代終末～古墳時代初頭	8	道 路	近世 覆土中に宝永火山灰検出



天王台遺跡遺構配置図



天王台遺跡周辺地形図

4. 菊間・向原遺跡

事業名 市原市埋蔵文化財緊急調査

所在地 市原市菊間字向原2897-8

調査期間 昭和62年6月1日～昭和62年6月11日

調査面積 1,360m²のうち136m²(確認・一部本調査)

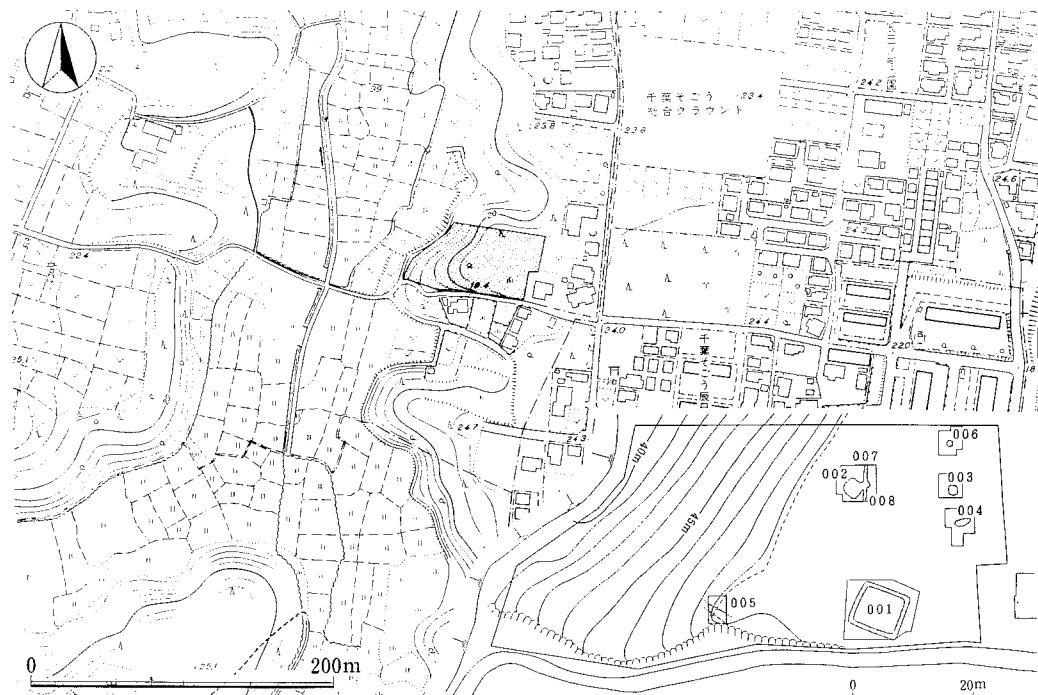
調査概要 宅地造成に伴う発掘調査であり、文化庁の補助事業として実施された本年度4遺跡の発掘調査のうちの一遺跡である。

遺跡は、村田川に向かう南北に開析された支谷の右岸台地上に位置している。検出された遺構は、縄文時代早期の炉穴(008号)、縄文時代中期の竪穴住居跡(002号)、方形周溝状遺構(方墳)(001号)および時期不明の溝(005号)、土坑(003、004、006号)である。

炉穴は2基の重複によるものであり、鵜ヶ島台式土器の小片が出土している。竪穴住居跡は、阿玉台式土器が出土しており、同期のものと考えられるが、床の硬質面も明瞭ではなく、生活痕に乏しい。2.8×3.1mの隅丸長方形である。方形周溝状遺構については、伴うと考えられる土器の出土はないが、方墳の系列下にある同遺構の一般的な形態をもつ。主体部は検出されなかった。

なお報告書については、今年度末に刊行予定である。

(大村 直)



菊間・向原遺跡調査範囲と遺構検出状況

5. 能満・東千草山遺跡

事業名 文化施設建設に伴う進入道路建設にかかる埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満字東千草山1482-7他

調査期間 昭和62年4月1日～昭和63年1月31日

調査面積 4,500m²

調査概要 東千草山遺跡の調査は、市庁舎の東方約1kmに新設する文化施設への進入道路建設に先行して実施した遺構確認調査および本調査である。調査は、現道によって南北に隔てられた建設予定地について、第一次調査(北側)、第二次調査(南側)に分けて実施している。

尚、北側調査区については、先に確認調査を実施し、北半部が産業廃棄物の投棄によって既に削平、湮滅していることを確認している。

第一次調査区にあたる北側調査区からは、弥生時代および古墳時代の竪穴式住居跡9軒と時期不詳の土壙2基が検出されている(遺構配置図左側)。

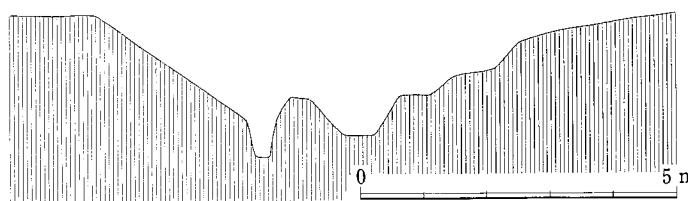
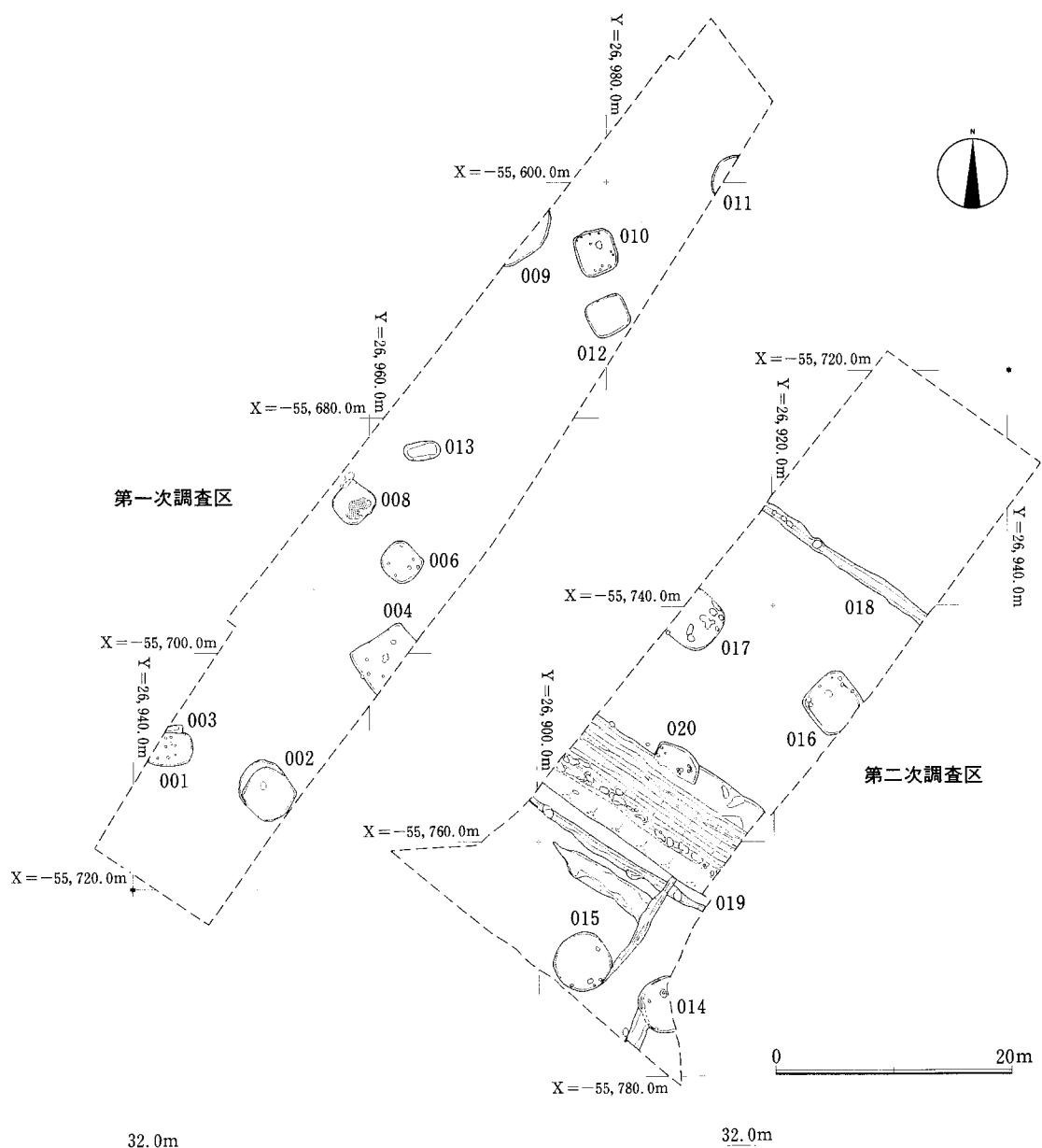
このうち、008号遺構としたものは、弥生時代の住居跡であるが、遺構内にイボキサゴやハマグリを主体とする純貝層の堆積が認められた。010号遺構も同時期の住居跡であるが、この遺構は焼失しており、多量の炭化材と共に、相当の資料が出土している。また、006号遺構も掘り込みが深く、良好なセットを提示している。004号遺構は古墳時代の所産である。遺構中央やや西寄りに炉址が認められる。

第二次調査区にあたる南側調査区からは、弥生時代の竪穴式住居跡5軒と、奈良・平安に比定される溝状遺構などが検出されている。(遺構配置図右側・下段エレベーション図)

このうち、019号遺構としたものは、かつてより古代官道に比定されてきた遺構の一部にあたっている(cf.『市原市埋蔵文化財分布地図』No.771遺跡)。この遺構については、先に、山田橋表通遺跡の調査に於いても、その一部が既に調査されており、類似した形態を呈することが明らかとなっている。018号遺構は、019号遺構と並行する溝状遺構である。遺構底面には、部分的ながらもピット列が検出されている。遺構の配置からみて、019号遺構と関連する遺構であろう。

さて、東千草山遺跡の名称は、第一次調査区の小字名をとて呼称している。しかし、調査所見からみる限り、東千草山遺跡と山田橋表通遺跡とは、その広がりや内容に於いて区分し難い。

(田所 真)



東千草山遺跡遺構配置図

6. 東四辻遺跡

事業名 市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満字東四辻1866-32他

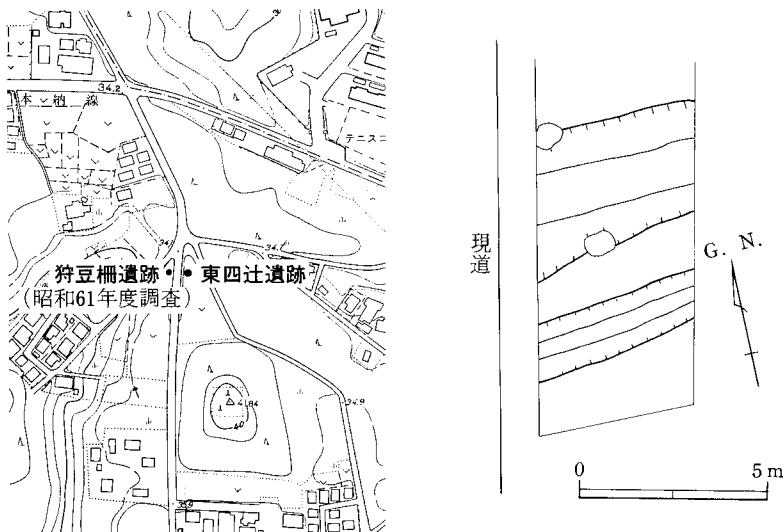
調査期間 昭和62年10月21日～昭和62年10月28日

調査面積 460m²

調査概要 前年度に調査を実施した狩豆柵遺跡において、現道西側から、現道に直交する溝が検出された。今回調査を実施したのは、前年度に調査し得なかった、現道東側部分である。溝の検出が予想される部分および、溝と関連する施設の有無を確かめるため、周辺部分も調査を行なった。

その結果、溝の延長部分が、当初の予想通り検出され、覆土中から、縄文土器やロクロ土師器が出土した。それ以外の部分での遺構の検出は認められなかった。溝は上端幅約3m、下端幅約1mで、断面逆台形を呈する。覆土中にも、硬化面は認められず、道としての機能は考えられない。したがって、何らかの区画施設と考えざるを得ないが、区画の範囲、規模等一切不明である。周辺地域での資料の蓄積をまちたい。

(高橋 康男)



東四辻遺跡の位置と検出遺構(地形図は1/50000)

7. 文 作 遺 跡

事 業 名 農業公社牧場設置事業(草地造成)に伴う埋蔵文化財調査・文作遺跡発掘調査

所 在 地 市原市葉木字文作325番地他

調査面積 18,500m²

調査期間 昭和62年6月1日～昭和62年12月25日

調査概要 本遺跡は、村田川支流神崎川流域の小支谷にはさまれた舌状の台地上にある。

調査は、社団法人千葉県農業開発公社営の草地造成に先行して実施されたものであり、前年度の確認調査結果をうけ、対象面積全域に対して本調査をおこなった。調査面積18,500m²のうち13,875m²を農林水産省の補助をうけた千葉県農業開発公社が、4,625m²を文化庁補助事業として市原市が按分し、それぞれの費用を負担した。

今回の発掘調査によって、堅穴住居跡118軒、建替えを含めた総数で149軒、掘立柱建物跡34棟、建替えを含めた総数で35棟、掘立柱列1列、溝1条、土坑35基が検出された。このうち縄文時代前期、中期の堅穴住居跡2軒、落し穴20基、および時期不明の溝をのぞき、古墳時代終末期から平安時代にいたる集落跡に関連すると考えられ、ほぼ継続的に経営されたことが想定される。

本遺跡において主体となる集落跡は、鬼高式終末段階を初現とし、土器編年においても良好な資料を提示することが可能であると思われる。おおまかには、6期程度に区分することができる。また、時期的に堅穴住居跡が小型化する段階にあたり、その変遷過程を問題とすることが可能である。建替え住居跡をみると、住居面積の全体的な小型化に対応して、建替え、とくに拡張をともなう建替えの減少をみることができる。これは、居住人数の増加をどのように処理するか、すなわち居住集団のつながりそのものにかかる問題であり、今後の集落研究にひとつつの視点を挿入することが可能であると考えている。なお報告書は、本年度末に刊行予定である。

(大村 直)

時 期	総数a 軒	平 均 面積m ²	総数b 軒	平 均 面積m ²	建 替		建 替 率 %	建 替 1回	建 替 2回	建 替 3回	建 替 I 軒	建 替 II 軒	建 替 III A軒	建 替 III B軒	建 替 III C軒	同規模 軒	拡 張 軒	拡 張 %
					軒	%												
I	19	29.79	27	28.88	7	36.8	6	1	0	0	0	2	3	2	2	5	71.4	
II	25	27.20	37	27.23	8	32.0	5	2	1	0	0	4	1	3	4	4	50.0	
III	31	15.15	38	15.44	7	22.6	7	0	0	0	3	4	0	0	5	2	28.6	
IV	15	12.27	19	12.52	3	20.0	2	1	0	2	0	1	0	0	3	0	0	
V	17	13.12	17	13.12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
VI	1	—	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

堅穴住居跡規模・建替え

I類 無柱→無柱

A類 主柱同心円拡張

II類 無柱→有柱

B類 主柱1方向拡張

III類 有柱→有柱

C類 主柱2方向拡張



文作遺跡全体図(1 / 1500)

8. 鯉 鯛 遺 跡

事 業 名 模型飛行場造成事業に伴う埋蔵文化財調査

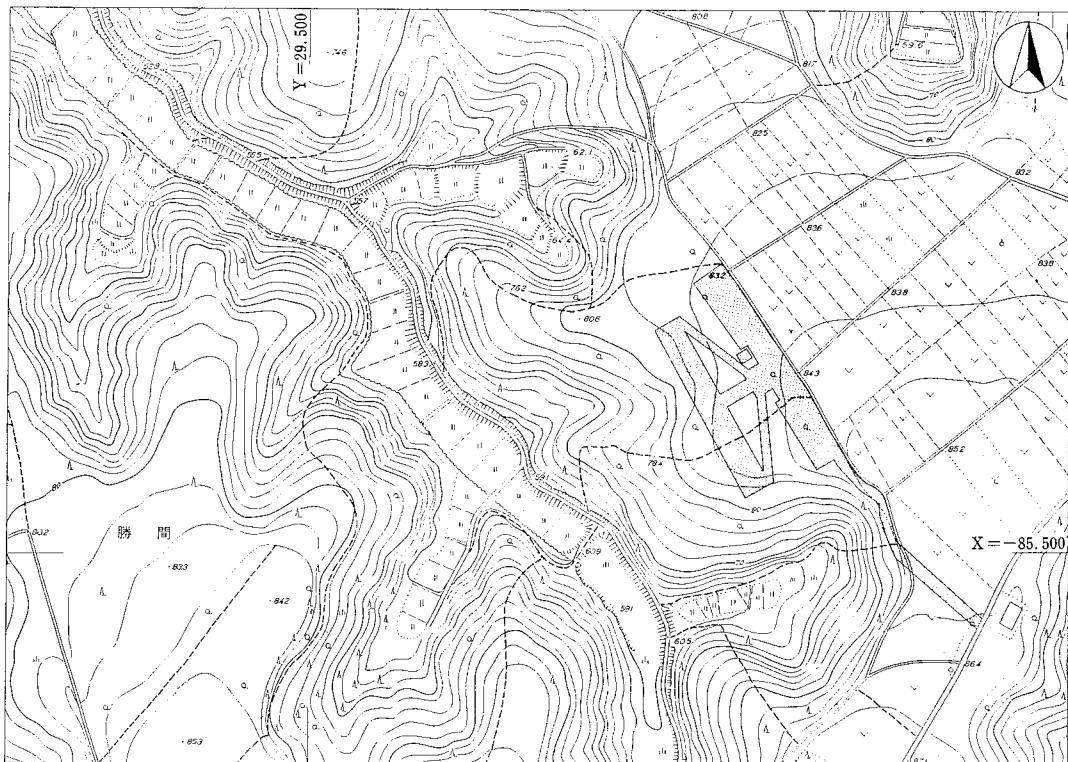
所 在 地 市原市勝間字越タイ 687番地他

調査期間 昭和62年3月9日～昭和62年3月31日(昭和61年度)

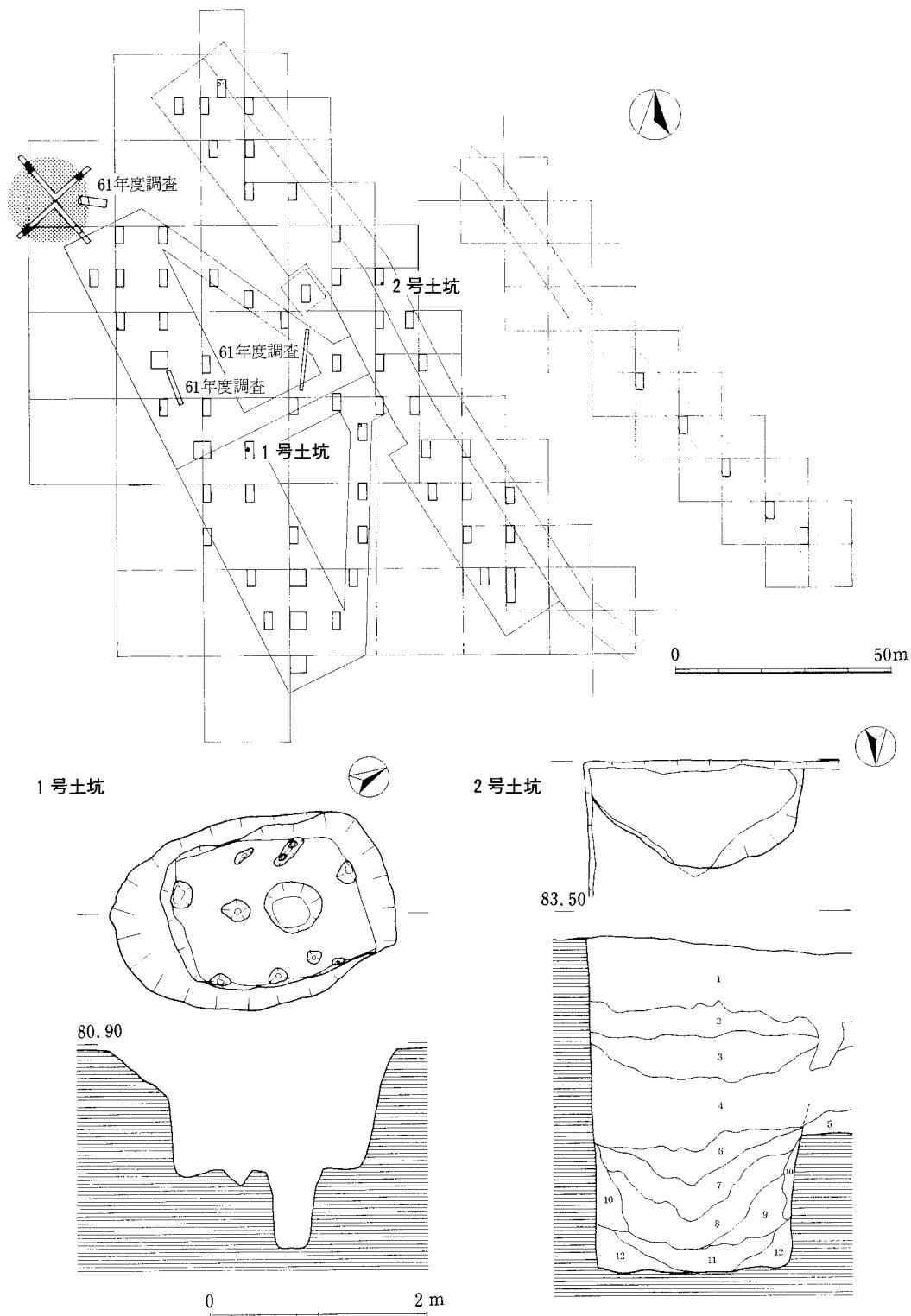
昭和62年4月15日～昭和62年5月13日(昭和62年度)

調査面積 5,600m²のうち560m²(確認調査)

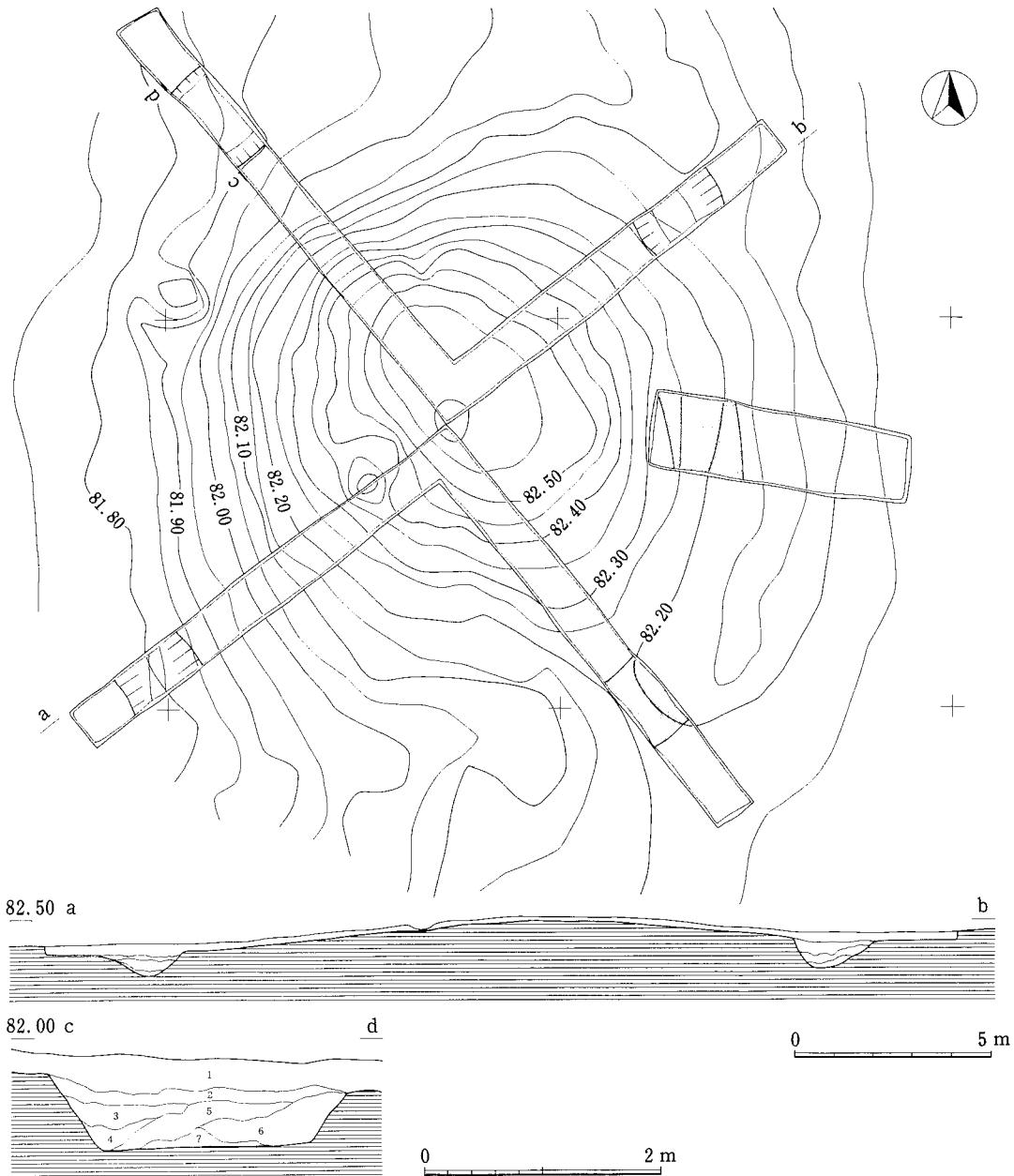
調査概要 本遺跡は、村田川支流勝間川流域に開析された、ほぼ最深部の支谷に面する台地上に所在する。調査は、模型飛行場とその搬入道路の造成に伴うものであり、当初昭和61年度事業として実施された。調査を開始する段階では、現地が山林であったこともあり、遺跡の内容はあきらかではなかった。しかし、伐採終了時点で古墳と考えられる高まりが確認され、これにトレンチをいれ確認したところ、その存在が確実となった。この結果をうけ、事業者との協議をおこなったところ、滑走路部分を南側に設計変更することによって、古墳を対象外とすることとなり、昭和62年度にあらためて確認調査を実施することとなった。したがって昭和61年度については、古墳の墳丘測量と、部分的なトレンチによる調査で中止した。



第1図 鯉鯛遺跡位置図および調査範囲(1/5000)

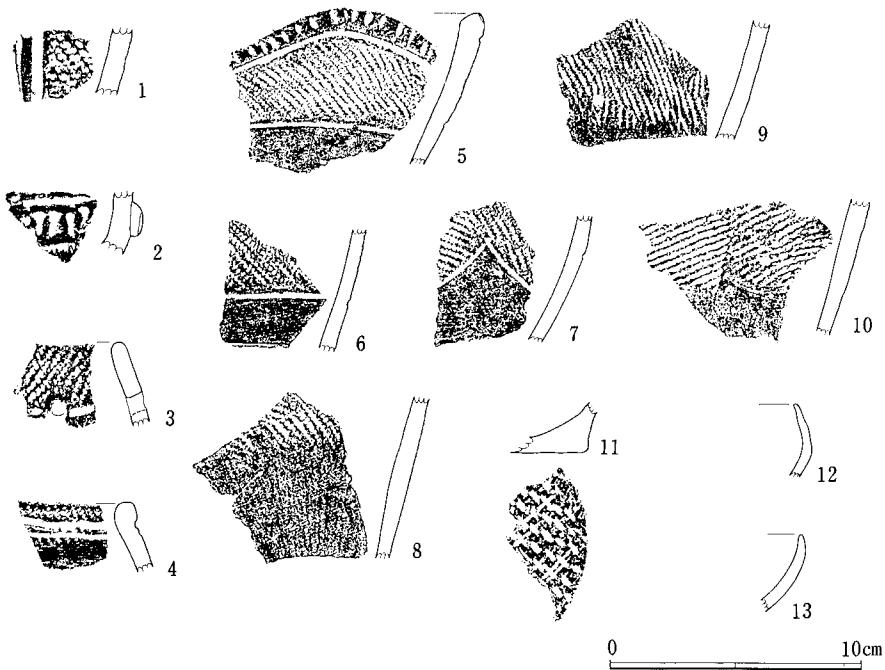


第2図 鯉飼遺跡グリッド配置図(1/1500)および土坑実測図(1/60)



第3図 鯉飼古墳実測図(1/180、1/60)

今回の発掘調査によって検出された遺構は、古墳1基(鯉飼古墳)、いわゆる落し穴と称される土坑6基である。古墳は、見かけの高さが約60cm、北東～南西トレンチによる周溝確認面外径で19.8m、確認面内径15.6m、周溝底内径17.2mを測る。また北西～南東トレンチ周溝確認面外径で20.8m、内径で16.1mである。周溝は、調査部分で幅2.0m～2.6mであり、断面形は各トレンチにことなるが、ソフトロームを10～20cm程度しか掘り込んではおらず、かならず



第4図 鯉飼遺跡出土土器(1/3)

しも明確ではない。c～d断面土層は、2・3・5層が黒褐色、4・6・7層が暗褐色を基調とする。墳丘盛土は、10cm程度遺存するにすぎない。なお、墳形については、円墳と想定されるものの、調査経緯から補充調査を実施することができなかった。しかし、出土土器からみてほぼ妥当ではないかと思われる。周辺の古墳群としては、西方約1km、養老川域に武士古墳群があるものの、神崎川水系では孤立した状況にある。今後の周辺域における調査の蓄積に期待したい。

落し穴については、2基を調査した。1号土坑は、長軸257cm、短軸177cm、確認面からの深さ115cmを測る。中央ピットは底面から深さ78cmである。他の小ピットはいずれも深さ20cm以内のものである。2号土坑は、平面長方形を呈すと考えられるが、全掘していない。確認面からの深さ127cmを測る。小ピットは検出されていない。土層は、1層が表土、2層がII b層、3層がII b層からII c層漸移層、4層がII c層、5層がソフトロームであり、6～12層は、黒褐色土層とローム崩落土からなる。

遺物の出土は全体にきわめて希薄であった。1・2が後期前半、3～11が後期後半に比定される。いずれもまとまった状態で出土したものではない。12・13は古墳周溝から出土したものであり、赤彩された杯形土器である。鬼高式前半期のものであろうか。
(大村 直)

9. 神門三号墳

事業名 国分寺台区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市惣社936他

調査期間 昭和62年4月1日～昭和63年1月14日

調査面積 2,500m²

調査概要 市原市の中央部を北流する養老川河口右岸の台地は、市原台地とも呼ばれ、地理的にも東京湾東岸の房総半島の付根に位置し、海路上の重要拠点に所在しているとも言える。この市原台地の南西部一帯の、三百数十万m²におよぶ広大な地域は、臨海工業地帯や首都圏のベッドタウンとして位置づけられ、これに伴い昭和46年から国分寺台土地区画整理事業として大規模な宅地造成が開始されることになった。

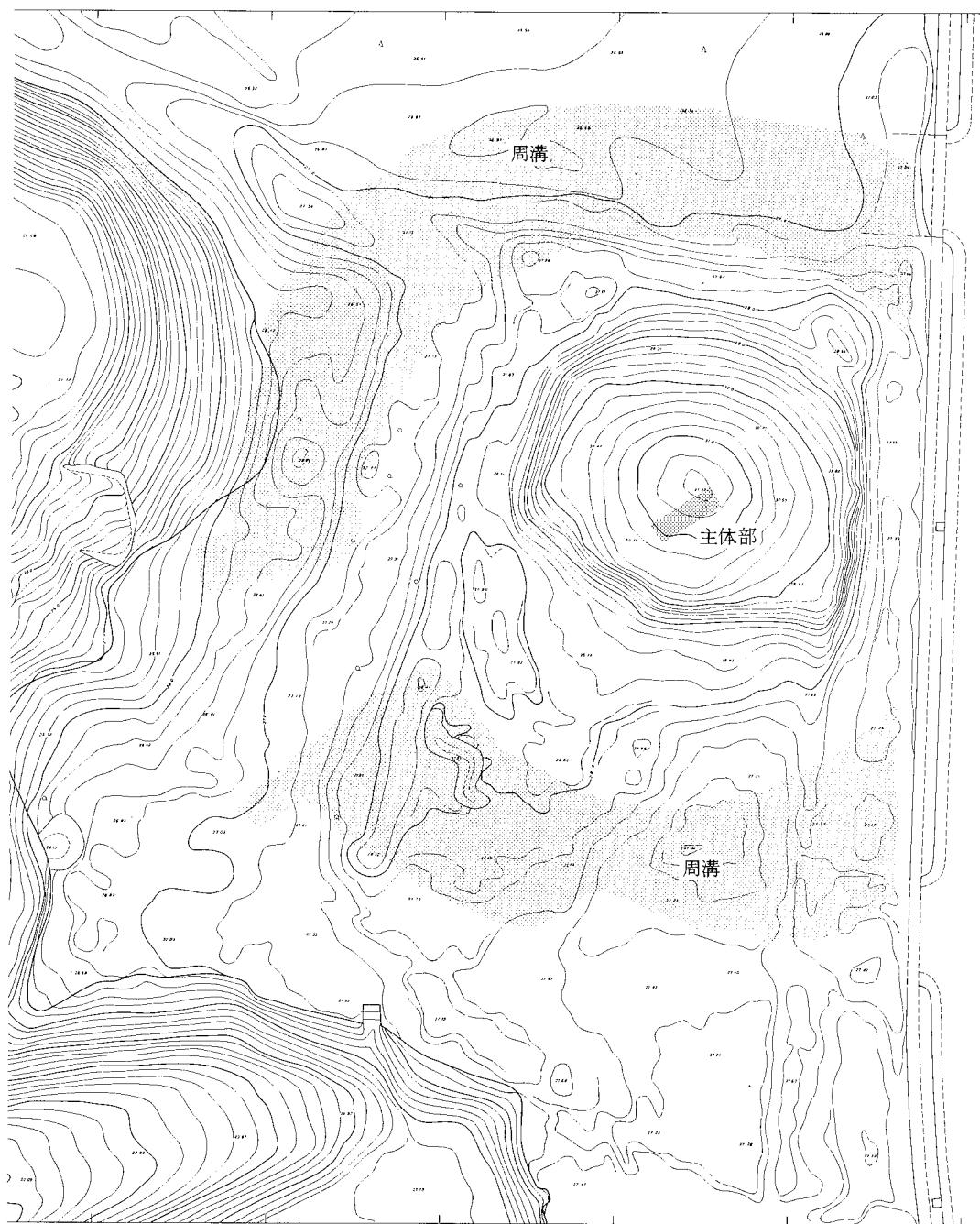
この台地には、上総国分僧寺跡・尼寺跡など奈良～平安時代の国家的行政の中心地の他、貝塚や古墳など各時代に渡る遺跡が台地一面に存在することが周知され、多くの研究者が注目する地域でもあった。

神門古墳群は、この国分寺台の南西部台地縁辺の、眼下に養老川河口ならび東京湾一帯を一望する好適地に占地する。東側には上総国分僧寺が隣接し、僧寺寺域を区画する寺域外郭溝の南西隅および西辺の南側は神門古墳を避けて造寺されている。古墳群は、円墳1基・方墳1基・円丘部に突出部を有する特異な墳形3基の計5基からなる。古墳群の調査は、昭和23年に上総国分寺との関連を探る目的で、現在の五号墳が調査されたのが最初で、この時鉄剣・鉄鎌・墳頂部の土器群の一部などが出土している。その後は国分寺台区画整理に伴い数次の調査を行っている。成果は、国分寺台調査概要の他、早稲田大学考古学会刊行の古代63・77号に「市原市神門四号墳の出現とその系譜」・「出現期古墳の理解と展望(東国神門五号墳の調査と関連して)」と題し、調査者が発表している。以来、神門四・五号墳は、東国最古級の古墳として躍全国の考古学研究者や愛好者から脚光を浴びることになる。

三号墳の調査

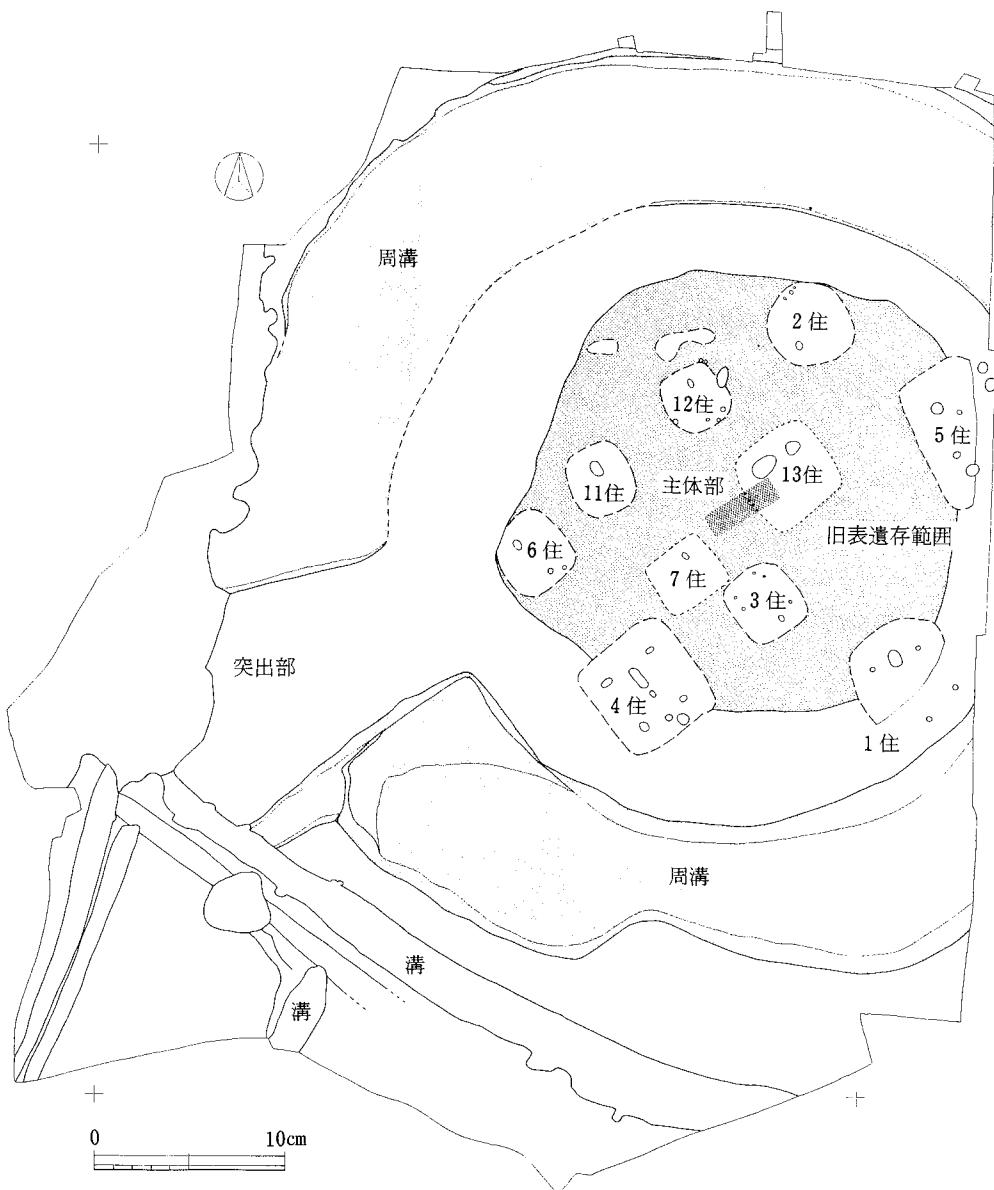
四・五号墳が出現期古墳としての評価が高まるにつれて、三号墳も同時期の古墳ではないかと注目され始め、三号墳は古墳群中では最も北に占地し、南20mには四号墳が隣接していた。現況の墳丘測量図からは方墳・円墳・前方後円墳とも推測でき、墳形の把握は困難である。現況では墳丘径21m、高さ4.5mを測る。

調査の結果、墳丘や周溝は後世の攪乱により著しく改変され、墳頂部は中世～近世に削平し、再度塚状に盛土を行い、墳頂部縁辺に墓坑を設けている。この墓坑内からは骨粉状の人骨・歯の他に五輪塔などの墓石なども検出し、一時的に墓地であったことを物語っていた。



神門三号墳現況地形測量図(1/400)

古墳の平面形は、円丘部に周溝を巡らし、西南西に溝を掘り残し、通路状の突出部を有した特異な墳形である。墳丘主軸長47.5mを測るもの、突出部前面が大きく削平されているためまだ長くなる可能性も充分にある。円丘部径は下底間で約34mを測る。突出部の長さは現存長



神門三号墳全体図

約16m、突出部基部のくびれ部下底間幅約8.5m・先端部では約13mと復元できる。盛土は、突出部では旧表も存在しないまでに削平され確認できなく、円丘部では約3.1mが残存する。周溝は円丘部では、幅7～10mで巡る。突出部先端の溝は、円丘部と連続せず、幅2mほどと狭く浅い。周溝底と墳頂部の比高差は5.2m測るもの、本来の盛り土は大きく削平されている。

主体部は円丘部のほぼ中央に設けられ、墓坑の規模は、長さ4.13m・幅1.2～1.3m・確認面からの深さは0.72mを測る。棺は、組合式の木棺と考えられ、小口が側板の内側に施設される状況を呈している。副葬品は、短剣1・鎌1・鐵鏃2・鉈1・ガラス玉103・管玉10、また頭部と推

定できる位置からは朱と考えられる赤色顔料を検出した。他に、墓坑検出面において棺外より管玉2点を出土する。

土器は、墳頂部・周溝内・墳丘下から、古墳に伴うものをそれぞれ検出している。墳頂部の土器群は、本墳の最終祭祀遺物と理解でき、墓坑の北側に据置くように二重口縁壺・高坏・小型鉢・瓢形土器等が検出され、墓坑内に落ち込んだ状況で綾杉文に飾られた手焙りが出土している。周溝内からは、タタキ目整形の甕や甌の他・高坏・器台・壺などが見られる。盛土直下の墳丘下の土器は、墳丘築造直前の祭祀に伴う土器群として把握できよう。土器は円丘部中央よりやや突出部寄りの7住～6住上層の盛土直下にまとまって出土し、タタキ目整形甕や・高坏・器台等も見られる。また、盛土最下層から銅鏡1点を検出している。

墳丘下からは、竪穴住居跡10軒等を検出する。住居跡平面形は、楕円形や隅丸方形等があり、時期的にも弥生後期～古墳出現期に比定できようか。この内13住遺構は、平面形が不明瞭で炉跡もなく、掘り方も浅く床面を黒色土中に置き、タタキ目整形甕を含む多くの土器を出土し、埋めもどされている。また、3住遺構は、竪穴住居跡、廃絶直後の窪み一面に、炭化物・焼土・灰が堆積し、墳丘築造工程の連続作業としての盛土で埋めもどされる状況にある。

以上の現場調査状況から、本墳に伴う祭祀は、A墳丘下の13住→B墳丘直下の土器群と3住遺構の窪みを利用した火跡→C墳頂部の土器群の3回の大きな祭祀痕跡を確認することができる。Aは、墓域の選定。Bは、墳丘築造。Cは被葬者埋葬時に関わるものとして推定できる。

(主体部検出の鉄製品)

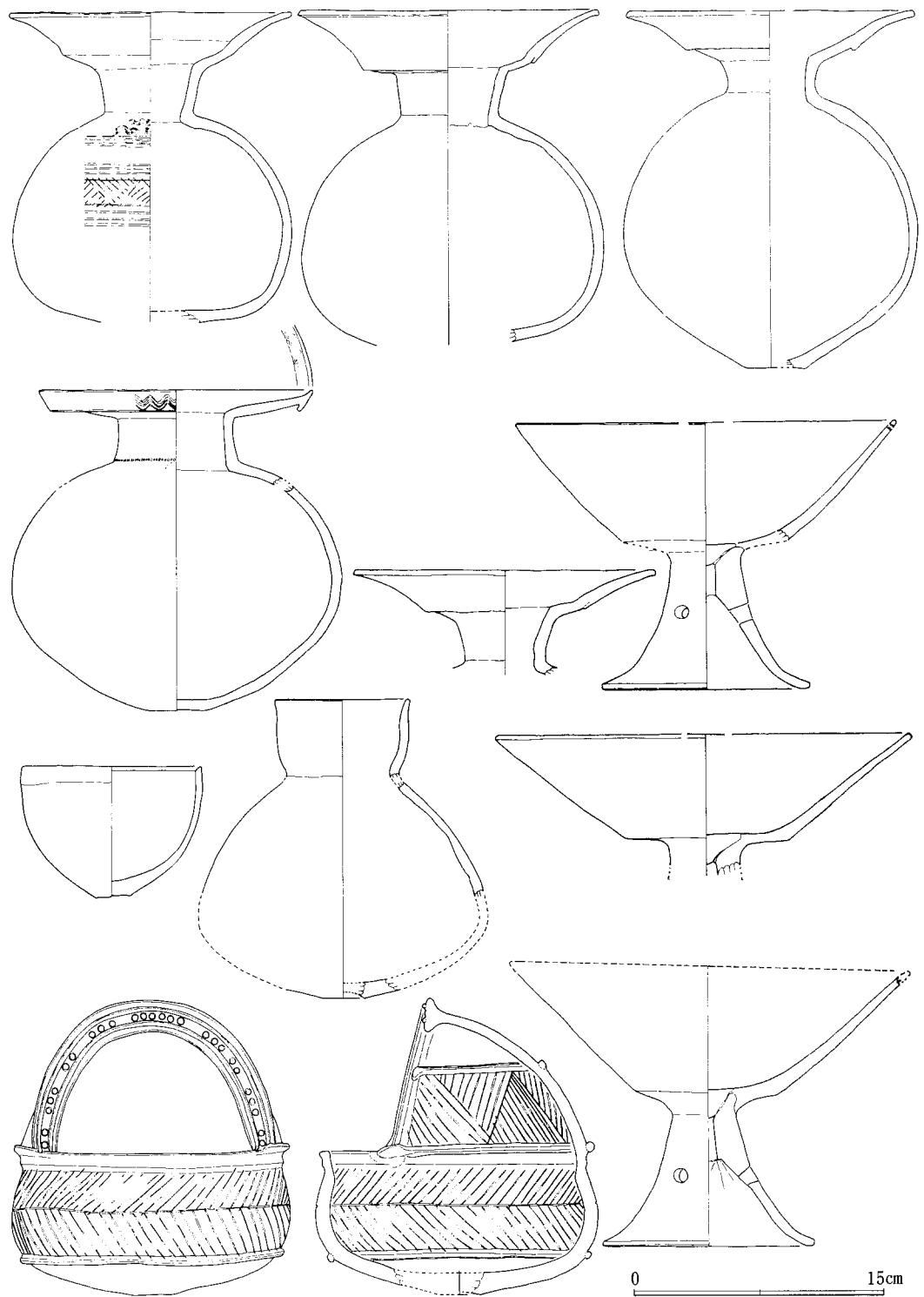
1は全長7.75cm、最大刃幅2.06cm、茎は断面丸形を呈する。2は全長7.03cm、最大刃幅18.8cm。3は切先を欠損し全長21.2cm。4は全長17.8cm、刃長14cm、最大刃幅2.85cm、関は両関で茎に一孔を有する。5は全長31.3cm、最大刃幅3.1cm、茎に二孔を有する。

神門5号墳・神門4号墳・神門3号墳の比較（単位メートル）

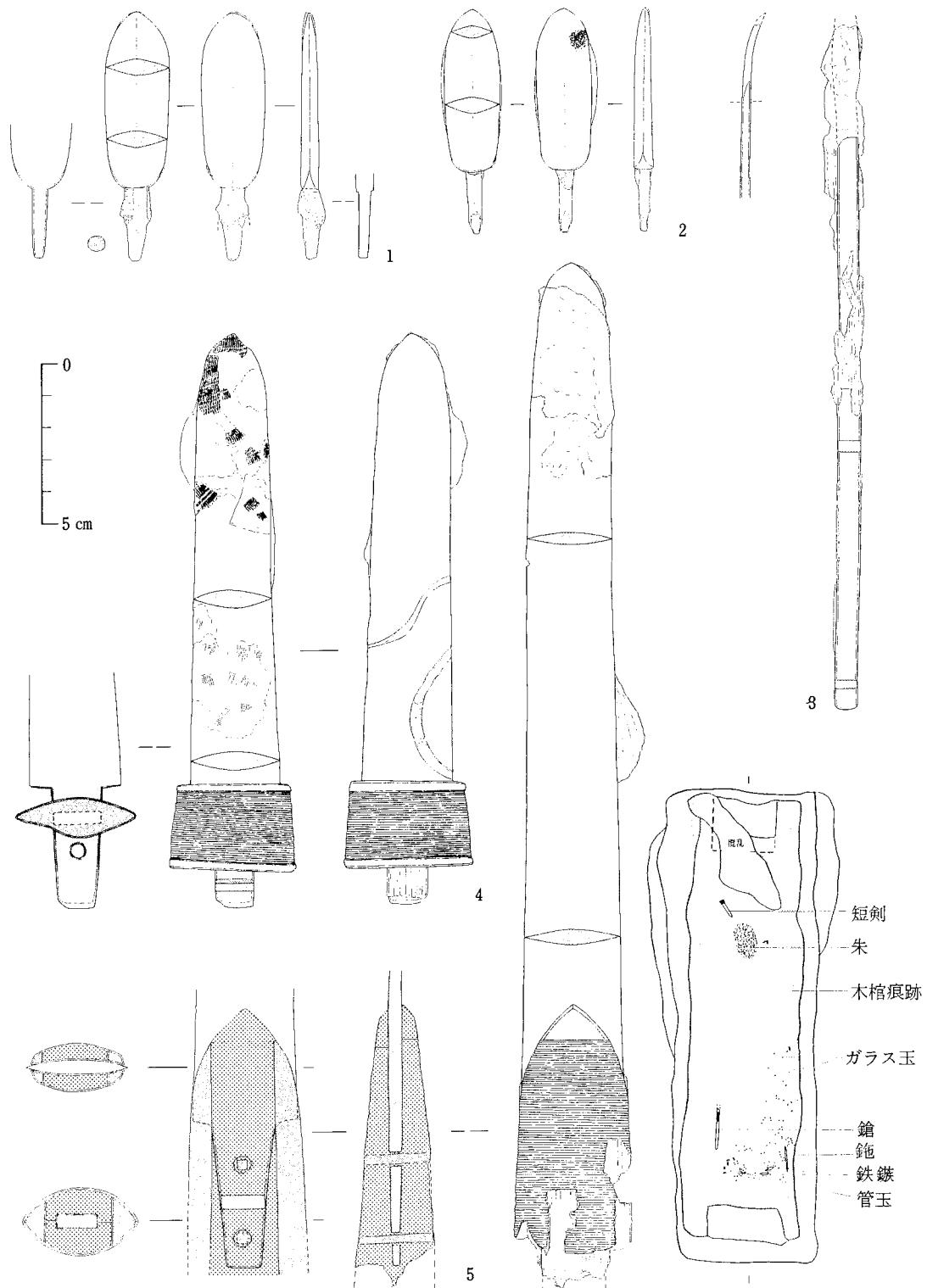
	神門5号墳	神門4号墳	神門3号墳
全長	38.5	48～49	47.5+
径 (下底間)	(上段) 27～28 32～33	30～34	34
盛土高さ	3.2	3.35	3.10
みかけの高さ (周溝底から)	5.9	6.9	5.14
突出部(前方部) (長さ・幅)	(上段) 5×5 6～7×12	14×9～14	16+×8.5～12
主軸	N 82°～84°W	N 66°W	N 63°W
墓坑規模 (長さ・幅・深)	3.0×+1.2×1.3	4.05×1.2×1.2(N26°E)	4.13×1.2～1.3×0.72 3.82×0.94～1.0×0.72
出土遺物	劍1・鉄鏡2・ガラス玉 6・土器13+	劍1・槍1・ヤリカンナ 1・鉄鏡41・勾玉3・管 玉73+ガラス玉420+土 器150+	劍1・槍1・管玉11・ ヤリカンナ1・ガラス玉 103・

田中新史 古代77号で作成表に3号墳計測値を加筆
3号墳計測値は、調査途中でもあり今後変更もありうる

神門三号墳出土鉄製品に関しては、国立歴史民俗博物館の永嶋正春氏より保存処理および蛍光X線分析等について御助言ならび御協力をしていただいた。



神門三号墳墳頂部出土遺物



神門三号墳主体部出土鉄製品

10. 諏訪台遺跡

事業名 国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市西広895番地他

調査期間 昭和62年4月1日～昭和63年2月18日

調査面積 8,000m²

調査概要 調査は国分寺台土地区画整理事業に先行して実施しているものであり、昭和49年度に着手して以来、およそ14年の歳月と調査総面積10万m²以上をこえ、これまでに小銅鐸や平縁盤龍鏡などが検出されていることを始めとして、集落跡及び墳墓群として全国的にも著名な遺跡でもある。

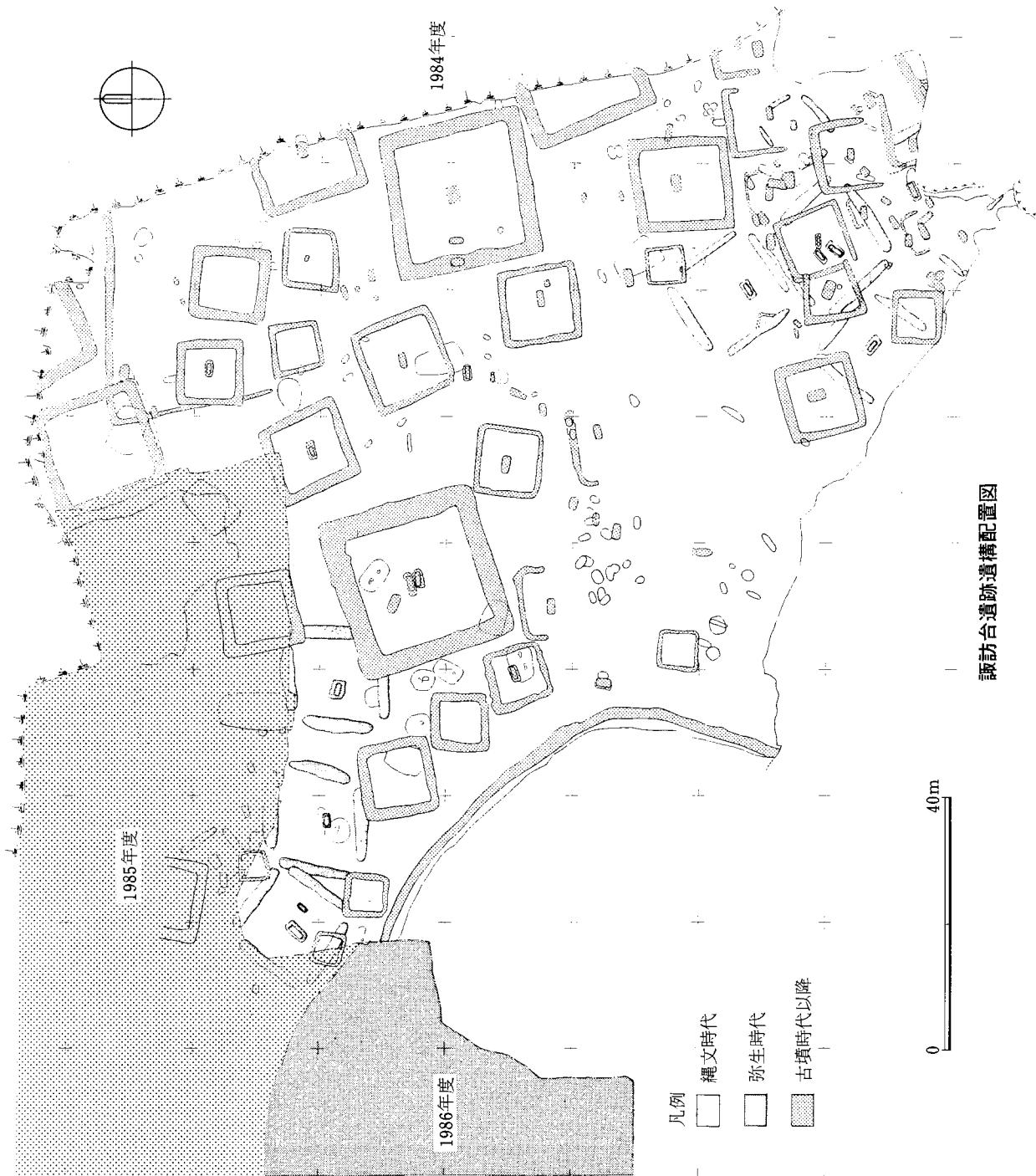
今回の調査対象範囲は、昭和59～61年度にかけてそれぞれ調査が実施された地域に囲まれた養老川に南面する台地上であり、検出された遺構は縄文時代 早期炉穴10基・早～前期住居跡13軒・陥れ穴11基・土壙36基以上、弥生時代中～後期 方形周溝墓7基以上、古墳時代～奈良・平安時代 前方後方墳1基・終末期方墳及びいわゆる方形周溝36基・土壙墓(半地下式主体)32基以上・地下式壙(小玄室)1基・火葬墓(藏骨器)1基、近世 溝2条(1条は道路状遺構)などがある。また前方後方墳の内部主体の1つは軟砂岩を使用した切石積の石棺であり、主体部を検出した終末期方墳は木棺直葬である。いわゆる方形周溝の1基は内部施設に小土壙を採用し、



諏訪台遺跡全体図(トーンが調査範囲)

火葬系を思わせる木炭が使用されていた。この他地下式壙小玄室内より人骨片を、弥生時代中期宮ノ台式期の方形周溝墓の内部主体より琥珀玉1点を検出しており、特に当期の琥珀玉の検出は特筆される。

(木對 和紀)



11. 西広貝塚

事業名 国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市西広21-1他

調査期間 昭和62年4月1日～昭和62年10月31日

調査面積 2,000m²

調査概要 西広貝塚第7次調査は、昨年度末に着手し、本年度をもって終了した。これにより、西広貝塚の調査は全て終了したことになる。

今回調査したのは、西広貝塚の東半にあたる部分である。標高約40mの台地の平坦部に形成されており、調査前は宅地であり、民家の建てられていた箇所もある。したがって、露呈していた部分は、貝の破碎が著しく、良好な遺存状態とは言い難く、またそれら破碎を含めて、後世の攪乱がどの程度及んでいるかも考慮しつつ調査を進める必要があった。このような現況の把握をもとに、調査の進め方については以下の通りの方針が立てられた。大グリッドについては20m×20mとし、さらにそれを4m×4mの小グリッド25個に分割する。各小グリッドの北辺および東辺に巾40cmのサブトレンチを設定し、貝層の状態および遺構の分布状況を把握する。その際、貝層の認定については、上層の破碎の進んだ部分をI層とし、その下層の純貝層をII層、さらにその下層の混貝土層をIII層、それ以下の無遺物層をIV層とすることとした。原則的には貝層の細かい分層は行わないこととし、特に明瞭に組成の相違が認められる場合のみ、分層することとした。これにより、貝層構成の不均一性が捨象されることになるが、各小グリッド各に40cm×40cmの土柱を残し、それをサンプリングとし、不均一性の把握のための担保とした。

貝塚のもつ情報量の多さは、改めて指摘するまでもないところであり、貝を持ち帰ることもいわば慣例化している今日にあっても、その収藏には莫大な空間を必要とする。それを可能な限り回避するため、今回の調査では、現場の調査と並行して、水洗選別を行ない、魚骨、鱗等の検出につとめた。しかし、調査期間上の制約もあり、「減量」できた部分は、全体からみれば、わずかな部分にすぎなかった。

今回の調査により判明した、貝層の分布状況は図示の通りであり、貝層の除去後検出した遺構は以下に示す通りである。居住跡8軒、土坑18基、人骨埋葬10箇所、他に幼児埋葬3箇所、太埋葬3箇所。時期的には、堀ノ内式期から加曾利B式期を中心とする。遺構の遺存状況としては、堀ノ内期の住居跡は、ローム面の掘り込みが深く検出し易かったが、加曾利B式期の方はローム上面ぎりぎりのレベルまでしか及んでおらず、貝層の精査あるいは、柱穴列の検出に努めることで、全体の把握を目指したが、必ずしも明瞭にならなかつた部分もある。605住居



第1図 西広貝塚および周辺の貝塚



第2図 西広貝塚遺構配置略図



第3図 605住居跡内貝層断面



第4図 605住居跡全景(上方は604住居跡)

跡は、今回の調査の中では最大規模の住居跡である。堀ノ内式期に属し、西方に入口の開口部を設けてある。床直上から比較的大型の同式の深鉢が出土し、北東壁際では埋甕が2箇所、タカラガイの副葬品、丹塗りの貝が検出され、中からは幼児骨が出土した。また、副葬品としてタカラガイの装身具、丹塗りの貝が出土した。なお、この居住跡内に形成された貝層は、イボキサゴ、ハマグリ、破碎貝等の組成を異にする貝層の推積状況が比較的明瞭に捉えられたため、図面、写真の記録のみでなく、貝層の剥ぎ取りを実施した。

剥ぎ取りについては、三恒商事社製のNR-51を使用した。貝層の剥ぎ取りに関しては同社製のNS-10の使用も考えたが、対象とするセクションベルトの含水量が少ないと、そのために水を確保する必要が生じること。さらに、NS-10塗布後直ちにNR-51を塗布する必要があること等、諸条件を勘案した結果、工程上比較的対応し易いと判断されたNR-51を使用するに至ったものである。実際には、分子量の大きさのため、貝單一層における塗布は難行した。ハマグリの層では、凹凸が激しく、層状に塗布することが難しく、またイボキサゴの層においては、粘性の強い溶液の下への流れ出しに引っ張られる形で貝殻もいつしょに流れ出すことがしばしば起り、そこに凹部ができてしまう結果となった。最終的には幅約8m、深さ約1mの土層面全面の剥ぎ取りはほぼ成功した。剥ぎ取り面作成後は、後の持ち運び等も考慮し、ほぼ1m幅で8分割して収蔵した。そのうち約2m分については、合板に打ち付け、展示用とし今日に至っている。

住居跡以外は、多数の土坑がある。形態的には、円筒形を呈するものが多数であったが、その堆積過程が一様ではない点、興味深いものがある。下層のみに貝の投棄が認められるもの、中層のみ、あるいは上層のみと一つとして同様な推積を示すものはなかった。このことが直ちに重大な問題を提起するわけではないが、常に土のみの堆積断面のみを目のあたりにしている者にとっては、興味をそそられる所がある。

これら遺構の他に、多くの遺物が出土している。整理については未着手であるので、調査中に目に付いたもののみを記しておきたい。貝層を構成している貝類に関しては、ハマグリ、イボキサゴを主とする。いずれも中形、大形と分離し得るのではないかと思われる。その他、ウミニナ、ツメタガイ、アカニシ、ハイガイ、カキ、シオフキ等、内湾の砂底に棲息するものがほとんどである。その他にキセルガイ等が目についた。貝製品としては、上述のタカラガイの他に、丹塗りの貝が数個検出された。両面塗られたものと、内面のみに塗られたものの2種が出土している。

獣骨については、上述のイヌの他、タヌキ、ネズミの骨格が出土しており、クジラの脊椎が一点出土している。骨角器では、鹿角製の装身具類、イノシシの牙によると思われる牙斧の出土が認められた。



第5図 西広貝塚全体図(1/1200)

魚骨は、土坑の精査中や、水洗選別後の抽出作業を通じて得られたものがほとんどである。細かい同定作業を経ていないが、アジ・イワシ・タイといった通例の種以外には、今後の検討を要する。

土器・土製品については、既述のように、堀ノ内～加曾利B式に属するものがほとんどで、わずかに、加曾利E式、称名寺式が認められたにすぎない。土偶については、破片が数点出土したのみで、全体の形状の明らかなものは出土しなかった。管状土錘・土器片錘に関しては、やはり、数点の出土を調査中に確認したが、概して少ない。ただし、土器片錘は、調査中の見落としも多いにあり得るので、現段階では量の多少については云々し得ない。

石器類に関しては、石鏃・石斧といった通常の遺物以外には際立った遺物の出土はなく、脚付の石皿がわずかに目についた程度であった。

以上が、今回の調査における成果の概要である。また、これにより西広貝塚の調査は終了しあとは整理作業を経て、全体像を再構築することになる。西広貝塚に関しては、昭和52年の本報告刊行以後も断続的に調査が実施され、一部資料も公表されている。また、前報告の内容に依拠した論考もなされている。今次の調査の終了により、全体を復元することが可能になり、これまでの諸論を補強あるいは変更する前提が揃つたことになる。本来なら、この場でその責を果たすべきであろうが、個人の力量では遠く及ばないところであった。

最後に、今後の課題について若干触れておきたい。第一は時期的な変化の把握である。時期毎に、諸構成要素が如何に異なるかを明らかにして行く必要がある。ここでいう「諸構成要素」とは、遺構・遺物といった個別の構成要素ではなく、ある時間帯における構成要素である。それらが、連續的に変化するか、断続する時期があるかどうか。仮に、そこで連續性のみが認められた場合、時間帯区分の元とする土器型式の変化が何を意味するのかという問題に帰着せざるを得ないであろう。ただし、これは西広貝塚に限ったことではなく、考古学一般の問題でもある。このような時期的変化の抽出をふまえて「西広貝塚史」が叙述されることになるであろう。同時に、市内あるいは県内で調査された、貝塚のみならず縄文時代の遺跡との比較を通じて、西広貝塚の個別性を明らかにする必要があると言えよう。

貝塚に含まれる情報量は莫大である。同時に、調査に際し持ち帰る遺物量も莫大であってそのための収蔵スペースも広大なものとなっている。たしかに、莫大な量ではあるが、減量できる部分も多く含まれている。特に土の量は無視できない。ただちに、本格的な整理に着手し得ないにしても、土だけでも排除して行く方策が講じられればと感じる次第である。土を収蔵することの是非を問われることはあっても、貝を持ち帰ることの是非が問われることのないよう多くの方々の理解が得られるよう努めて行く必要があろう。

(高橋 康男)

12. 姉崎・東原遺跡

事業名 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市姉崎2711-1・2、2713-1

調査期間 昭和62年11月2日～昭和62年11月12日

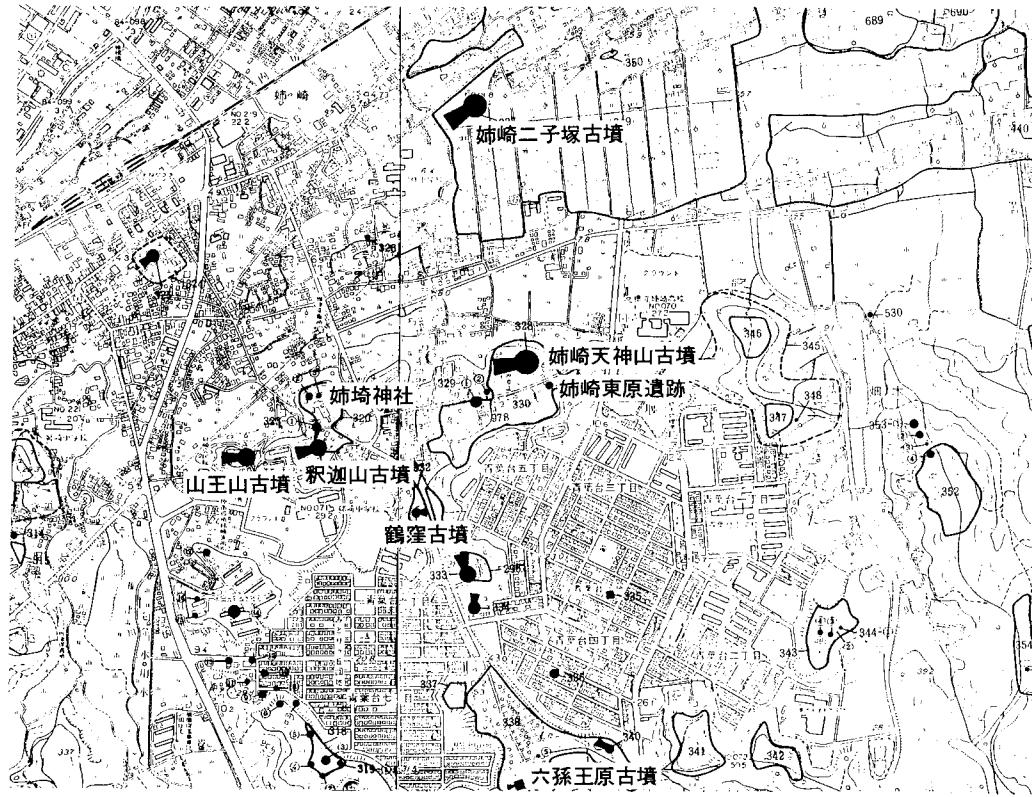
調査面積 650m²

調査概要 遺跡は、千葉県指定文化財・姉崎天神山古墳に隣接する、標高約30mの台地上に存在する。この付近一帯は、水系的には養老川下流左岸にあたり、養老川の河川作用により形成された沖積地をその生産基盤とし、姉崎天神山古墳、姉崎二子塚古墳といった前方後円墳に代表される姉崎古墳群を形成している。また、上海上国造の本拠地と目され、後代には、式内社である、姉崎神社の建立を見るに至っている。特に古墳群の規模については、同川右岸の「国分寺台」の古墳をはるかにしのいでいる。この相違については、おそらく、生産基盤の安定性に相違があったためと考えられる。それは、河川作用の影響の大小に関わるのではないかという意味であるが、ここではこれ以上立ち入らない。

調査の結果、弥生時代の集落と、古墳、古墳時代の集落が検出された。後世の開墾により、遺構確認面の一部がハードロームにまで及んでいるという状況であったため、総体的に遺構・遺物の遺存状況は概して悪く、遺構に共伴して出土した遺物の量も少ない。そのような状況にあって、007住居跡からは、周囲から見れば多量と言い得るに足る量の遺物の出土があった。

この007住居跡から出土した遺物の主なものは図示した通りであるが、弥生時代中期から後期にかけての所産と理解してよかろう。あるいは、中期と後期が混在しているという捉え方もあるかもしれないが、その分離を可能にし得る状況証拠もないので、共伴する一括遺物として捉えておきたい。土器群の連続性を示す良好な例として位置づけられるのではないだろうか。当該期の集落の広がりは、今回の調査範囲の中では明瞭には捉えられなかつたが、古墳群形成の前段階として、この時期の集落が展開しているのは、むしろ当然のことと言えよう。それがどの程度の広がりをもつかは、今後の資料の増加によらなければならぬ。

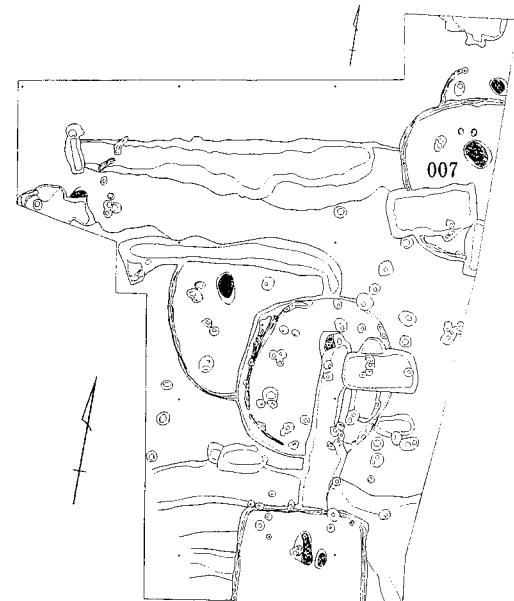
姉崎古墳群周辺の歴史的様相は、古墳群の形成という一つの指標がある以外には必ずしも明らかでない。いわゆる歴史時代に至って、養老川流域における中心的役割は、養老川右岸の「国分寺台」側に移っている。この勢力の移動をどう見るかは、やはり、姉崎古墳群、上海上国の動態も加味してかかる必要がある。そのような社会的状況の中で「姉崎神社」が建立されるに至る経緯もおぼろげながら見えてくるのではないかと思われる。宅地化の波に追われる姉崎地区であるが、そこに存在するであろう考古資料の持つ意味は大きい。 (高橋 康男)



第1図 姉崎東原遺跡と周辺の主要古墳(1/50000 市原市遺跡分布地図より)

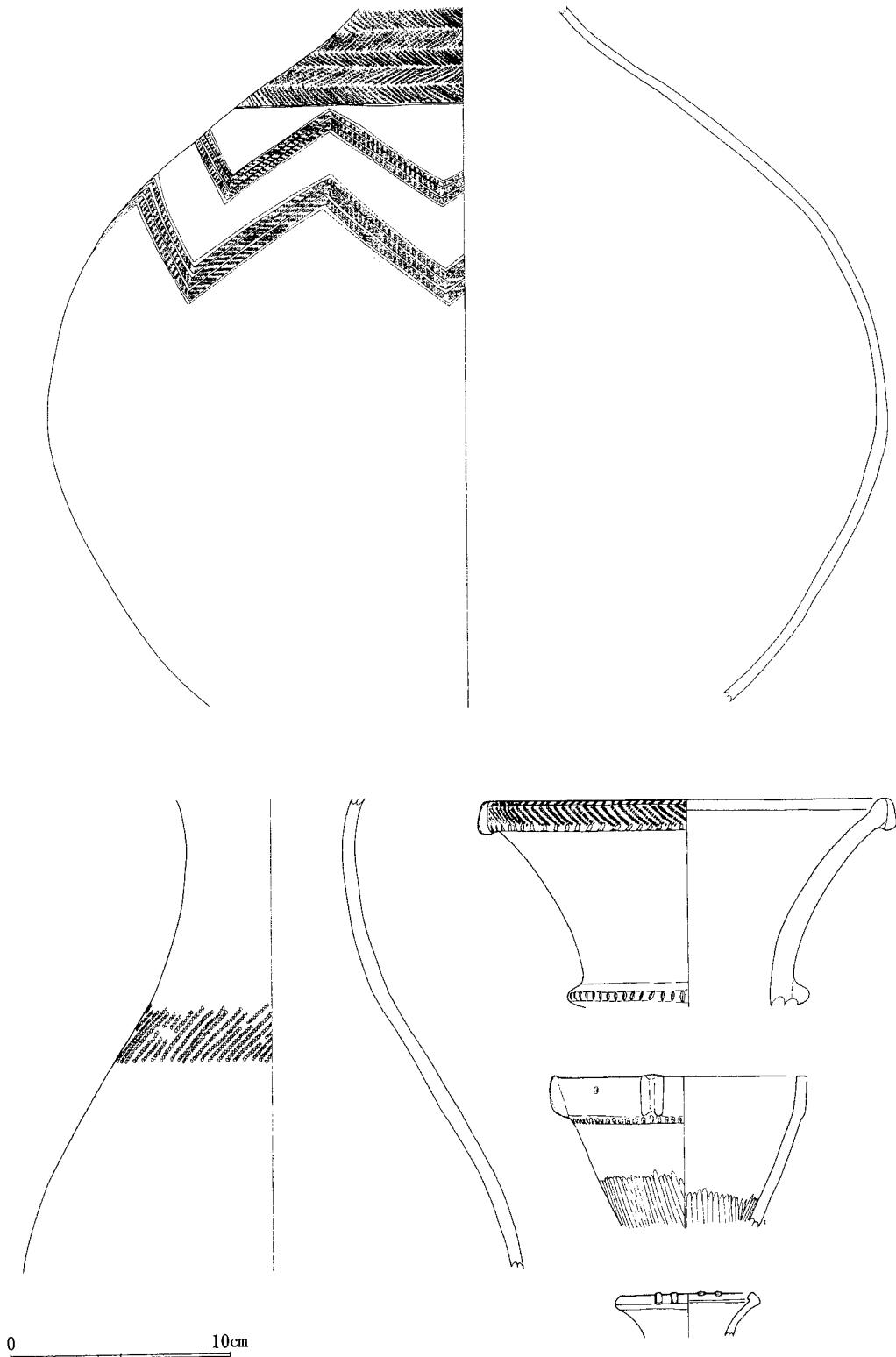


第2図 調査範囲と周辺の地形(1/5000)

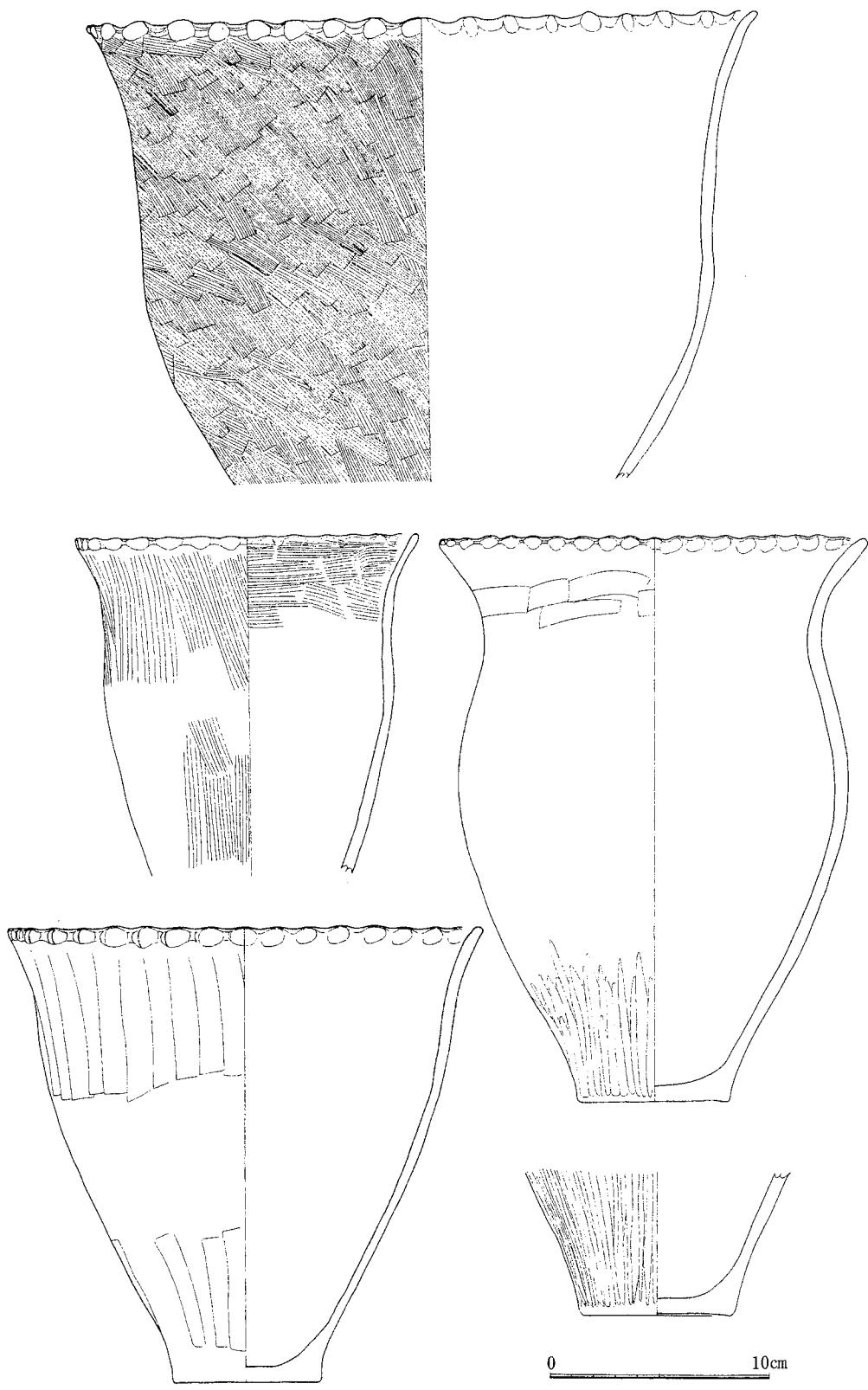


この区域の西北部で円墳・古墳(いずれも周溝のみ)が、また西側で溝状の落ち込みが検出されているが紙面の都合上、割愛した。

第3図 主要遺溝分布図(1/250)



第4図 姉崎東原遺跡 007住居跡出土遺物(1)



第5図 姉崎東原遺跡 007住居跡出土遺物(2)

13. 高坂・棒ヶ谷遺跡

事業名 個人宅造に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市高坂字棒ヶ谷215-1地先他

調査期間 昭和62年10月8日～10月31日(確認、本調査)

調査面積 約3,000m²

調査概要 調査は、市不特定遺跡発掘調査事業として実施した。当遺跡は、養老川中流域の左岸台地上に位置し、標高は、約50mである。当地は、南側を除く三方に小谷が入り、北側に突出する形態を示す台地上で、平坦部は北側に向かつてわずかに下降し、また、南側隣接地は一段高い尾根が続いている。遺跡全体の面積は、約30,000m²と考えられ、現在は、大部分が畠で、一部が宅地と山林に利用されている。

今回の調査は、遺跡の北東端の平坦部分を実施した。当

第1図 棒ヶ谷遺跡周辺の地形図(スクリーントーンが調査区)

地区の現状は、

山林となってい

た。また、東側

は、既に土取り

により削除され、

北側は、小寺院

(薬王寺)が存在

し、境内には、

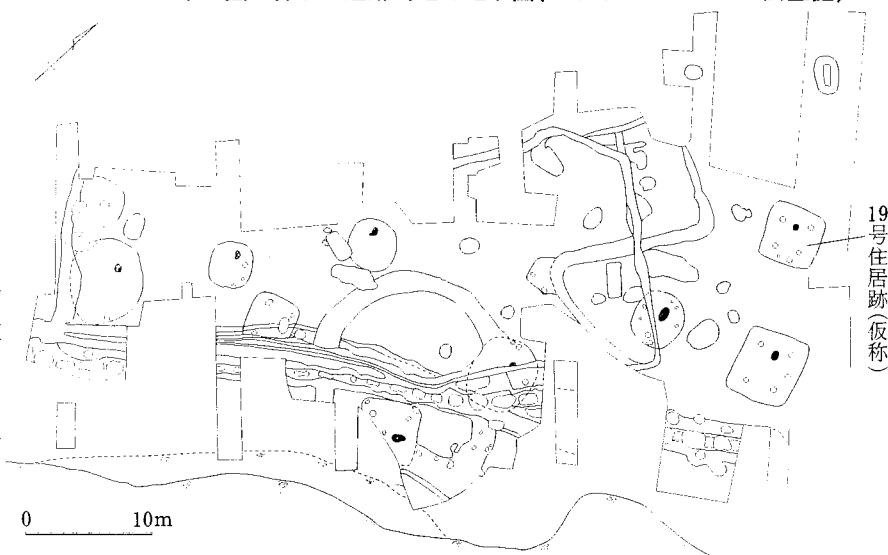
室町期頃と推定

される五輪塔片

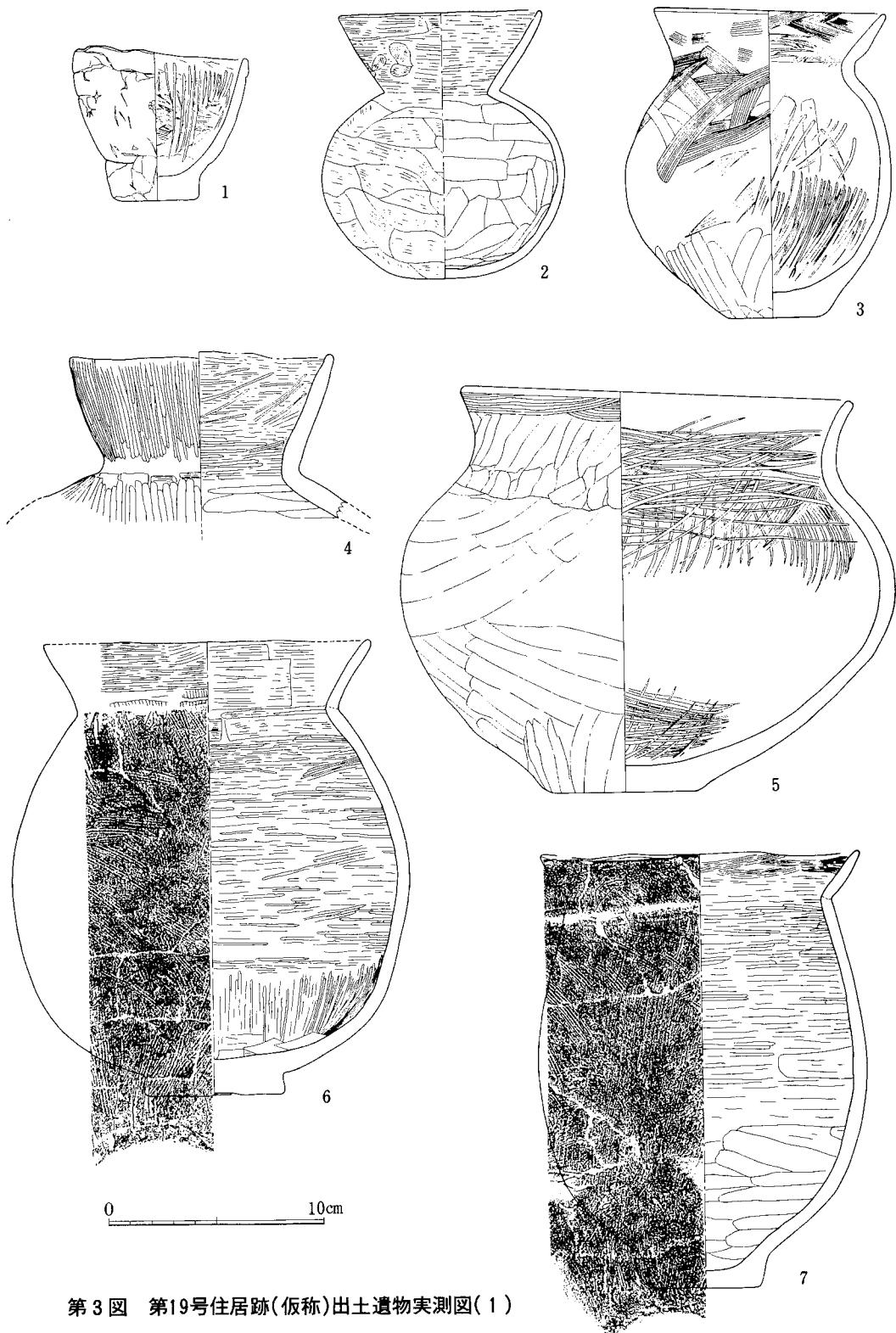
が散乱し、また、

0 10m

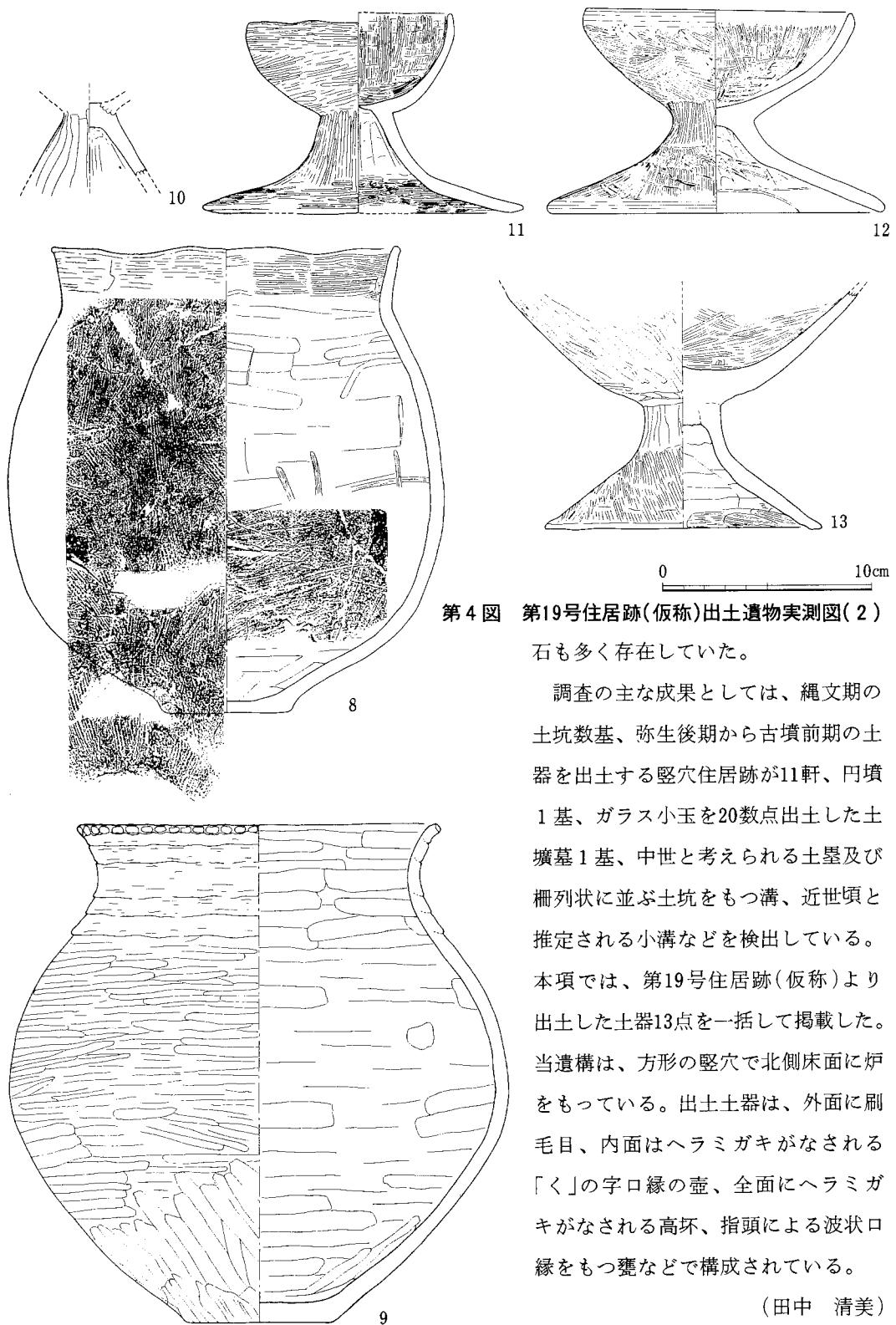
江戸中期頃の墓



第2図 棒ヶ谷遺跡調査全体図



第3図 第19号住居跡(仮称)出土遺物実測図(1)



第4図 第19号住居跡(仮称)出土遺物実測図(2)

石も多く存在していた。

調査の主な成果としては、縄文期の土坑数基、弥生後期から古墳前期の土器を出土する堅穴住居跡が11軒、円墳1基、ガラス小玉を20数点出土した土壙墓1基、中世と考えられる土墨及び柵列状に並ぶ土坑をもつ溝、近世頃と推定される小溝などを検出している。本項では、第19号住居跡(仮称)より出土した土器13点を一括して掲載した。当遺構は、方形の堅穴で北側床面に炉をもっている。出土土器は、外面に刷毛目、内面はヘラミガキがなされる「く」の字口縁の壺、全面にヘラミガキがなされる高壺、指頭による波状口縁をもつ甕などで構成されている。

(田中 清美)

14. 北 旭 台 遺 跡

事 業 名 ゴルフ練習場建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地 市原市磯ヶ谷字旭台96-1、103-3他

調査期間 昭和62年8月27日～9月8日(確認調査)

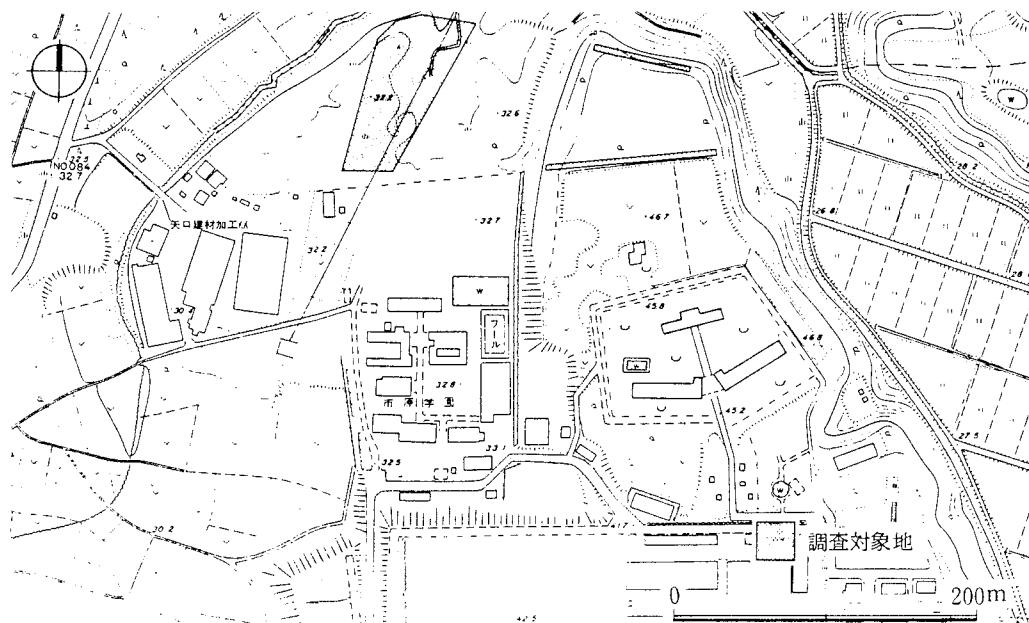
調査面積 5,200m²

調査概要 遺跡は養老川中流域右岸に灌ぐ小河川の形成する標高45m前後の舌状台地突端部に位置するA地点と、眼下に存在する標高32m前後のB地点に対して行なわれた遺構確認調査であり、A地点に対してはフェンス建設予定地に対して2本のトレンチを、B地点については建物建設予定地に対して14本のトレンチを設定して調査を進めた。またA～B地点に到る平坦面は現状においてもハードロームが露出している状況であり、すでに遺構は削平されてしまったものと考えられる。

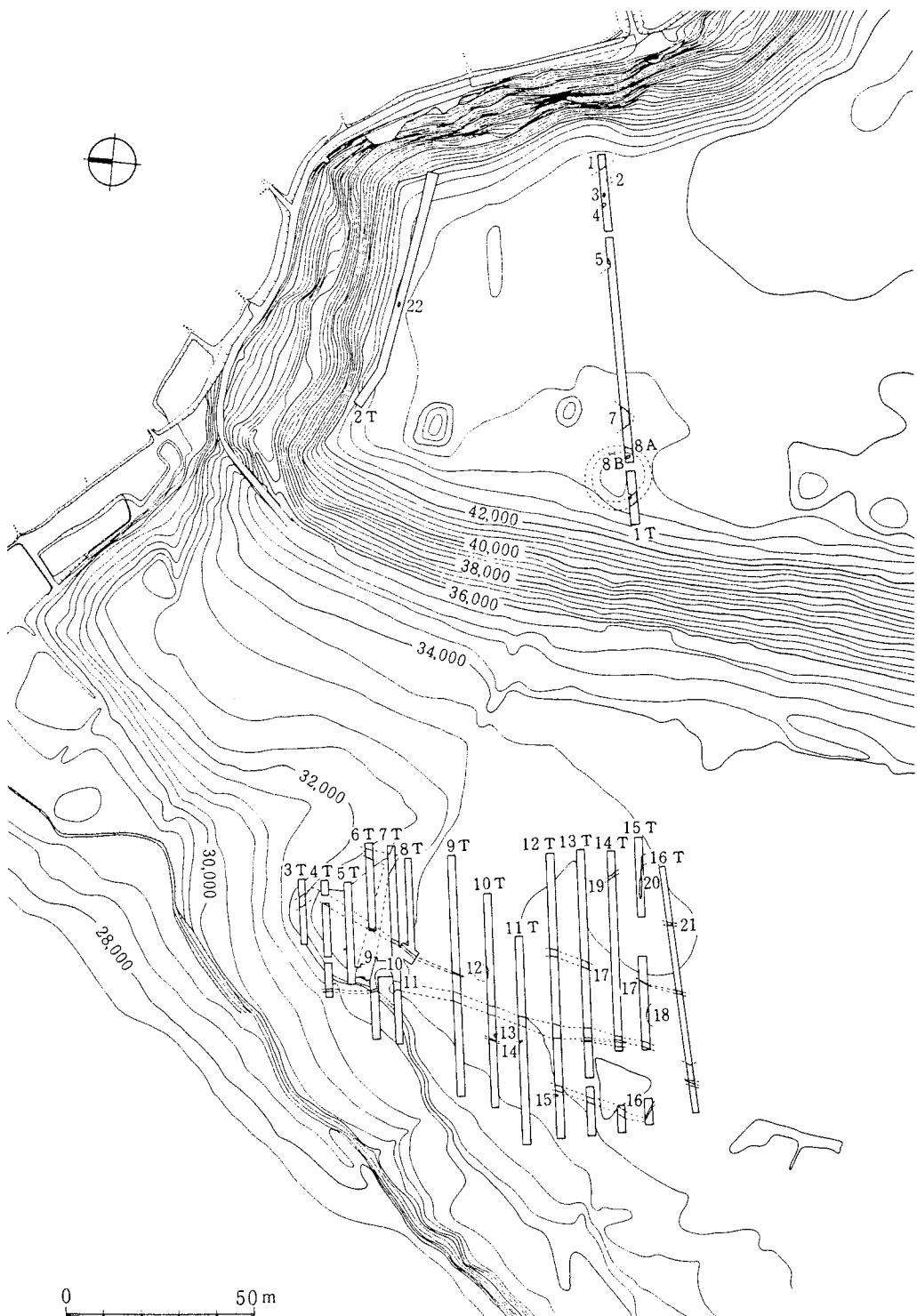
調査の結果以下の遺構が検出されたが、一部を除いて覆土を掘り下げていない為、具体的な時期・性格等については不明な点が多い。

(木對 和紀)

遺構No.	名 称	備 考	遺構No.	名 称	備 考	遺構No.	名 称	遺構No.	名 称
1	住居跡		7	住居跡	条痕文系土器	12	住居跡?	18	住居跡?
2	土 壤		8 A	円 墳?	墳丘残存	13	土 壤	19	溝
3	土 壤		8 B	炉 穴	一部調査	14	土 壤	20	溝
4	土 壤		9	溝		15	土 壤	21	溝
5	住居跡	土師器破片	10	住居跡	久ヶ原期	16	溝	22	土 壤
6	風倒木跡		11	溝		17	溝		



第1図 北旭台遺跡調査範囲



第2図 北旭台遺跡遺構配置図

15. 中高根・南名山遺跡

事業名 市原市市道6018号線拡張工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市中高根字南名山1340-2他

調査期間 昭和62年10月16日～昭和62年11月21日

調査面積 780m²(確認調査・本調査)

調査概要 中高根南名山遺跡は、椎津川の上流河川にあたる深城川水系と、養老川水系との分水嶺にあたる市原市中高根字南名山の洪積台地平坦面に位置している。当台地の標高は、約80メートル前後であり、周囲にもいくつかの遺跡が知られている。

まず、先土器時代～縄文時代では、南名山遺跡の西側に近隣する南原遺跡から、比較的にまとまった石器群が出土しており、縄文時代草創期(上黒岩並行期)の所産と考えられている。また、貝塚では、掘込貝塚や山見塚貝塚が、近隣に知られている。

次に、奈良時代～平安時代では、南名山遺跡の東側隣接地に、久保台遺跡が知られるほか、北西には、永作遺跡・金出台遺跡などの製鉄遺跡が知られている。また、北側隣接地には、字「大街道」が見られる。望陀郡から市原郡へ通じる「鎌倉街道」に関連するものであろう。

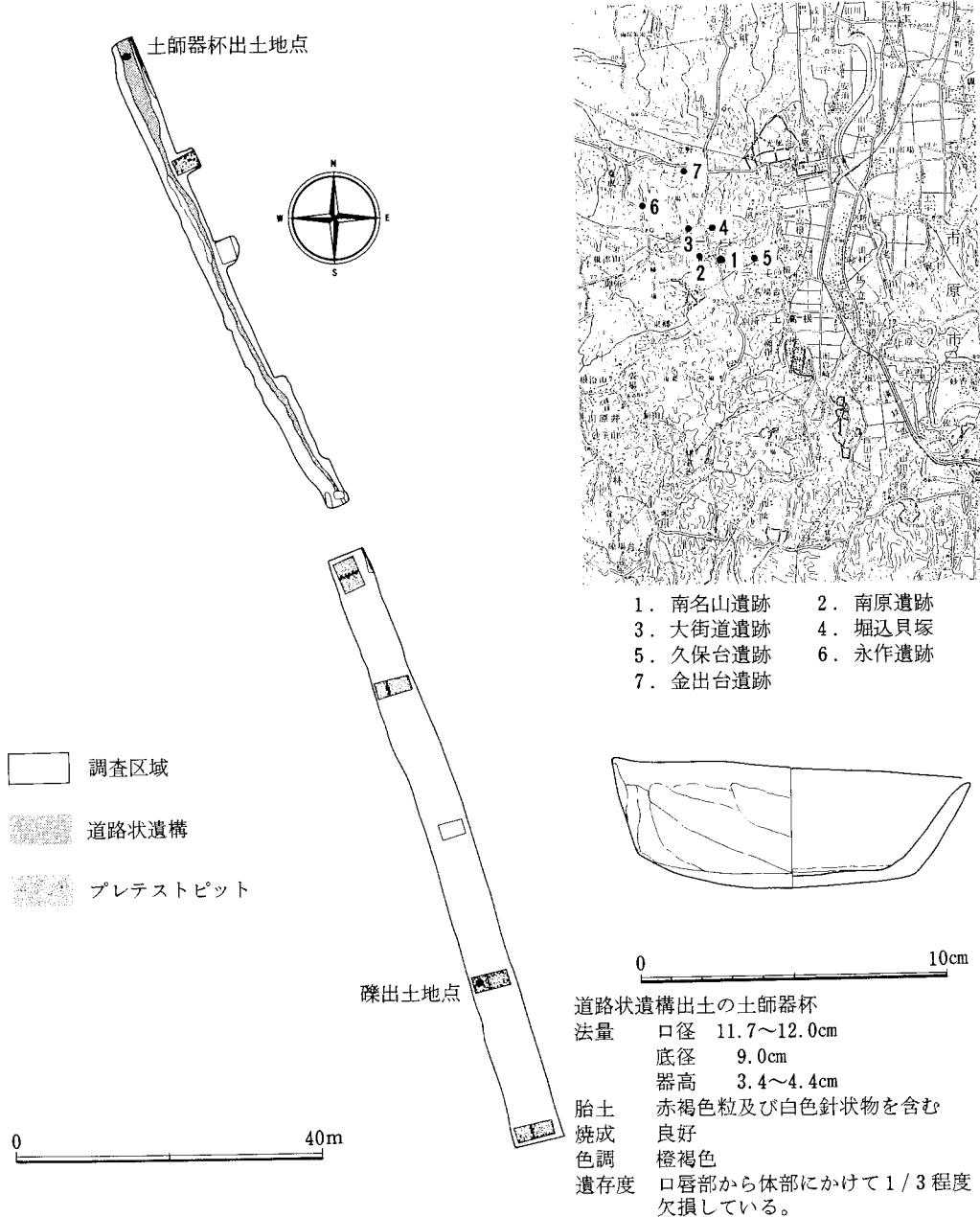
調査は、市原市市道6018号線の拡張工事に先行して、現道の東側片側にて遺構の所在を確認し、拡張して記録保存の処置を講じたものである。調査時点における現況は、茶畠及び荒蕪地であった。

確認調査では、2×4mのトレンチを5か所・2×5mのトレンチを3か所現道に直行するよう設定し、遺構の有無を確認する方法をとった。この結果、北側の3か所のトレンチで道路状の遺構が確認された。

本調査では、先に確認された道路状遺構について、可能な限り拡張して調査するとともに、北側の1か所と南側の4か所のトレンチについて、先土器時代に関する試掘調査を実施した。調査の結果は、以下のとおりである。

道路状遺構 今回の調査で確認された遺構は、本遺構のみであった。この道路状遺構は、ほぼ現道に沿って東側の調査区内を南北に走行している。遺構の確認面は、現地表面より約20cm下のソフトローム直上層であった。確認された遺構の規模は、幅約160cm深さ10cm～40cmであり、長さ約70cmに渡って調査することができた。調査区域北端の覆土中より8世紀中頃の土師器杯が1点出土している。(図参照)

プレテストピット 先土器時代に関する試掘調査を5か所のトレンチで実施した結果、南側第2番目の調査区内において、2点の自然礫と1点の薄片とが確認された。いづれも、B B - II層下部からの出土である。なお、現地表面からB B - II層までの深さは約180cmであった。



中高根南名山遺跡

また、他のテストピットからは、遺物の出土が認められなかった。

縄文土器 他に、調査区域からは、縄文土器が出土している。

以上が今回の調査の概要である。調査面積が狭く、南名山遺跡の一端を見たに過ぎなかつたが、良好な資料を得ることができた。

(田所 真)

よしの いちごうふん みなみいわさき よしの いせき 16. 吉野1号墳、南岩崎・吉野遺跡

事業名 昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査事業(市内遺跡群)

所在地 市原市西国吉字吉野1697-102、103

調査期間 昭和62年7月22日～昭和62年8月26日

調査面積 350m²

調査概要 吉野1号墳・南岩崎吉野遺跡は、養老川中流左岸の吉野台と呼ばれる台地上に位置している。この吉野台は、かつて50基以上の古墳からなる吉野古墳群が形成されたところであったが、現在では吉野台団地として閑静な住宅地となっており、吉野1号墳は市の指定文化財として墳丘部分が保存されている。

今回調査を実施した地点は、この吉野1号墳に北側で隣接する宅地部分であり、個人専用住宅建設に先行して実施されたものである。国・県の補助金により市原市から委託された。

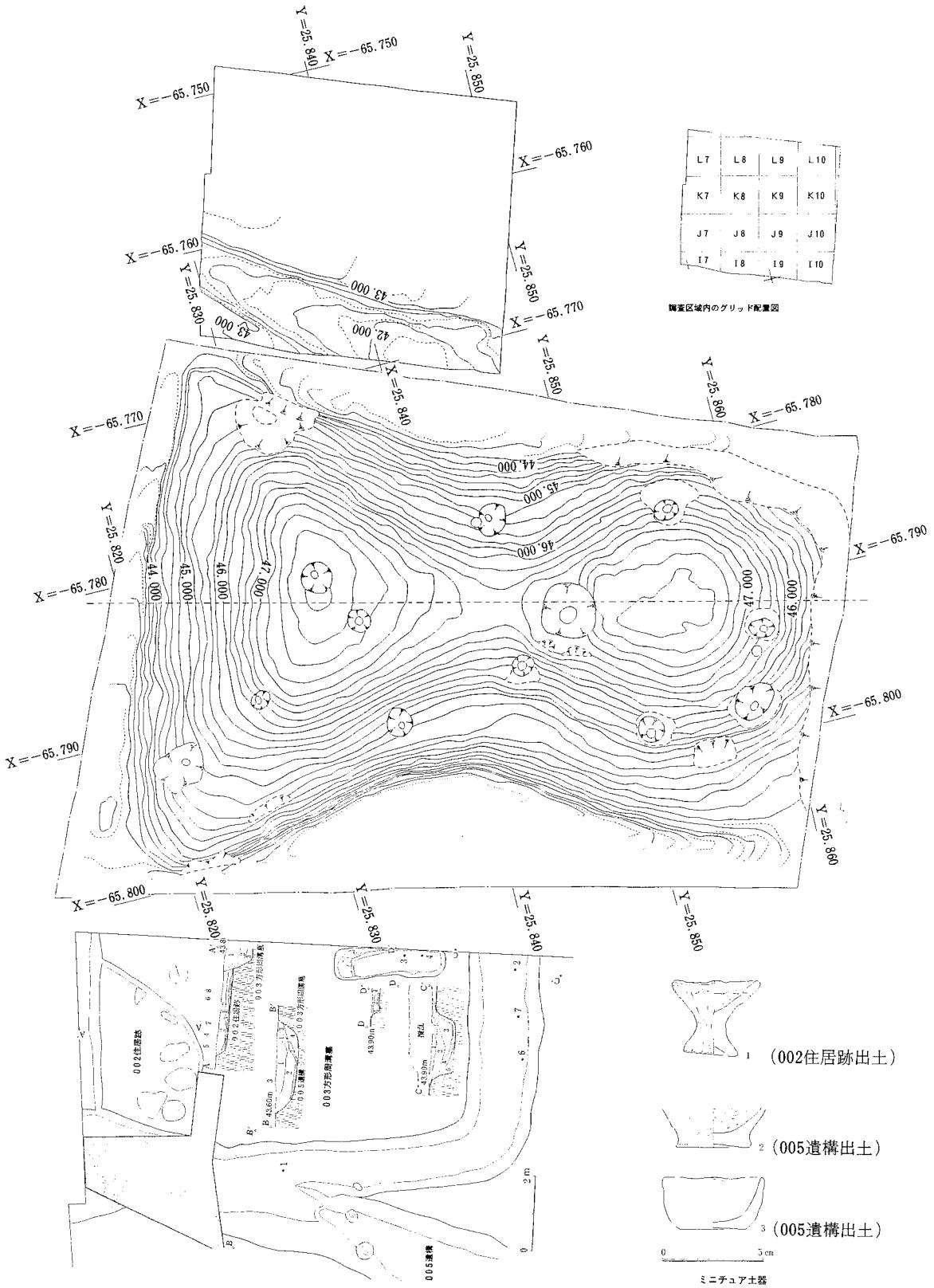
調査の結果、吉野1号墳の前方部周溝の一部と、弥生時代終末期～古墳時代前期の複合遺跡である南岩崎吉野遺跡の一部分(方形周溝墓・竪穴式住居跡など)が明らかとなった。

吉野1号墳の周溝調査では、前方部の北西コーナー付近を確認した。周溝の規模は、幅員約3.5m～4.0mであり、くびれ部付近が最も深く掘り下げられている。墳丘及び周溝覆土から若干の埴輪片が出土しており、円筒埴輪のほか、形象埴輪の存在も確認されている。今回の調査及び墳丘測量図から想定される古墳の規模は、主軸長約52m・後円部径約31m・前方部幅員約42m・後円部高約3.8m・前方部高約4.2mである。墳丘部表面から6世紀後半に比定される須恵器蓋杯の身の受け部が一片出土している。

002住居跡は、調査区の北西コーナーに検出されている。一辺約3.3mの隅丸方形を呈するものと思われ、床面直上から図示した高杯のミニチュア土器が出土している。古墳時代前期の所産と考えられる。

003方形周溝墓は002住居跡の東側に重複して検出されている。外辺約13.5m、内辺約9.5mの規模を有するものと思われ、調査区北端において辛じて主体部を検出することができた。主体部及び周溝部分から壺形土器・台付甕・高杯・土玉などが出土している。弥生時代終末期～古墳時代前期の所産と考えられ、002住居跡に先行している。

003方形周溝墓と吉野1号墳前方部周溝との間に、004遺構と005遺構とが検出されている。いずれも溝状を呈する遺構であり、005遺構からは挿図2・3に掲載したミニチュア土器2点をはじめとして、壺形土器・台付甕などが出土している。003方形周溝墓同様、弥生時代終末期～古墳時代前期の所産と考えられるが、中に宮ノ台式期のものも含まれている。003方形周溝墓に先行するものと考えられよう。004遺構については不詳である。(田所 真)



吉野1号墳、南岩崎吉野遺跡

17. 奉免・上原台遺跡

事業名 市原ゴルフ俱楽部増設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市奉免字上原台1,130地先他

調査期間 昭和62年4月1日～7月31日(本調査)

調査面積 69,700m²の23%(本調査)

調査概要 本年度は、昨年度に引きつづき残りの部分の本調査を実施した。上原台遺跡は、養老川中流域の右岸台地上に位置し、周辺には、養老川の右岸に、妙香、塚ノ台、米沢稻荷台など、左岸に、佐是、吉野、報恩寺などの多くの古墳群等が存在する。また、古墳～平安時代にかけての堅穴住居跡等を検出した沢遺跡^(注1)は、当遺跡の南側の河岸段丘上に立地している。

今年度の調査は、前年度の継続調査と更に、縄文時代早期～前期の炉穴22基・土坑22基・古墳時代後期の堅穴住居跡3軒・火葬墓5基などを実施した。本項では、それらの中よりA地区より検出した縄文期の5軒の堅穴住

居跡のうち、第82号と

古墳及び方形周溝状遺

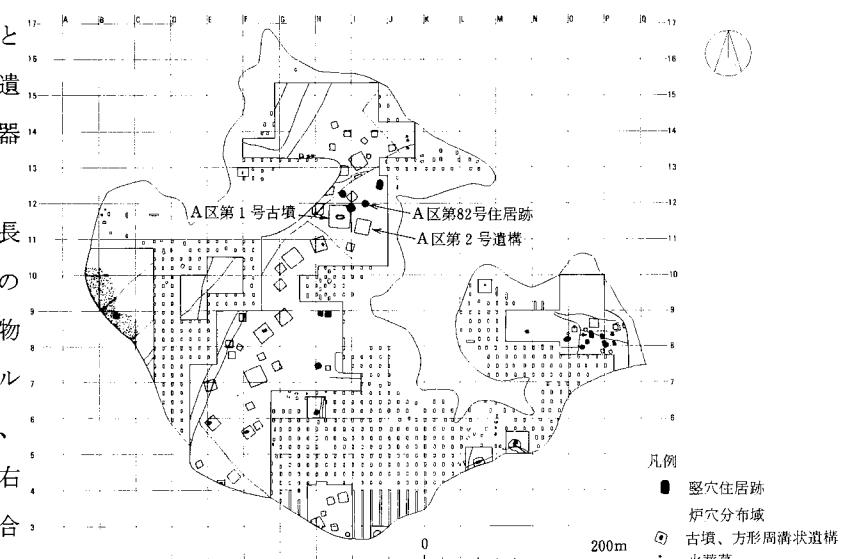
構より出土した須恵器

の一部を掲載した。

第82号住居跡は、長
径4.5m、不整円形の
堅穴である。出土遺物
は、すべて小片で、ル
ープ文やコンパス文、
丸組紐の回転施文、右
撫りと左撫りを撫り合
わせた原体を羽状に配



第1図 上原台遺跡調査区位置図(1:15,000)



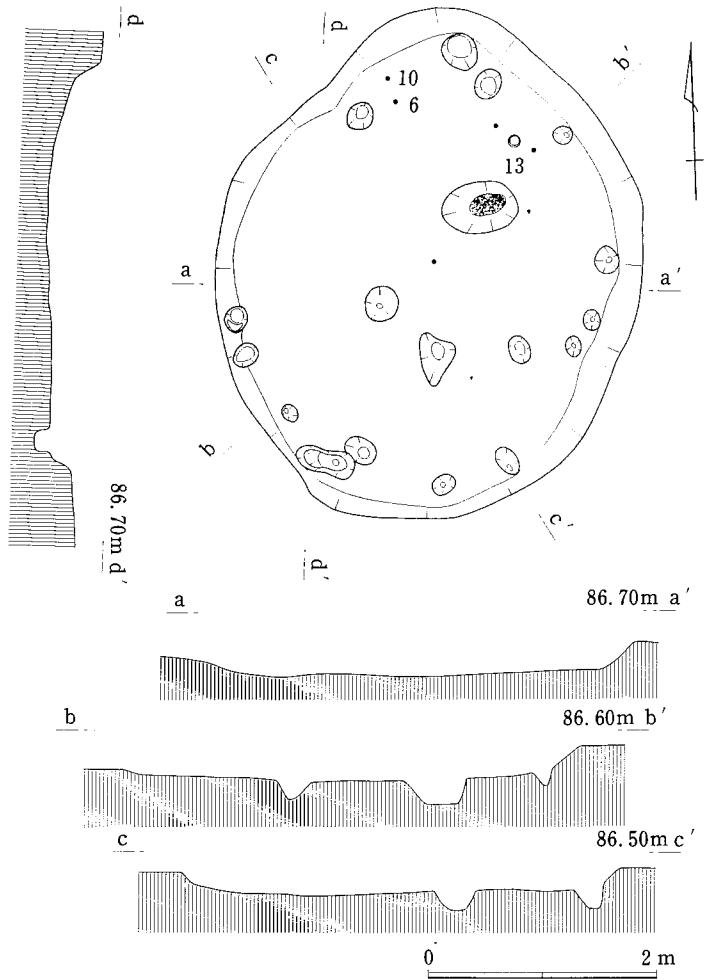
第2図 上原台遺跡調査全体図

するなどの文様をもち、胎土には纖維を含み、前期関山式の新しい断階と推定される。

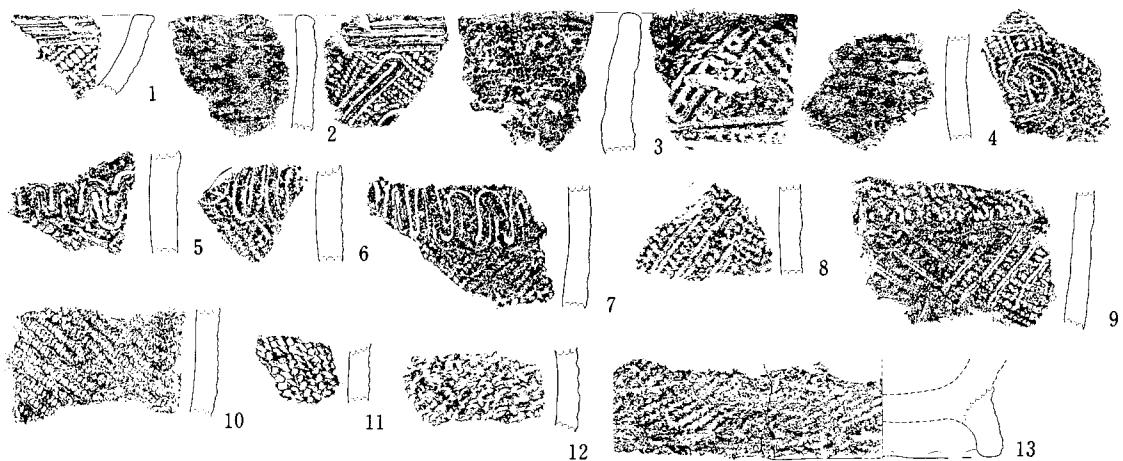
須恵器は、No. 1 が大甕(第1号遺構墳頂部出土)で、器高は、35.5cmをはかる。細片で出土している。No. 2 は、長頸壺の下半部である。(第1号遺構周壕内出土)。右回転糸切り離しの後、断面方形の高台を付ける。No. 3 は、短頸壺(第2号遺構周壕内出土)で肩部に耳を4個もつ。No. 4 は、蓋(第2号遺構周壕内出土)で、No. 3 とセットと考えられる。

(田中 清美)

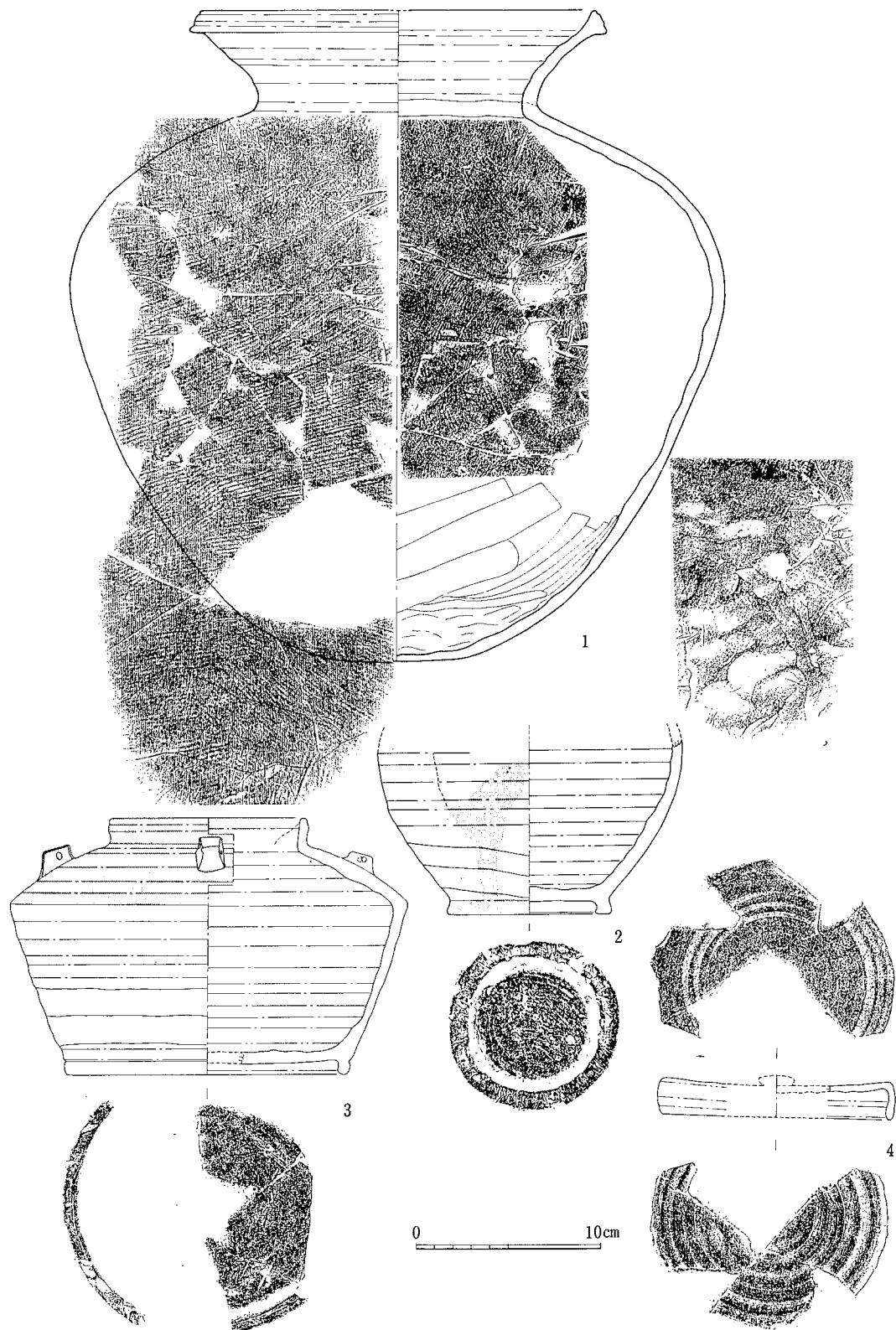
(注1)米田耕之助「沢遺跡」
(財)市原市文化財センター調査報告書第19集1987



第3図 第82号住居跡(仮称)実測図



第4図 第82号住居跡(仮称)出土遺物実測図



第5図 古墳、方形周溝状遺構出土の主な須恵器

18. 鶴舞・広小路遺跡

事業名 昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査事業(市内遺跡群)

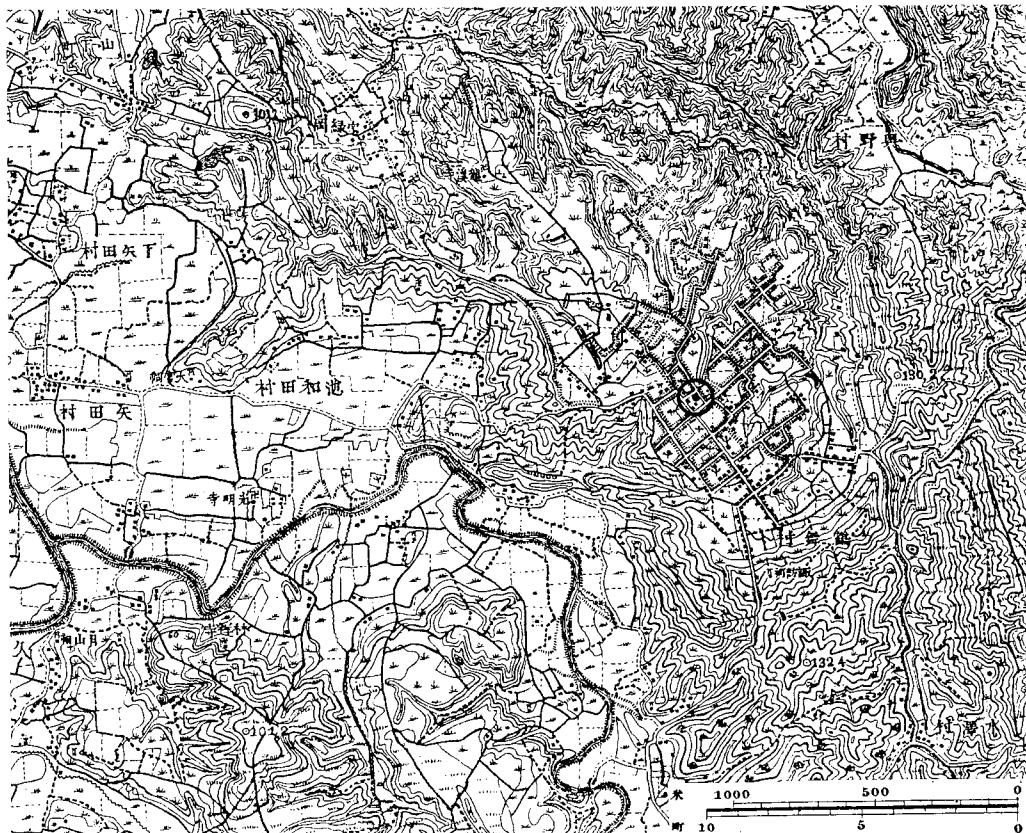
所在地 市原市鶴舞字広小路349-4番地

調査期間 昭和62年6月16日～昭和62年6月27日

調査面積 574m²

調査概要 鶴舞広小路遺跡は、標高100m程の鶴舞丘陵上に位置し、南は養老川支流平蔵川の小支谷、北は内田川支流石川川の小支谷の分水嶺に位置する。南側は急峻であり、標高差50mの要害の地にある。鶴舞の地は1867年の大政奉還後、浜松の井上氏が転封し藩庁を設置した。検出された遺構は、直径約5mの不整円形プランの土坑一基のみである。遺物は小片の土師器のみである。詳細は昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書(既刊)に報告済である。鶴舞城郭については、調査研究が途上にあるが、明治時代の迅速図(下載)に土塁等が記載されている。広小路遺跡は西側の藩庁と東側の藩士居住区の区画線上にありそうである。

(近藤 敏)



19. 永田窯跡

事業名 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市不入574ほか

調査期間 昭和62年11月1日～昭和63年3月31日

調査面積 16,000m²のうちの1,600m²

調査概要 永田窯跡の調査は、市原市加茂地区における県営圃場整備事業に先立って実施した、灰原部分の確認調査である。

永田窯跡については、これまでにも3回にわたる調査が行なわれてきた。特に、1974年に国士館大学(大川 清 教授)が実施した窯跡本体部分の調査では、14基以上の須恵器窯跡が確認されており、千葉県内でも有数の窯業地域の1つであったことが、明らかとなってきた。

今回の調査の主な目的は、この1974年の調査では対象にならなかった隣接部分に、新たな窯の存在を確認することにあった。「圃場整備事業」という限定の中での調査であったことから、灰原のみの確認調査に終始したが、大旨、2地点において、数基ずつの窯によって構成される窯跡群の存在を確認することができた。

以下、調査時点における調査区の名称に従って、この2地点の窯跡群について、調査概要を簡単に述べておくこととしたい。

第一トレンチ区の調査 第一トレンチ区とした調査地点は、1974年に確認された永田窯跡群の東南約350メートルの地点に位置している。この地点は、永田・不入窯跡群の所在する舌状段丘において、不入窯跡群の反対側斜面にあたっている。(第2図下段参照)

この地点の窯跡群の存在は、昭和61年秋の収穫にあたって、斜面部より農業用機械を搬入したことによって始めて明らかになったものである。現地における現水田面と段丘平坦面との比高差は、第2図上段に示すように、わずか2メートル程度であった。

この調査区において想定される窯の位置と基数については、第2図上段の地形図に星印で示したとおりである。いづれも、窯体は現在の道路の下に遺存しているものと考えられる。しかし、灰原には、窯跡単位による遺物の集中傾向は、認められなかった。縦軸(C～C')における包含層の広がりは、窯操業時における地表面の傾斜変換点までのものが、現位置を留めているものと理解されたが、灰原の分布範囲を明らかにするまでには至らなかった。

出土遺物としては、杯類がもっとも多い。底部に右方向の回転ヘラケズリ調整を施すものがポピュラーであり、切り離しの技法には、「回転糸切り離し」が用いられている。

そのほかの出土遺物としては、鉢・壺類・盤類のほか風字硯が特殊遺物として認められている。

第三トレンチ区の調査 第三トレンチ区とした調査地点は、1974年に確認された永田窯跡群の北西約20メートルの地点に位置している。(第1図上段参照)

この地点の窯跡群の存在は、比較的に早くから知られていたようである。すなわち、1974年の調査では対象地域とされていないようであるが、この時期の前後に、電気探査による本体部分の確認が実施されてきている。しかし、この時の調査結果については、いまだ未報告であつて、詳細をは知りえないままとなっている。一方、この地点の窯跡群が、1974年の調査による窯跡群との位置関係において明らかとなつたのは、1984年のことであった。現地は、下草が生える程度の植林地前面の斜面であり、灰原が地表面に若干観察されていた。

現地における現水田面と段丘平坦面との比高差は、第1図下段に示すように5.5メートル程度であり、築窯に適した傾斜面を有している。

この調査区において想定される窯の位置と基数については、第1図下段の地形図に星印で示したとおりである。いづれも、窯体は、現在の植林地の下に遺存しているものと考えられ、焚き口については、灰原がトレンチ内にかかるものもあるので、上・下2段に築窯されている可能性も考えられる。

トレンチ調査区内の遺物分布状況は、前面にわたって密であり、灰原の窯跡単位による集中傾向は認められていない。また、縦軸(A~A')における遺物の拡がりは、第1トレンチ区と同様であり、影響範囲が調査範囲の端に当たる20メートルラインにまで、疎らながらも及ぶことが明らかとなっている。

出土遺物としては、杯類のほか鉢・素縁長頸壺・甑の把手・盤類・沈線文を有している長頸壺・甕類などが認められている。

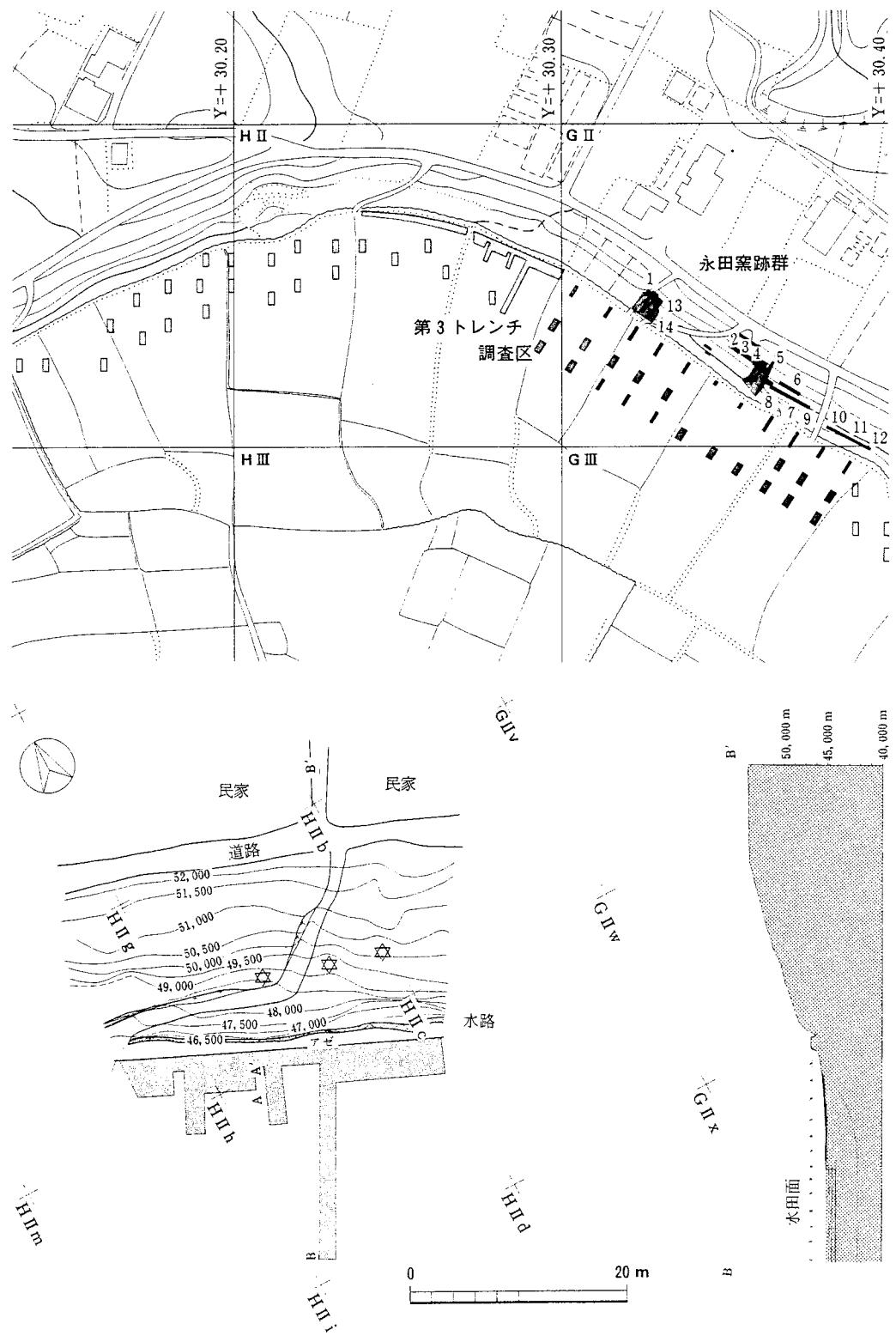
以上が、永田窯跡群の調査概要である。

さて、永田・不入窯跡群のこれまでの調査結果をみると、永田窯跡群側では14基・不入窯跡群側では4基の窯跡がこれまでに確認されてきている。これに今回の確認調査結果を総合すると、25基前後の窯がこの地に操業してきたことになる。

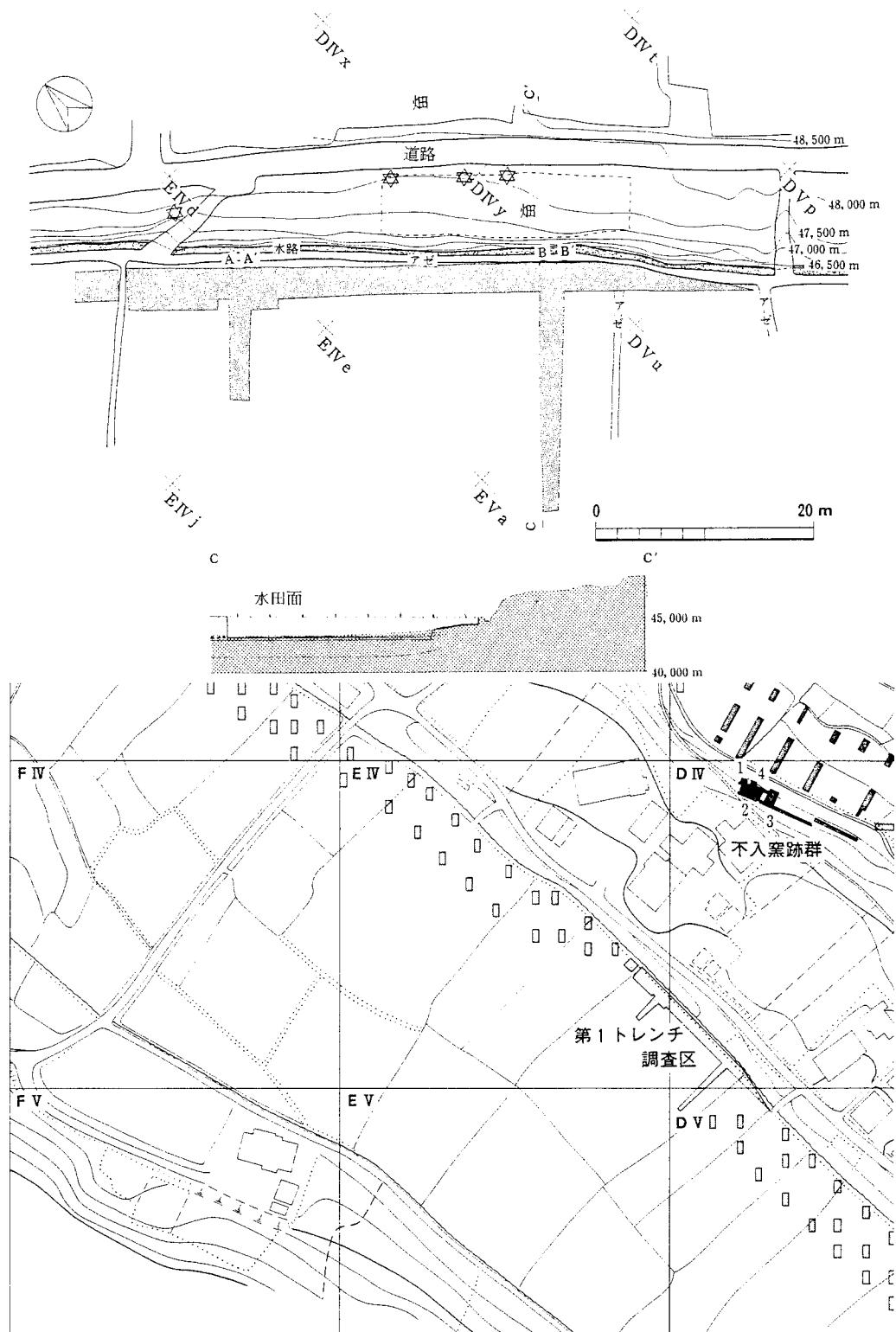
また、時期的には、第3トレンチ区出土のものの中に、古い様相を有するものが含まれているが、近隣する大和田窯とは連続する関係にはない。所謂、「律令的土器様式」として成立してくる地方窯(官・民の性格づけは別として)の一つとしての位置付けは、従来通りの理解でよいものと考えられる。

瓦窯跡は、認められていない。

(田所 真)



第1図 第3トレンチ調査区



第2図 第1トレンチ調査区

IV 昭和62年度 寄贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
博物館だより No.26 上総博物館報 第61号 特別展 小櫃川流域の自然と文化	群馬県立歴史博物館 千葉県立上総博物館 同上	62. 4. 2 62. 4. 3 〃
博物館だより 55 はばたき 第4号 わらびて No.35	名古屋市博物館 (財)岩手県文化振興事業団 岩手県立埋蔵文化財センター	〃 〃 〃
伊達町文化財調査報告書 第2集 同上 第3集	福島県伊達郡伊達町教育委員会 同上	62. 4. 6 〃
発掘20年のあゆみ 千葉県木更津市矢那 花山遺跡発掘調査報告書	(財)東大阪市文化財協会	〃
リトルワールド研究報告 第7号 リトルワールド年報 第8号	木更津市教育委員会 人間博物館リトルワールド 同上	62. 4. 7 62. 4. 8 〃
Little World News No.30 リトルワールド QUARTERLY MAGAZINE No.20	同上	〃
境遺跡 真理谷城跡 星谷上古墳・野間木戸古墳 塚原遺跡 下中郷塚 品子台遺跡 本名輪遺跡 東郷台遺跡(川原井廃寺)	(財)君津都市文化財センター 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	62. 4. 9 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
富津火力線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 上総線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 中六遺跡 三箇遺跡群II 二間塚遺跡群確認調査報告書II(昭和59年度) 飯野陣屋濠跡発掘調査報告書 年報 No.3 年報 No.4 君津市埋蔵文化財分布地図 第3回 東京の遺跡展	同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 東京都教育府	〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 62. 4. 10
八王子市富士見町遺跡発掘調査報告 滋賀埋文ニュース 第84号 千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報一昭和60年度 鳥取埋文ニュース No.17 請西遺跡群確認調査報告書 考古学資料館紀要 第3輯 沼津市博物館紀要 11 栃木県埋蔵文化財調査報告 第68集	八王子市教育委員会 滋賀県埋蔵文化財センター 千葉県教育府文化課 鳥取県埋蔵文化財センター 木更津市教育委員会 國學院大學考古學資料館 沼津市歴史民俗資料館 栃木県教育委員会文化課 同上 同上	〃 62. 4. 11 〃 62. 4. 13 62. 4. 14 62. 4. 15 〃 62. 4. 16 〃
同上 第75集 同上 第76集	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
栃木県埋蔵文化財調査報告 第77集	栃木県教育委員会文化課	62. 4. 16
同上 第78集	同上	"
同上 第79集	同上	"
同上 第80集	同上	"
山口達日本画展	千葉三越	62. 4. 20
ひろしまの遺跡 第28号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	"
高槻城三ノ丸跡発掘調査概要報告書	高槻市立埋蔵文化財調査センター	"
野尻湖発掘の考古学的成果 第1集	龜田直美	"
新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要 I	(財)滋賀県文化財保護協会	"
同上 II	同上	"
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書III-1	同上	"
山ノ神遺跡発掘調査報告書	同上	"
国道161号線バイパス関連遺跡調査概要(昭和61年度)7	同上	"
諸富町文化財調査報告書	諸富町教育委員会	"
同上 第2集	同上	"
南総町上高根 萩の原遺跡発掘調査概報	南総郷土文化研究会	62. 4. 22
南総郷土文化研究会史料集 第2集	同上	"
南総郷土文化研究会双書 第12巻	同上	"
市原市埋蔵文化財調査報告 5	同上	"
南総郷土文化研究会誌 第3号	同上	"
同上 第4号	同上	"
同上 第5号	同上	"
同上 第6号	同上	"
同上 第9号	同上	"
同上 第10号	同上	"
同上 第11号	同上	"
文化ホール紀要 10	松戸市教育委員会	"
資料館だより No.7	世田谷区立郷土資料館	"
研究紀要 -4-	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
一般国道17号線(月夜野バイパス)改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	II 同上	"
同上 III 同上	III 同上	"
切通遺跡発掘調査報告	山武町教育委員会	62. 4. 23
荒追遺跡群発掘調査報告書	同上	"
各務原市文化財調査報告書 第4号	各務原市教育委員会社会教育課	"
同上 第5号	同上	"
東京・八王子市石川天野遺跡1984年度調査	八王子市教育委員会社会教育部	"
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告 第7集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	62. 4. 24
福岡市埋蔵文化財センター年報 第5号	福岡市埋蔵文化財センター	62. 4. 27
野尻町文化財調査報告書 第2集	野尻町教育委員会	"
京都府埋蔵文化財情報 第22号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
奈良国立文化財研究所年報 1986	奈良国立文化財研究所	"
浮世絵と絵本	成田山靈光館	"
小田原市文化財調査報告書 22集	小田原市教育委員会	62. 4. 30
要覧-創立20周年のあゆみ-	(財)元興寺文化財研究所	"
(財)元興寺文化財研究所通信 No.26	同上	"

書名	寄贈者	受入日
松本市文化財調査報告 No.21	松本市教育委員会	62.5.2
同上 No.22	同上	"
同上 No.47	同上	"
同上 No.48	同上	"
同上 No.49・50	同上	"
同上 No.51	同上	"
同上 No.52	同上	"
同上 No.53	同上	"
同上 No.54	同上	"
同上 No.55	同上	"
同上 No.56	同上	"
葦火 7号	(財)大阪市文化財協会	"
千葉県長生郡陸沢町埋蔵文化財分布地図	陸沢町立歴史民俗資料館	"
鳥取県教育文化財団調査報告書 23	(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター	"
ウォーク 万葉 第10号	田所 真	62.5.6
昭和60年度 県営畠地帶総合土地改良事業(西奈地区) 埋蔵文化財発掘調査報告書	静岡市教育委員会	"
名古屋大学文学部研究論集 XCV III 史学33(考古学抜刷第2集)	名古屋大学文学部考古学研究室	"
栃木県高根沢町 上の原遺跡	矢野 淳一	"
栃木県小川町 観音古墳	同上	"
日本窯業史研究所 年報II	同上	"
神奈川県横浜市 宮沢遺跡	同上	"
栃木県小川町 浄法寺遺跡発掘調査概報	同上	"
栃木県小川町 大森遺跡・谷田1号墳	同上	"
神奈川県横浜市 観福寺裏遺跡	同上	"
滋賀埋文ニュース 第85号	滋賀県埋蔵文化財センター	"
泉北考古資料館だより No.26	大阪府立泉北考古資料館	"
同上 No.27	同上	"
同上 No.28	同上	"
同上 No.29	同上	"
日本考古学研究所集報 IX	日本考古学研究所	62.5.8
各務原市資料調査報告書 第8号	各務原市歴史民俗資料館	"
神奈川県埋蔵文化財調査報告 29	神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課	62.5.9
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第112集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	"
同上 第114集	同上	"
同上 第115集	同上	"
考古遺物資料集 第7集	同上	"
紀要 VII	同上	"
山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第17集	山梨県埋蔵文化財センター	"
同上 第19集	同上	"
野川中洲北遺跡	野川中洲北遺跡調査団	62.5.11
展示解説	松本市立考古博物館	"
静岡県埋蔵文化財調査研究所 研究紀要 I	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	"
原川遺跡 昭和60年度発掘調査概報	同上	"
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第10集	同上	"

書名	寄贈者	受入日
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 15 同上 16	神奈川県立埋蔵文化財センター 同上 同上 同上	62. 5. 12 " " " " " "
泥牛庵跡やぐら群 一つ山遺跡	同上	" "
千葉県の文化財1987	(財)千葉県文化財センター	" "
日本全国書誌 週刊誌1987-9 No.1580	国立国会図書館	62. 5. 13
世田谷区神社台帳	東京都世田谷区立郷土資料館	" "
豪徳寺 文化財総合調査報告	同上	" "
京都市遺跡調査報告書 第6冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	62. 5. 14
高槻市文化財調査概要 XI	高槻市立埋蔵文化財調査センター	62. 5. 15
環太平洋北部地域における狩獵獣の捕獲・配分・儀礼 ひばり No.8	北海道大学文化部北方文化研究施設 北海道文化財研究所	" " 62. 5. 16
ヘロカルウス遺跡 荒砥上川久保遺跡	同上	" "
埋文とやまと 第17号、第18号	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	" "
長野県立博物館だより 第6号、第7号	富山県埋蔵文化財センター 長野市立博物館	62. 5. 18 62. 5. 20
昭和61年度新収蔵資料目録	同上	" "
調布市郷土博物館だより No.25	調布市郷土博物館	62. 5. 21
縁泥片岩製石器の分布と伝播(覚書)(神奈川考古第23号 別刷)	宇田川恵子	62. 5. 22
なりた No.39	成田山靈光館	62. 5. 23
佐原市内遺跡群発掘調査概報	佐原市教育委員会	" "
瀬戸内海歴史民俗資料館だより 第24号	瀬戸内海歴史民俗資料館	62. 5. 25
小見川町文化財報告 第11集 同上 第12集	小見川教育委員会 同上	62. 5. 26 " "
夏井廢寺跡 I	福島県いわき市教育委員会	62. 5. 28
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報II 昭和61年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	" "
千葉県立房総風土記の丘だより 第12号、第13号	千葉県立房総風土記の丘	" "
千葉県立房総風土記の丘年報 10 -昭和61年度-	同上	" "
秋田城跡 昭和61年度秋田城跡発掘調査概報	秋田市教育委員会	62. 5. 29
資料館だより Vol. 13 No.1	沼津市歴史民俗資料館	" "
錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要 I	(財)滋賀県文化財保護協会	" "
滋賀文化財だより No.112、No.113	同上	" "
文化財教室シリーズ(91)	同上	" "
千葉県埋蔵文化財分布地図(3)	千葉県教育委員会	" "
千葉日報 縮刷版 1986/11 同上 1987/1 同上 1987/2	市原市教育委員会文化課 同上 同上	" " " " " "
遺跡調査会報告 第6冊	野田市遺跡調査会	62. 6. 1
千葉県多古町中城下泥炭遺跡発掘調査報告書	多古町教育委員会	" "
千葉県多古町境遺跡発掘調査報告	同上	" "
埋蔵文化財調査研究報告 I	宮崎県総合博物館	" "
名古屋市博物館だより 56	名古屋市博物館	62. 6. 3
志波城跡 昭和61年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会	" "
わらびて No.36	岩手県立埋蔵文化財センター	62. 6. 4
別府大学付属博物館展示資料図録 1986	別府大学付属博物館	" "

書名	寄贈者	受入日
大分県旧石器時代遺跡分布図 1986	別府大学付属博物館	62. 6. 4
別府大学付属博物館だより No.25	同上	"
広島県立埋蔵文化財センター年報 1	広島県立埋蔵文化財センター	62. 6. 5
名古遺跡－A調査地区－	同上	"
備後国府跡	同上	"
明官地廐寺跡	同上	"
静岡県埋蔵文化財調査研究所要覧 研究所報 No.9	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	62. 6. 6
昭和61年度の発掘調査	同上	"
静岡県史だより 第3号、第4号	同上	"
長野県埋蔵文化財ニュース No.20	静岡県教育委員会県史編さん室	"
(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 1	(財)長野県埋蔵文化財センター	"
金沢城の発掘(金沢大学日本海域研究所報告 第18号別刷)	金沢大学文学部考古学研究室	62. 6. 8
茨城県立歴史館報 14	茨城県立歴史館	"
第2回 宇治市内発掘調査報告会 資料	宇治市教育委員会	"
宇治市文化財調査報告 第1冊	同上	"
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 1986年度	豊中市教育委員会	"
摂津豊中大塚古墳	同上	"
とよなか探訪 ぶらり史跡たずねて	同上	"
鳥居前古墳	大阪大学文学部国史研究室	62. 6. 10
千葉県文化財センター研究紀要 11	(財)千葉県文化財センター	"
研究連絡誌 第17号～第19号	同上	"
八千代市井戸向遺跡	同上	"
東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書 III	同上	"
千葉市小中台遺跡	同上	"
大井東山遺跡・大井大畑遺跡	同上	"
沓掛貝塚	同上	"
佐倉市向山谷津・明代台・木戸場・古内遺跡	同上	"
佐倉市腰巻遺跡	同上	"
主要地方道成田松尾線 V	同上	"
関宿城跡	同上	"
千葉県山武郡大網白里町北後谷横穴	同上	"
千葉県文化財センター年報 No.11	同上	"
千葉県埋蔵文化財分布地図(3)	同上	"
我孫子市埋蔵文化財報告 第9集	我孫子市教育委員会	62. 6. 11
同上 第10集	同上	"
上川村文化財調査報告書 4	新潟大学人文学部考古学研究室	62. 6. 12
滋賀埋文ニュース 第86号	滋賀県埋蔵文化財センター	62. 6. 15
年報－昭和60年度－ Vol. 4	長野市立博物館	"
岩手県立博物館調査研究報告書 第3冊	岩手県立博物館	"
千葉県市原市埋蔵文化財分布地図－南部編－	市原市教育委員会文化課	62. 6. 16
茨城県立歴史館だより No.41	茨城県立歴史館	62. 6. 17
新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要III	(財)滋賀県文化財保護協会	"
県道下豊浦鷹飼線道路改良工事に伴う金剛寺遺跡発掘調査報告書 II	同上	"
博物館だより No.27	群馬県立歴史博物館	62. 6. 18

書名	寄贈者	受入日
尼崎市文化財調査報告 第18集	尼崎市立文化財収蔵庫	62. 6.18
東北大大学埋蔵文化財調査年報 2	東北大大学埋蔵文化財調査委員会	62. 6.19
長岡京市埋蔵文化財センターレポート 昭和60年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	"
長岡京市文化財調査報告書 第18冊	長岡京市教育委員会	"
日野市埋蔵文化財発掘調査報告 3	日野市教育委員会	62. 6.20
同上 4	同上	"
考古資料図録 I	横須賀市人文博物館	"
同上 II	同上	"
奈良の文化財 No.5 古墳II	奈良市育委員会	62. 6.22
平城京東市跡推定地の調査 IV 第6次発掘調査概報	同上	"
同上 V 第7次発掘調査概報	同上	"
奈良市文化財調査センター紀要 1986	同上	"
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和61年度	同上	"
八王子市南部地区遺跡調査報告 3	八王子市教育委員会	62. 6.23
八王子市埋蔵文化財年報 昭和61年度	同上	"
浦和市遺跡調査会報告書 第74集	浦和市遺跡調査会	"
同上 第75集	同上	"
同上 第76集	同上	"
同上 第77集	同上	"
同上 第78集	同上	"
同上 第79集	同上	"
同上 第80集	同上	"
同上 第81集	同上	"
後生車古墳群発掘調査報告書(第2次)	茨城県石岡市教育委員会	62. 6.24
鹿の子遺跡発掘調査報告書(第3次)	同上	"
茨城県石岡市白久台遺跡調査概報	同上	"
昭和60年度 滋賀県文化財調査年報	(財)滋賀県文化財保護協会	"
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 X III - 1	同上	"
琵琶湖大橋有料道路建設工事に伴う栗東町高野遺跡発掘調査報告書	同上	"
千葉市迎山遺跡	(財)千葉市文化財調査協会	62. 6.25
財団法人印旛都市文化財センター発掘調査報告書 第3集	(財)印旛都市文化財センター	"
同上 第4集	同上	"
同上 第5集	同上	"
同上 第6集	同上	"
同上 第7集	同上	"
同上 第8集	同上	"
同上 第11集	同上	"
茨城県教育財團文化財調査報告 第38集	(財)茨城県教育財團	"
同上 第39集	同上	"
同上 第40集	同上	"
同上 第41集	同上	"
同上 第42集	同上	"
同上 第43集	同上	"
年報6 昭和61年度 調査課10年のあゆみ	同上	"
京都府埋蔵文化財情報 第23号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"

書名	寄贈者	受入日
図書目録一原文庫一	松本市立考古博物館	62. 6. 25
研究紀要 3	山梨県立考古博物館	"
山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第11集	同上	"
同上 第20集	同上	"
同上 第28集	同上	"
同上 第31集	同上	"
要覧一創立20周年のあゆみ一	(財)元興寺文化財研究所	"
(財)元興寺文化財研究所通信 №27	同上	"
葦火 8号	(財)大阪市文化財協会	62. 6. 29
昭和61年度 市川市埋蔵文化財発掘調査報告	市川市教育委員会	"
埼玉古墳群発掘調査報告書 第5集	埼玉県立さきたま資料館	"
愛知県埋蔵文化財情報2 昭和60年度	愛知県教育委員会	"
財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報 昭和61年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター	"
財団法人愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第1集	同上	"
同上 第2集	同上	"
大田区立郷土博物館だより 第16号	大田区立郷土博物館	62. 6. 30
特別展図録 繩文の神秘 注口土器	同上	"
成田市の文化財 第17集	成田市教育委員会	62. 7. 1
同上 第18集	同上	"
千葉県成田市宗吾西鷲山遺跡発掘調査報告書	同上	"
群馬県立歴史博物館紀要 第8号	群馬県立歴史博物館	62. 7. 3
中里遺跡 1 一遺跡と古環境 1	東北新幹線中里遺跡調査会	"
同上 2 一遺跡と古環境 2	同上	"
枚方市文化財年報 VII	(財)枚方市文化財研究調査会	62. 7. 6
埋蔵文化財ニュース 55、56、57	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	"
諸富町文化財調査報告書 第3集	諸富町教育委員会	62. 7. 6
第121回展示最新出土品展4(パンフレット)	近藤 敏	62. 7. 7
ひろしまの遺跡 第29号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	62. 7. 8
別府大学付属博物館だより №26	別府大学付属博物館	62. 7. 9
新版ジュニア版日本の歴史 第1巻 日本のなりたち	読売新聞社出版局図書編集部	"
シンポジウム弥生人の四季	六興出版編集部	"
テーマ展 化石	調布市郷土博物館	62. 7. 13
浦和市東部遺跡群発掘調査報告書 第8集	浦安市遺跡調査会	"
貝塚博物館紀要 第14号	千葉市立加曽利貝塚博物館	"
加曽利貝塚博物館20年のあゆみ	同上	"
伊予国分尼寺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	62. 7. 13
上三谷古墳群	同上	"
四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 II	同上	"
朝倉高大寺遺跡・朝倉中力遺跡・朝倉下岡遺跡	同上	"
埋文えひめ 第5号、第6号	同上	"
福島県須賀川市仲ノ平古墳群 昭和61年度発掘調査概報	米田 耕之助	62. 7. 14
須賀川市埋蔵文化財調査報告書 駅前地区遺跡発掘調査概報(Ⅲ)	同上	"
國學院大學文化部考古学実習報告 第13集	國學院大學文化部考古学研究室	62. 7. 15
同上 第14集	同上	"
滋賀埋文ニュース 第87号	滋賀県埋蔵文化財センター	62. 7. 17

書名	寄贈者	受入日
遺跡調査会報告 第5冊	野田市遺跡調査会	62. 7.17
同上 第7冊	同上	"
山梨文化財研究所報 第1号	(財)山梨文化財研究所	62. 7.18
山梨県中巨摩郡昭和町義清神社内遺跡	同上	"
明野の文化財 第2集	同上	"
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
同上 第15集	同上	"
千葉県神崎町太平遺跡発掘調査報告書	神崎町教育委員会	62. 7.20
宇曾川災害復旧助成事業に伴う妙楽寺遺跡 I	(財)滋賀県文化財保護協会	"
同上 II	同上	"
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書III-2	同上	"
県道片岡栗東線特殊改良第1種工事に伴う芦浦遺跡発掘調査報告書	同上	"
一般国道8号(長浜バイパス)関連遺跡発掘調査報告書 IV	同上	"
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XIV-1	同上	"
松原市遺跡発掘調査概要 昭和61年度	松原市教育委員会	62. 7.22
京都市遺跡調査概報 第13冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
同上 第20冊	同上	"
同上 第21冊	同上	"
同上 第22冊	同上	"
千葉県指定有形文化財 府中日吉神社本殿修理工事報告書	市原市教育委員会	62. 7.23
京都市埋蔵文化財論集 第1集	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	62. 7.24
般若寺遺跡(西屋敷地内)竜王山古墳般若寺遺跡(穴塚小学校地内)発掘調査概報	土浦市教育委員会	"
(財)元興寺文化財研究所通信 No.27	(財)元興寺文化財研究所	"
中信地方の旧石器—松本平のあけぼの一	松本市立考古博物館	"
鏡と古墳 景初四年鏡と芝ヶ原古墳(図録)	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
房総における古墳時代後期 土師器の年代と地域性 第6回総括シンポジウム資料集	木戸 和紀	62. 7.27
第16回企画展 稲を伝えた人々 その生活と墓制	長野市立博物館	"
昭和61年度調査 埋蔵文化財展	(財)滋賀県文化財保護協会	"
かみしき 29	下総史料館	62. 7.28
静岡県湖西市33KV富士電化鷹津線一部増強工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和61年度	湖西市教育委員会	61. 7.29
静岡県湖西市 西笠子第64号窯跡発掘調査報告書 昭和61年度	同上	"
静岡県湖西市国道1号線潮見バイパス(湖西地区)埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和61年度	同上	"
茂原市文化財センター年報 No.1 昭和59・60年度	(財)茂原市文化センター	"
資料館だより Vol. 13 No. 2	沼津市歴史民俗資料館	62. 7.30
お茶の水史学 第30号	お茶の水女子大学読史会	"
横浜市南区六ツ川山王台遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	"
神奈川県高座郡寒川町 県営畠田町地内遺跡(第1期~第4期)発掘調査報告書	同上	"
藤沢市大庭根下遺跡発掘調査報告書	同上	"
金大考古 第14号	金沢大学文学部考古学研究室	62. 7.31
「北九州の横穴墓」展(図録)	北九州市立考古博物館	"
福島県文化財調査報告書 第172集	(財)福島県文化センター	62. 8. 1
同上 第173集	同上	"
同上 第174集	同上	"
同上 第175集	同上	"
同上 第176集	同上	"

書名	寄贈者	受入日
福島県文化財調査報告書 第177集	(財)福島県文化センター	62. 8. 1
同上 第178集	同上	"
同上 第179集	同上	"
同上 第180集	同上	"
同上 第182集	同上	"
同上 第183集	同上	"
名古屋市博物館だより 57	名古屋市博物館	62. 8. 3
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告 第35集 第1分冊～第4分冊	(財)北海道埋蔵文化財センター	62. 8. 7
同上 第36集	同上	"
同上 第37集	同上	"
同上 第38集	同上	"
同上 第39集	同上	"
同上 第40集	同上	"
同上 第41集	同上	"
同上 第42集	同上	"
同上 第43集	同上	"
ひばり No.9	北海道文化財研究所	"
長野県埋蔵文化財ニュース No.21	(財)長野県埋蔵文化財センター	62. 8. 10
釧路市桜ヶ丘1・2遺跡調査報告書	釧路市埋蔵文化財調査センター	"
釧路市桜ヶ丘3遺跡調査報告書	同上	"
黒田B遺跡－伊香郡木之本町黒田所在－	(財)滋賀県文化財保護協会	
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XⅢ-3	同上	"
同上 XIV-2	同上	"
中世漆器の塗膜層構成について【西川島一能登における中世村落の発掘調査】(別刷)	田中 新史	"
XⅡ 北江古田遺跡出土赤色漆塗り遺物の塗膜層構成について(抜刷)	同上	"
藤野町嵯峨遺跡	同上	"
野洲町史 第2巻 通史編2	同上	"
おおとね Vol. 9 No.1	千葉県立大利根博物館	62. 8. 13
神奈川県立埋蔵文化財センター年報 6 昭和61年度	神奈川県立埋蔵文化財センター	"
埋蔵文化財 愛知 No.9	(財)愛知県埋蔵文化財センター	"
世田谷区立郷土資料館概要	東京都世田谷区立郷土資料館	"
世田谷区立郷土資料館常設展示解説	同上	"
世田谷区立郷土資料館テーマ展示解説－大場家と代官屋敷－	同上	"
世田谷区立郷土資料館テーマ展示解説－あかりのコレクション－	同上	"
京都府遺跡調査概報 第15冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
同上 第23冊	同上	"
同上 第24冊	同上	"
同上 第25冊	同上	"
滋賀埋文ニュース 第88号	滋賀県埋蔵文化財センター	62. 8. 14
港郷土資料館館報－5－	東京都港区教育委員会	"
湖岸堤天神川水門工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 2	(財)滋賀県文化財保護協会	"
宝持坊遺跡発掘調査報告書	同上	"
草津川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 2	同上	"
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 VI-1	同上	"
同上 XII-4	同上	"

書名	寄贈者	受入日
長野市立博物館だより 第8号	長野市立博物館	62.8.15
古代久留米を探る 第11回くるめの考古資料展	久留米市教育委員会	"
埋文とやま 第19号	富山県埋蔵文化財センター	62.8.19
小山の文化財 第2号	市原市文化課	62.8.20
恒川遺跡群	飯田市教育委員会	62.8.21
重要文化財 文永寺石室・五輪等修理工事報告書	同上	"
殿原遺跡	同上	"
鳥取埋文ニュース No.18	鳥取県埋蔵文化財センター	62.8.24
名古屋市博物館研究紀要 第10巻	名古屋市博物館	"
岩手県水沢市佐倉河胆沢城 昭和61年度発掘調査概報	水沢市教育委員会	"
岩手県水沢市文化財報告書 第16集	同上	"
房総考古学ライブラリー 3 繩文時代(2)	(財)千葉県文化財センター	62.8.26
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	62.8.27
同上	同上	"
九州歴史資料館 収蔵資料目録 4	九州歴史資料館	"
泉北考古資料館だより No.30	泉北考古資料館	62.8.28
財団法人山武郡南部地区文化財センター年報 No.2	(財)山武郡南部地区文化財センター	62.9.2
財団法人山武郡南部地区文化財センター発掘調査報告書 第3集	同上	"
同上	同上	"
大泉村埋蔵文化財調査報告 第5集	(財)山梨文化財研究所	"
東京都町田市真光寺・広袴遺跡群 試掘調査報告書 I	鶴川第二地区遺跡調査会	"
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
同上	同上	"
同上	同上	"
浦和市立郷土博物館館報 第30号	浦和市郷土博物館	62.9.7
葦火 9号	(財)大阪市文化財協会	"
銚子市長塚遺跡群	銚子市教育委員会	"
千葉県銚子市長塚十二山遺跡発掘調査報告書	同上	"
武生市埋蔵文化財調査報告 III	武生市教育委員会	"
同上 IV	同上	"
同上 V	同上	"
同上 VI	同上	"
【福井考古学会会報 第18号】(抜刷)武生市杉町遺跡の採集遺物について	同上	"
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	佐賀県教育委員会	"
同上 (7)	同上	"
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 第9集	同上	"
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第8集	(財)東京都埋蔵文化財センター	"
東京都埋蔵文化財センター研究論集 V	同上	"
資料目録 1	同上	"
銚子市長塚遺跡群	銚子市教育委員会	62.9.9
千葉県銚子市長塚十二山遺跡発掘調査報告書	同上	"
山陰地方研究伝統文化 1987, Mar. No.3	島根大学附属図書館	62.9.11
【考古学雑誌 第72巻 第1号(抜刷)東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内土器	林部 均	62.9.12
なりた No.40	成田山靈光館	"
成田山ミニガイド 1	同上	"

書名	寄贈者	受入日
兵庫県三田市文化財調査報告 第3冊	三田市教育委員会	62.9.14
山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第24集	山梨県埋蔵文化財センター	"
同上 第25集	同上	"
同上 第30集	同上	"
埋蔵文化財調査室年報 3 昭和60年度	(財)北九州市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室	"
研究紀要一創刊号~	同上	"
北九州市埋蔵文化財調査報告書 第54集	同上	"
同上 第55集	同上	"
同上 第56集	同上	"
同上 第57集	同上	"
同上 第58集	同上	"
同上 第59集	同上	"
同上 第60集	同上	"
同上 第61集	同上	"
同上 第62集	同上	"
同上 第63集	同上	"
同上 第64集	同上	"
同上 第65集	同上	"
藤原京 左京二条一坊・同二条二坊 発掘調査報告	奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部	62.9.16
藤原京 右京七条一坊西南坪	同上	"
飛鳥・藤原宮発掘調査概報 17	同上	"
わらびで No.37	岩手県立埋蔵文化財センター	"
茨城県立歴史館だより No.42	茨城県立歴史館	"
千葉県立房総風土記の丘だより 第13号、第14号	千葉県立房総風土記の丘	62.9.21
伊場遺跡発掘調査報告書 第6冊	浜松市博物館	"
滋賀埋文ニュース 第89号	滋賀県埋蔵文化財センター	"
八王子市郷土資料館だより No.30、No.31	八王子市郷土資料館	"
人物コーナー 浮世絵師歌川国直	同上	"
八王子千人同心史編集ニュース No.2	同上	"
郷土の文化財 5	(財)茂原市文化財センター	62.9.24
企画展 繩文時代のむらとくらし	袖ヶ浦町郷土博物館	"
山口大学人文学部考古学研究室研究報告 第4集	山口大学人文学部考古学研究室	"
鴻巣市文化財調査報告 第2集	埼玉県鴻巣市教育委員会	62.9.28
一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
京都府埋蔵文化財情報 第24号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
小さな展覧会 昭和61年度発掘調査の成果から	同上	"
長野県埋蔵文化財センター年報 3	(財)長野県埋蔵文化財センター	62.9.30
群馬県立歴史博物館 博物館だより No.28	群馬県立歴史博物館	"
名古屋市博物館だより 58	名古屋市博物館	62.10.1
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第6輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会	"
同上 第9輯	同上	"
第2回 泉州の遺跡	同上	"
現地説明会資料 6	同上	"
同上 7	同上	"
同上 8	同上	"

書名	寄贈者	受入日
現地説明会資料 9 同 上 10 同 上 11 志那湖底遺跡発掘調査概要	(財)大阪府埋蔵文化財協会 同上 同上 (財)滋賀県文化財保護協会 同上 同上 同上	62.10.1 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
湖岸堤管理用道路志那郡北その2工区志那湖底遺跡発掘調査概要報告書 新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要 IV 県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書 IV-1 桜谷津	同上 同上 同上 清藤 一順	〃 〃 〃 62.10.2
埋蔵文化財調査報告書 2 東京都埋蔵文化財調査報告 第6集 日本考古学協会 昭和56年度大会シンポジウムI北関東を中心とする縄文中期の諸問題 ひろしまの遺跡 第30号 特別展 多摩の交通今昔 調布市郷土博物館だより No.26 石川県立埋蔵文化財センター年報 第7号 金沢市笠舞A遺跡(Ⅲ) 宿向山遺跡 宿東山遺跡 米光萬福寺遺跡 吉竹遺跡 小松市中海遺跡 敷地鉄橋遺跡 永町ガマノマガリ遺跡 篠原遺跡 普正寺遺跡 石川県立埋蔵文化財センター所報 第22号～第24号 立山町文化財調査報告書 第2冊 東京大学文学部考古学研究室研究紀要 第5号 同上 第6号 東京都埋蔵文化財調査報告 第14集 東京都八丈町倉輪遺跡 第4集 学芸研究紀要 信濃町立野尻湖博物館 博物館だより No.1～No.15 倉敷考古館 解説と周辺の歴史 新島本村文化財調査報告 第2集 郷土の文化財 5 長野市立博物館だより 第9号 開館6周年記念特別企画展 森の文化 年報 -7- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第61集 同上 第62集 同上 第63集 同上 第64集 同上 第65集 同上 第66集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター 調布市郷土博物館 石川県立埋蔵文化財センター 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 富山大学人文学部考古学研究室 東京大学文学部 同上 東京都教育委員会 八丈町教育委員会 東京都教育委員会 信濃町立野尻湖博物館 (財)倉敷考古館 田所 真 (財)茂原市文化財センター 長野市立博物館 同上 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 62.10.7 62.10.8 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 62.10.12 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 62.10.13 62.10.14 62.10.15 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	

書名	寄贈者	受入日
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第67集	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	62.10.15
松戸市文化財調査小報 17 同上 18	松戸市教育委員会 同上	62.10.16 〃
松戸市文化財調査報告 第13集	同上	〃
千葉県立上総博物館報 第63号	千葉県立上総博物館	62.10.20
特別展 大田の文化財 信仰と絵画(図録)	大田区立郷土博物館	〃
大田区立郷土博物館だより 第17号	同上	〃
博物館ノート №37～№39	同上	〃
滋賀埋文ニュース 第90号	滋賀県埋蔵文化財センター	62.10.21
群馬県前橋市小糸荷遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	〃
群馬県富岡市中島遺跡発掘調査報告書	同上	〃
群馬県前橋市天神遺跡発掘調査報告書	同上	〃
柳久保遺跡群 IV	同上	〃
揖津農中大塚古墳	豊中市教育委員会	〃
野畠遺跡 第2次発掘調査概報	同上	〃
別府大学付属博物館だより №27、№28	別府大学付属博物館	〃
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 VII-3 同上 XIV-4	(財)滋賀県文化財保護協会 同上	〃 〃
平取町 二風谷遺跡	平取町教育委員会	62.10.23
愛知県陶磁資料館研究紀要 6	愛知県陶磁資料館	〃
特別展 近世の丹波焼(図録)	同上	〃
兵庫県埋蔵文化財調査年報 昭和56年度	兵庫県埋蔵文化財調査事務所	62.10.26
昭和59年度 兵庫県教育委員会発掘調査現地説明会資料	同上	〃
昭和60年度 兵庫県教育委員会発掘調査現地説明会資料	同上	〃
昭和61年度 兵庫県教育委員会発掘調査現地説明会資料	同上	〃
兵庫県埋蔵文化財調査事務所開所記念 展示の解説	同上	〃
考古資料からみた中世のくらし 荘園・館・経塚	同上	〃
弥生人のムラとくらし－弥生時代の兵庫－	同上	〃
葦火 10号	(財)大阪市文化財協会	〃
年報 6	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
昭和61年度 市内遺跡発掘調査報告書	日立市教育委員会	62.10.28
特別史跡 大坂城跡	(財)大阪市文化財協会	62.10.29
特別史跡 大坂城跡II	同上	〃
難波宮址の研究 第八	同上	〃
九品仏－淨真寺(図録)	世田谷区立郷土資料館	62.10.30
長野県埋蔵文化財センタ一年報 3	全国埋蔵文化財関東中部ブロック法人連絡協議会	〃
長野県埋蔵文化財ニュース №17～№21	同上	〃
森の宮遺跡	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	〃
史跡 難波宮跡	同上	〃
『世界考古学大系』日本編補遺(抜刷)遺跡・遺物の保存科学	天山舎	62.11.2
埋蔵文化財 愛知 №10	(財)愛知県埋蔵文化財センター	〃
埋文とやま 第20号	富山県埋蔵文化財センター	〃
富山県埋蔵文化財センター 10年の歩み	同上	〃
特別企画展 ひすい 地中からのメッセージ	同上	〃
京都府遺跡調査報告書 第3冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃

書名	寄贈者	受入日
京都市遺跡調査報告書 第7冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	62.11.2
千葉県東金市油井古墳群 第1号墳発掘調査報告	東金市教育委員会	"
千葉県東金市上行寺裏横穴 第6・7号横穴発掘調査報告書	同上	"
東金市ヒキヶ谷遺跡発掘調査報告書	同上	"
東金市菅谷古墳群及び南外輪戸遺跡 滝木浦II遺跡発掘調査報告書	同上	"
千葉県東金市作畠遺跡発掘調査報告書	同上	"
道庭遺跡 第1分冊	同上	"
東京大学総合研究資料館ニュース 11号	東京大学総合研究資料館	62.11.4
港郷土資料館だより 第11号	東京都港区立郷土資料館	62.11.6
長野県埋蔵文化財ニュース No.22	(財)長野県埋蔵文化財センター	"
県営干拓地等農地整備事業関係発掘調査報告所 III	(財)滋賀県文化財保護協会	62.11.12
所報 吉備 第3号	岡山県古代吉備文化財センター	62.11.13
滋賀埋文ニュース 第91号	滋賀県埋蔵文化財センター	"
千葉県市原市毛尻遺跡発掘調査報告書	市原市教育委員会文化課	"
(財)元興寺文化財研究所通信 No.28	(財)元興寺文化財研究所	62.11.16
堀之内	市川市教育委員会	"
本郷尺地遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
八堂山遺跡 II	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	62.11.18
東京大学総合研究資料館ニュース 7号	東京大学総合研究資料館	62.11.19
兵庫県立歴史博物館ニュース No.20	田中 新史	62.11.20
わたりやぐら 第3号～第5号	同上	"
特別展 八王子と川の文化	八王子市郷土資料館	"
八王子市郷土資料館だより No.32	同上	"
浦和市遺跡調査会報告書 第82集	浦和市遺跡調査会	62.11.26
同上 第83集	同上	"
同上 第84集	同上	"
同上 第85集	同上	"
鴻巣市文化財調査報告 第1集	鴻巣市教育委員会	"
鴻巣市遺跡調査会報告書 第2集	同上	"
同上 第3集	同上	"
同上 第4集	同上	"
同上 第5集	同上	"
上栗須遺跡・中大塚遺跡・下大塚遺跡遺跡説明資料	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	62.11.27
荒砥荒子遺跡見学会資料	同上	"
村主遺跡見学会資料	同上	"
八寸B遺跡現地見学会資料	同上	"
下東西遺跡(北原B)遺跡見学会資料	同上	"
国分寺中間地域遺跡見学会資料	同上	"
鳥羽遺跡見学会資料	同上	"
上栗須遺跡現地説明会資料	同上	"
現地説明会資料 二之宮宮下西遺跡	同上	"
現地説明会資料 田篠遺跡	同上	"
二之宮宮東・飯土井上組遺跡の調査成果(1)	同上	"
東京都埋蔵文化財センター年報 7	(財)東京都埋蔵文化財センター	"
名古屋市博物館だより 59	名古屋市博物館	62.12.2

書名	寄贈者	受入日
有東梶子遺跡	静岡市教育委員会	62.12.3
駿河 楠ヶ沢古墳群	同上	"
静岡県浜松市 四ツ池古墳群	(財)浜松市文化協会	62.12.5
浜松市半田山遺跡(V)発掘調査報告書	浜松市博物館	"
龍門池遺跡	(財)浜松市文化協会	"
調布の文化財 第2号	調布市郷土博物館	62.12.7
所報 吉備 第3号	岡山県古代吉備文化財センター	"
特別展 霞ヶ浦の貝塚文化	茨城県立歴史館	"
大館遺跡群 大新町遺跡・大館町遺跡 昭和60年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会	"
小都市文化財調査報告書 第40集	常松 幹雄	62.12.8
流山市立博物館調査研究報告書 5	流山市立博物館	62.12.9
諏訪山33号墳の研究	若松 良一	62.12.10
山梨文化財研究所報 第2号	(財)山梨文化財研究所	62.12.15
おおとね Vol. 9 No.2・3	千葉県立大利根博物館	"
高岡塚古墳発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	62.12.17
久留里城址資料館年報 8(昭和61年度)	君津市立久留里城址資料館	62.12.21
弁天貝塚 I	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	"
とまこまい埋文だより No.8～No.10	同上	"
苦小牧東部工場地帯の遺跡群 II	苦小牧市教育委員会	"
なりた No.41	成田山靈光館	"
日本の郷土玩具	同上	"
京都府埋蔵文化財情報 第25号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	62.12.23
滋賀埋文ニュース 第92号	滋賀県埋蔵文化財センター	62.12.25
わらびて No.38	岩手県立埋蔵文化財センター	"
日本の古代 13 心のなかの宇宙	中央公論社	63.1.4
立命館大学文学部学芸員課程研究報告 第1冊	立命館大学文学部	"
能島遺跡 昭和61年度発掘調査概報	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	63.1.6
瀬名遺跡 昭和61年度発掘調査概報	同上	"
原川遺跡 昭和61年度発掘調査概報	同上	"
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第11集	同上	"
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 第54集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	63.1.8
同上 第55集	同上	"
同上 第56集	同上	"
同上 第57集	同上	"
同上 第58集	同上	"
同上 第59集	同上	"
同上 第60集	同上	"
同上 第61集	同上	"
同上 第62集	同上	"
同上 第63集	同上	"
同上 第64集	同上	"
同上 第65集	同上	"
賀茂学園都市開発整備事業地(西高屋地区)内遺跡群 II	同上	"
年報 II	同上	"
遺跡がかかるひろしま	同上	"

書名	寄贈者	受入日
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書IV-2 特別史跡『彦根城』	(財)滋賀県文化財保護協会 同上	63. 1. 8 〃
葦火 11号 とまこまい埋文だより No.11	(財)大阪市文化財協会 苦小牧市埋蔵文化財調査センター	63. 1. 11 63. 1. 14
下総町の遺跡と文化財 分布地図・分布表	下総町教育委員会	〃
千葉県下総町成井寺ノ下 I 遺跡発掘調査報告書	成井寺ノ下 I 遺跡調査会	〃
滋賀埋文ニュース 第93号	滋賀県埋蔵文化財センター	63. 1. 18
年報 1 昭和60年度	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	〃
琉大史学 第15号	琉球大学史学会	〃
真砂遺跡	文京区真砂遺跡調査会	63. 1. 21
埋蔵文化財ニュース 58	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	63. 1. 22
絹糸商八木下要右衛門屋敷跡調査報告書	八王子市教育委員会	〃
山梨文化財研究所報 第3号	(財)山梨文化財研究所	63. 1. 25
長野県埋蔵文化財ニュース No.23	(財)長野県埋蔵文化財センター	63. 1. 28
京都府遺跡調査報告書 第8冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 同上	〃
京都府遺跡調査概報 第26冊	山梨県埋蔵文化財センター 同上	〃
山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第22集 同上 第29集	山梨県埋蔵文化財センター 同上	63. 1. 30 〃
埋蔵文化財 愛知 No.11	(財)愛知県埋蔵文化財センター	63. 2. 1
名古屋市博物館だより 60	名古屋市博物館	〃
昭和62年度 千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	〃
昭和62年度文化講演会 稲荷台1号墳出土の「銀象嵌有銘鉄剣」をめぐって	市原市教育委員会	63. 2. 2
神奈川県厚木市下依知吾妻坂古墳前期古墳の調査概報	縄文文化研究会	63. 2. 3
鳥取埋文ニュース No.19	鳥取県埋蔵文化財センター	63. 2. 4
浜松市博物館だより Vol. 6 - 3 No.20	浜松市博物館	〃
図説検証 原像日本 1. 人間と生業 列島の遠き祖先たち	旺文社	63. 2. 5
企画展 世田谷の三万年 最近の発掘調査の成果から	世田谷区立郷土資料館	〃
茨城県立歴史館だより No.43	茨城県立歴史館	63. 2. 8
三重県斎宮跡調査事務所年報 1986	三重県斎宮跡調査事務所	〃
世界の大遺跡 11 日本文化の開花	講談社	〃
文化財教室シリーズ[92]、[93]	(財)滋賀県文化財保護協会 同上	〃
滋賀文化財だより No.114～No.121	(財)多摩市文化振興財團	〃
縄文文化への招待(リーフレット)	調布市郷土博物館	63. 2. 10
調布市郷土博物館だより No.27	大阪府立泉北考古資料館	〃
泉北考古資料館だより No.31	大田区立郷土博物館	〃
企画展 松竹キネマ蒲田撮影所	群馬県立歴史博物館	63. 2. 15
群馬県立歴史博物館 博物館だより No.29	軽部 一一	63. 2. 17
小橋遺跡	滋賀県埋蔵文化財センター	63. 2. 19
滋賀埋文ニュース 第94号	小山市立博物館	63. 2. 22
小山市立博物館 博物館だより 7	立教大学 学校・社会教育講座	〃
MOUSEION No.33	新人物往来社	63. 2. 26
歴史読本 昭和63年4月	長野市立博物館	〃
長野市立博物館だより 第10号	同上	〃
第18回企画展示 「子どもの生活誌」—民話調査の記録—	別府大学付属博物館	63. 2. 27
別府大学付属博物館だより No.29		

書名	寄贈者	受入日
講演 アジア稻の起源と稻作圏の構造	別府大学付属博物館	63. 2. 27
唐橋遺跡	(財)滋賀県文化財保護協会	63. 2. 29
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XIV-5	同上	"
埋文とやま 第21号	富山県埋蔵文化財センター	63. 3. 3
平賀	印旛村教育委員会	63. 3. 4
福井市立郷土歴史博物館館報 復刊第9号	福井市立郷土歴史博物館	"
同上 復刊第12号	同上	"
石川れきはく 第6号	石川県立歴史博物館	"
調査研究ニュース 第14巻	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	63. 3. 5
草戸千軒町遺跡 第34次発掘調査概要	同上	"
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告 第17集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
歴史研究 3月号 第322号	金光 直敏	63. 3. 7
ひろしまの遺跡 第31号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	"
一宮市博物館 博物館だより No.2	一宮市博物館	"
縄文文化研究部会紀要 1	帝塚山考古学研究所	"
歴史考古学を考える—古代瓦の生産と流通 1-	同上	"
柏市埋蔵文化財調査報告書	柏市教育委員会	63. 3. 9
流山市埋蔵文化財調査報告 Vol. 1	流山市教育委員会	63. 3. 10
同上 Vol. 2	同上	"
同上 Vol. 3	同上	"
千葉県流山市下屋敷遺跡発掘調査報告書	同上	"
葦火 12号	(財)大阪市文化財協会	63. 3. 11
滋賀埋文ニュース 第95号	滋賀県埋蔵文化財センター	63. 3. 12
千葉県鎌ヶ谷市谷地川No.1 遺跡発掘調査報告書	鎌ヶ谷市教育委員会	"
千葉県鎌ヶ谷市中向遺跡確認調査報告書	同上	"
福岡市埋蔵文化財センタ一年報 第6号	福岡市埋蔵文化財センター	63. 3. 18
半田山古墳群(IV中支群-浜松医科大学内-)	浜松市博物館	"
富塚地蔵平遺跡発掘調査報告書 II	同上	"
箕谷古墳群	八鹿町教育委員会	"
飲食史林 第7号	佐原 健(奈良国立文化財研究所)	63. 3. 22
千葉県立上総博物館報 第64号	千葉県立上総博物館	"
特別展 人形と仮面	同上	"
昭和62年度 千葉県遺跡調査研究発表会 発表要旨	千葉県文化法人連絡協議会	63. 3. 23
わらびて No.39	岩手県立埋蔵文化財センター	"
日本の古代 14 ことばと文字	中央公論社	63. 3. 24
ふるさとの考古資料 よみがえる私たちの歴史III	日立市郷土博物館	"
いわき市埋蔵文化財調査報告 第17冊	(財)いわき市教育文化事業団	"
同上 第18冊	同上	"
久世原館・番匠地遺跡の概要 II	同上	"
浦和市立郷土博物館館報 第31号	浦和市立郷土博物館	63. 3. 25
昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要	(財)京都市埋蔵文化財研究所	"
日本の古代 14 ことばと文字	中央公論社	"
とまこまい埋文だより No.12	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	63. 3. 26
おおとね Vol. 9 No.4	千葉県大利根博物館	"
現地説明会資料 矢田遺跡・椿谷戸遺跡	吉井町教育委員会	"

書名	寄贈者	受入日
川福遺跡	吉井町教育委員会	63. 3. 26
蛇塚古墳	同上	"
道六神遺跡	同上	"
西場脇・長根宿遺跡	同上	"
入野遺跡 III	同上	"
東沢遺跡 折茂東遺跡	同上	"
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 VI-3 同上 XIV-3	(財)滋賀県文化財保護協会 同上	"
昭和62年度 佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告	佐倉市教育委員会	63. 3. 28
亀井(その3)	(財)大阪文化財センター	"
亀井北(その1)	同上	"
亀井北(その3)	同上	"
新家(その1)	同上	"
城山(その2)	同上	"
城山(その3)	同上	"
久宝寺南(その2)	同上	"
久宝寺北(その1~3)	同上	"
丹上遺跡(その4·6)-調査の概要-	同上	"
太井遺跡(その1)-調査の概要-	同上	"
同上(その2)-調査の概要-	同上	"
同上(その3)-調査の概要-	同上	"
小阪遺跡(その2)-調査の概要-	同上	"
同上(その3)-調査の概要-	同上	"
同上(その4)-調査の概要-	同上	"
福田遺跡(その1)-調査の概要-	同上	"
'88さいたま博覧会協賛特別展図録 はにわ人の世界	埼玉県立さきたま資料館	63. 3. 29

市原市文化財センター年報

(昭和62年度)

平成元年 3月31日 発行

発 行 財団法人 市原市文化財センター

〒290-03 千葉県市原市馬立817
TEL 0436(95)2755

印 刷 三陽工業(株)市原支店

〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348